

VOCALIZE

NO. 1

AKC ヴォーカライズ

いまちまたには
 音が満ちあふれている
 うたうことに、
 喜びを見出した人たちの
 そしてうたごえ運動の
 名のもとに
 職場の 学校の 一般の
 合唱団がなんとふえたことか
 けれど そのうたごえが
 織りなしたのは
 ただ単に 町の
 雑音でしかなかった
 うたうことの楽しさは
 うたうものにしか
 わからないが：
 しかし
 あなたは わたしは
 忘れてはいないだろうか
 ほんとうに うたう
 ということは
 自分自身の 心の中へ
 真実と 愛情を
 うたいこむことだ
 ということを

目	次	
A K C 史 昭和 29 年度の巻	桜山崇子	2
クラブを楽しく有意義なものに	大橋佑子	5
講 堂 に つ い て	丹羽好江	6
楽 に 寄 す	水野令子	7
国 歌 に つ い て	鈴木京子	8

AKC史

昭和二十九年年度の巻

櫻山 崇子

私が水野俊彦さんから部長という仕事を受け継いだのは二十八年十一月中旬のことだったと思う。初代女部長だと上級生、卒業生の皆さんから冷かし半分（としか思えない）に励まされ、まあ、できるだけやってみようと思ったが、当時は一年生の運動部強制参加が行われていていつの練習にも半分も出てこないのです。つまり能力が上らないので困った。そこで他の文化部からの呼びかけもあってその反対運動を始めたが、何かぐずぐずしている間にその強制参加は終ってしまつて力コブの入れ損のような形になつてしまい、そこで二十九年度を迎えた。

最初の行事はCBCの「私たちのコーラス」の録音だった。五月の二十日ごろではなかったかと思う。曲目はショパン「乙女の願い」、ディームス「美しい島」オッフエンバッハ「ホフマンの舟歌」、ギース「アマリス」で割に練習期間もあつたのでアマア一応型通り歌えた。しかしこのときは何かと手違いが多く全くこまつた。まず私が都築先生に、六月初めの合唱祭とあわせて指揮をお願いしたところ、ヨシヨシという返事だったので伴奏者をつくらずに私が伴奏して練習をしていた。ところがまぎわになつて、先生はそんなことは言わぬとおっしゃるので困つてしまった。そして結局、録音はほんの少しのサインがあつただけで指揮者なしだった。もう一つそのとき困つたのは、CBCの高原さんから言つてこられたとき非常に急でムリだからといって一週間ほど延してもらつた。約束の日の約束の時間になつてもいっこうCBCから来ないので電話をかけたらもう一週間先ではなかったかという返事だつ

た。これには皆が怒り、もうやめようと言ひ出したが、ここでけんかをしたのでは後々のためによろしくないというので、それではとあらためて日時を決め直した。そしてその日の約束の時間に遅れること二時間余でやつとCBCからやつてきたが、朝から皆待ちくたびれて声がすっかりかすれてしまい、まことに情ないできだった。続いて六月六日の合唱祭は「ホフマンの舟歌」と「アマリス」を歌つた。このときも先生は指揮はできぬとおっしゃるので急に永井充さんに頼んだ。このときの参加者はわずか十九人、全く泣きたくなるような人数だった。翌日一、二年の一部で試験があるとかいって、三十五人のはずが十九人になつてしまったのだつた。永井さんも急に頼んだのでさぞやりにくかつたことだろうがよくやつてくれて、とにかく済んでホッとした。

ちやうどこの前後だつたと思うがそれまで副理事だつた安藤允子さんが進学の勉強のため三年になつたらやめるからというので、副理事の選挙をやりなおしたところ水野令子さんに決つた。（このことが原因でずっと

後になって一部でもめるようなことがあったらしいが、私が二年のときに中尾さんと私が代って以来、副理事の決め直しは伝統（？）となつたらしく、ことしもまたやったようだ。

また合唱祭のころAKCの同窓会といったものを作ろうというので卒業生、在校生の代表十人ほどが集まっていろいろ討議し、意見の一致とまでは行かなかったがどうやら発足となり、アカペラ第二号も発行された。しかし要するに、それきりのものだった。

合唱祭のあと文化祭までは何も行事はなかったが、このころから文化祭の計画を立て夏休みから練習を始めた。夏休みには相当能率を上げたつもりだった。そして卒業生との合同合唱をまたやろうというので楽譜も用意したが練習に十人以上集まったことはなかった。そこで先生とも相談のうえ、混声合唱のいいのはいかにも残念だから、三年の音楽をとっている人の中から希望者に入ってもらってやろうということになった。

それから文化祭まで会場についていろいろもめ、それでもこちらの希望が通り、また加藤さんのご努力もあつて公会堂ということになった。特別出演の荒木宏明さんの件も何とか話がまとまり、やつとのことで十月二十四日朝八時半から演劇、十時から音楽会を、というところにごぎつめた。

ここではまた手違いが起つた。文化常任委のだけれどが公会堂側に音楽会がさきで演劇があとだと言つてしまつたので、当日演劇部の始める時間になつても照明の係が来なくて開演できず、八時半のはずが九時すぎになつてやつと始まつたということだった。このため時間が遅れてわれわれの方に食い込み、一時まで終ることができそうもなくなつてしまつた。そこであわてるし、都築先生は荒木さんを迎えに行かれたあとだし、公会堂の係の人がこちらを子供だと思つてか相手にしてくれず、ピアノのいすを使わせてくれない。使用料は払うからと何度言つてもダメで、とうとう低い普通のいすで始めた。おかげでピアノのひきにくいことといつたらお話にならず、皆つらかつたことだと思う。しかし一部

の終りころに都築先生が戻つてこれ頼んでもらつたら簡単に貸してくれ、それからいすを換えることができた。それにしても、今でもあのときの係のことを考えると腹が立つてならない。

一方、時間はますます足らなくなり、一部と二部の間の休憩もなしにし合唱を二曲、独唱を一曲切つてしまつた。せつかく練習したものをやれなくてほんとうに残念だつたし、皆にも気の毒なことをしたと思う。もう一つこの音楽会で困つたのは合同の混声合唱だった。さきにも述べた通り、卒業生が十人以上集まつたことは一度もなく、伴奏者と合唱を合せたことも一度もなく、卒業生の中には一度も練習に出ないで、前にやつたからと出てきて楽譜にかじりついて歌つた人もあつた。これで合唱がうまく行くはずもなく、音楽部でない三年生も少し入つていたので人数だけはけっこうあつたが、そのでのお粗末なことは情ない限りだった。私はこのとき二度と卒業生にたよるまいと思つた。しかしたよらねば混声合唱ができないというところが現在のAKCの悩みの種なの

だ。

こうした失敗もあったが、たいへん安い、ただみたいないな出演料で荒木さんに来ていただけ、少なくとも私が学校にいた三年のうちでは最も上等な特別出演だった。それにこの音楽会は生徒会側からみれば大成功だったろう。何しろ歴研の映画と別の場所で行ったのでそんなに入らないと思っていたが、音楽部員の八割以上の父兄が来られたし、日曜のこととて卒業生も他校の生徒も多く、演劇の終わるころには席が足りなくなる始末だった。合唱はまずかったが、とにかく毎年聞いてくださる方にはわれわれの努力を認めていただけたと思う。

こうして文化祭は済んだ。そして十月三十一日、栄小学校で合唱コンクール中部予選があった。皆文化祭に力を使い果たしたとみえ、このときは朝早かったせいもあるかもしれないが、声の調子も悪く、音楽会るときも歌った曲だが音楽会るときよりバランスも音程も悪かったという水野俊彦さんの批評だった。課題曲は中田喜直曲の「美しい季

節」、自由曲はネヴィン曲「ぼらのように」、指揮は私、伴奏は村田陽子さんだった。結果は十三校中七位、最初われわれの予定した通りだった。しかし菊里や金沢二水等優秀校の出なかった前年に比べて上手なところが多かったわけだから、まあ上々の成績といつていいだろうと私は思っている。

それにしても、高校の中で指揮が生徒というのは一宮と旭丘だけだった。一宮は先生の指導でやっているのだからいいが、われわれは全く自分たちだけだった。部長ということは、いまのところ生徒会の理事及び指揮者、指導者、マネージャーということと同義語になっている。それだけ全部ひとりでできるのならいいのだが、絶対にできずいい加減なものになってしまった。先生がもう少し手を出してくださいされば……と私は思っている。

とにかく、これで二十九年度の行事は全部済んだので、十一月中ごろ水野令子さんにバトンを渡した。正直なところ全くホッとした。

(了)

A K Cヴォーカライズ
維持会員名(○印 委員)
…三一・一・一八…

5 回 生 ○浅井 幸三、

棚村 啓子

中島 重子

6 回 生 浅野 みち

足立 孝子

加藤 昌子

鈴木 寛

世古伊都子

田中 蓉子

松沢 暢夫

○水野 俊彦

安田 好江

山口ひで子

7 回 生

○桜山 崇子

佐々 知子

中尾 桂二

西川 弥子

福岡二三子

村田 陽子

クラブを楽しく有意義なものに

大橋 佑子

私たちは高校に入学すると同時に数多くあるクラブの中から、自分の個性にマッチし、これなら自分も皆と一緒に楽しくやっていけるという自信の持てるクラブを選んで入部したのですが、はや二学期も過ぎ去った今では、何だか期待はずれだったような気がしてさびしくなるときがあります。これは、ひとり私のみならず、一年生の大部分の人たちもきって感じていられるのではないかと思います。また、二年生の方々からも「あまりクラブが楽しくない」とか「勉強が忙しくてクラブに出席できない」とかいろいろのことを聞き私自身が何だかよりいっそうさびしくなるような気がするのです。そして今のクラブが何とか楽しいクラブにならないものかという考えを考えてみるのですが、結局は私の一人の力

ではどうにもならないことになってがっかりすることがあります。私たちは現に音楽クラブに所属している限りは、そのことによって、少しでも生活に楽しさと潤いがあるの でなければ、私たちはクラブに出席すること、一時間もの貴重な時間を浪費していることになります。そこで、そんなことなら勉強をするか読書をしている方がどれほど有意義なことであるかもしれません。が、しかし、もし私たちが音楽クラブに出席することによって、気分も転換し、生活に楽しみと潤いが持てたらそれほどよいことはないと思います。なぜなら、私たちの趣味にマッチしたクラブ……それが音楽クラブなのですから。では、私たちのクラブを楽しく、また利用価値の大きいクラブにするこ とは、果してムダであり、むづかしい

ことでしょうか。決してムダであるはずがありません。そして、それをひとりでなし遂げようとするには幾多の労苦と困難が伴うかもしれません、クラブ員全員が一つになって行えば、決してむづかしいことはありません。またそうすることがクラブ員としての義務であると同時に権利であると思います。

私たちはいつでも、みんな、楽しいクラブ、潤いあるクラブを望んでいるのです。ですから、それらを私たちの手で、頭脳で作り上げていこうではありませんか。そのために、「ア・カペラ」は私たちの心と心の交歓場所であり、私たち一人一人の声の集合によつてかもし出されるコーラスの美しい響きは、私たちの生活に楽しさと潤いを与えてくれる唯一のものではないでしょうか。

その他、クラブを楽しくする方法、言いかえれば私たちの生活を楽しむ方法、雄大な野山に出て美しい自然に心から接して、深い感動を呼び起こされたときにおのずから発せられる歌声は、教室内におけるそれとは全く違ったたとえ

ようもない美しさが感じられるもの
 のです。また、クラブに関するいろ
 いろな問題について、全員が真剣に
 考え、意見を交換し合う機会を作る
 ことも、その一方法ではないかと思
 います。

講堂について

丹羽 好江

このように考えれば、方法はいくらで
 もあるのです。ですから、私たちはお
 互いに協力し合って、現在のクラブを
 もっと楽しいものにしようではあり
 ませんか。

私たちは幸せである。
 なぜならば、講堂の完成も間近に
 迫り、それができ上がれば私たち音
 楽部員が中心となつて学校祭の一部
 をすることができるようである。

今まで（といっても私は昨年の事
 しか知らないが）はよそを借りてや
 っていた。何にしても借り物なんて
 あまりいいものじゃない。やはり、
 自分たちのものが一番だ。昨年は、
 市公会堂であつたが、今は日本人が
 自由に使えないせいもあるが、時
 間が少々延長したといつて部長さん
 がたいへん困らされたこともあつた。

これから思う存分使えるし、あちこ
 ちにわかれてするために半分しか見
 られなかつたなどということもな
 くなるだろう。

それに場内は、都築先生の、ご研究
 によつて、音響効果などいろいろと
 考へてあるそう。先生はよほどご自
 慢らしく、音楽の時間にもう二度もそ
 のことを聞いた。一度目はまだ工事を
 始めたばかりでほんとうの計画。この
 間、二度目の説明を聞いたが、やはり
 理想通りにはいかないものらしく、最
 初のときは少々違つていたように
 思う。舞台が横に平たく奥行きがない

のだそう。私たち音楽部はどうにか
 なるとしても、演劇部の人たちは困る
 だろうとよけいな心配をしたりする
 だけどころに不足はないか
 ら、もう文句はよそう。

それにコンサート用のピアノが一
 台買つていただけそう。これは講
 堂が建つというのを聞いたときに
 当然予想したが、すぐ買つてもらえる
 かなと少々不安に思つていた。だけ
 どもし買わないとしたら、どんなこと
 になるだろう。あの今音楽室にある骨董
 品をま新しいステージへ持つていつ
 たところなど想像してごらんない
 ……。

このようにピアノはあり、ステージ
 はでき、器はもう用意された。次は中
 身をよく練ることを考えねばならな
 い。第一回演奏会としてふさわしい
 つばな音楽会になるように努力しな
 ければならない。

さあ、お互いにがんばろう。

楽に寄す

水野 令子

楽に寄す……シューベルトを思い出される人があるかもしれない。が、私は常にわれとともにある楽！われに喜びを与えてくれ、あるときはまた、われに悲しみを与えてくれるそんな楽に寄すのである。

私が初めて音楽に魅せられたのは中学二年のときであった。（前から音楽は好きであったが、鑑賞の面において）二、三の友と連れ立って初めて音楽会を聞きに、というよりも見に行った。松内和子のリサイタルであったが、初めて行った会場の何とも言いがたいすばらしい雰囲気と美しい楽のために私はボーッとてしまい、私の心から楽は焼きついて離れないものとなってしまうた。それから後、レコードに、コンサートにおいて、たびたびベートーヴェンを聞き、そしてショパンを、チ

ヤイコフスキーを現代音楽をと幾多の音楽と親しんできた。

ショパンを聞いてそのあまりの美しさに心を打たれ涙を流し、リストのあの情熱的な言葉の流れに激しく燃え上がりくる何ものかを感じる。このように楽は私にいろいろのものを与えてくれる。ベートーヴェンの「ロマンス・ヘ長調」は美しいヴァイオリンの響きに乘せて甘悲しい旋律を切なく聞かせてくれ、ショパンの「ノクターン・変ホ長調」も私に深い感動を与え私の心を強くゆすぶり動かす曲である。

私は別段、曲の好ききらいはしない方であるが、ショパンの「練習曲第三番（別れの曲）」、グリークの「ピアノ協奏曲」、ベートーヴェンの「月光奏鳴曲」等、万人に愛され親しまれている曲ではあるが私も特に愛する曲

である。

また一方楽は私に歌うことをもたらしてくれ、いつも私を慰め安息を与えてくれる。歌は喜びとともにあり、悲しみとともにあって、われとともに喜び悲しんでくれるのである。

私は幼いころに人を集め歌ってきかせることが好きで、手振り身振りよろしく歌ったことがよくあって、母にもよくこのことを聞かされ、また自分もうつすらと覚えていた。今思うと顔が赤らんでくるような思いがするのであるが、もうそのときから楽は私に一種の楽しみを与えてくれていたことは確かであろう。

それから年を繰って考えてみると小学校時代であるが、そのときも音楽の時間は楽しい時間であったことはいうまでもない。が、私はもう六年生のときに変声期を迎え、今のようなおとなっぽい声になってしまい、小学生らしい童謡を歌ってもピンとこないのであまり人前では歌わなかったが、一人でいるときや心の中では一番好きな歌「灯台守の歌」をよく口ずさんでいたものである。

中学生になってからは、二年生のときに私の下手クソな歌が先生に認められ(?)て、楽は一段、いや二段と好きになってしまった。その歌の試験のときに歌った「庭の千草」と音楽会るときソロで歌った「早春」等好きでよく歌った。「椰子の実」も好きだった。

高校生活に入ってからもちろん楽を愛しつつけている。お金があまりないのでコンサートには遠ざかりがちであるが……。いつも歌は上手ではない。ほめられたこともあまりない。が、しかし、好きで好きでたまらない。歌うことも観賞すること！ 永久に変化することのない私の偽らざる信条である。学校生活を離れても、年月を経ても、私はいつまでも愛しつつける。
楽がこの地上から去らん限り、われのある限り……。

国歌について

鈴村 京子

一年ほども前のこと、友だちからアメリカの国歌の楽譜を送っていただき、それ以来各国の国歌に興味を持つようになった。
アメリカのものは次のような歌詞で始まっている。

友よ見よ

夕やみに決意して掲げた

あの旗

いま暁の光を浴びて毅然と

……

……

自由の土に 勇士の家に

この国歌は、若い法律家であるフランセス・スコット・キーによって一八二二年からアメリカと戦っていたイギリス軍艦上での印象をもとに書かれたものです。その当時、アメリカは独立のためにイギリスと戦っていた。一八一四年のこと、彼はメリーランドの重要都市を攻略しようとしていた

英国艦隊とマックヘンリー要塞にたてこもる防衛軍とが今にも射撃開始しようとしていたとき、捕虜釈放交渉のため英国軍艦にいたのです。味方陣地に対する砲撃の激しくなる中に、彼は要塞の中に掲げられた星条旗を不安の中に見守ったのです。ちょうど砲撃の開始されたのは夕やみの中に最後の光が消えていくころでした。翌朝、夜明の最初の光がさし始めるころ、キーの目に映ったのは、要塞の上について朝までためきつづけた星条旗だったのです。ついに英国軍は独立軍に敗れ、直ちにキーは歌詩を書き、作曲がなされ、百年も後に国会の議決をもって正式に国歌として制定されたのだそうです。

かの有名なフランス国歌は、まだフランスが大革命後間もないころ、一八世紀も終りに、マリーアントアネットの兄であるオーストリア公兼神聖ローマ皇帝やプロシア王が自国に革命

が波及するのをおそれて圧力で抑えようとしたため、仏議会の義勇兵は愛国熱にわきたち、マルセーユの義勇兵は新しい「行け祖国の子らよ、光栄の日は来たれり」を歌いながらパリに入った。これが一八七九年には「ラ・マルセイーズ」となったのです。

残念ながら英、独の由来は知らないが、英国のものは女王を賛美したものであり、ほとんどの国が、オーストラリアも「われらの土地緑の国」とうたっているように、その愛国心を表わしている。歌いやすいことはもちろん、それにより各国の国民性といったものがわかり真に興味深く思います。

こういった西洋ものと違い、神秘的である東洋、特に日本では全く違った旋律を持つ短音階的な曲が国歌となっていて、現代のわれわれにはちよつとピンとこないところもあるが、その国民性を表わすものとしてこれでよいのだとも思う。しかし、その意味がいまだにはつきりわからず、ただ口を合せて歌っているだけというのは、つまらなくもあるし、西洋音楽というもの

に慣れている私たち学生にとってはたよりなくもあると思うのは私一人だけではないと思います。近年、生活が非常にスピード化して、あのテンポののろい曲を歌いながらあくびして

◇ おわび…30年度のAKC音楽会はあいにくとウィークディに当り、当初予定しました在校生・卒業生合同混声合唱が所期どおり行えなかったことは、まことに残念でした。数度の合同練習に参加されながら、当日ご来臨いただけなかった各位におわび申し上げます。また音楽会案内が遅れたことは、当方の手落ちで申し訳ありません。

◇ 昨年9月発足の当会は運営の円滑を欠き、ご迷惑をおかけしたと存じます。何ごともなし得ず、いたずらに時日を経過したことを遺憾とし、こんご十分留意する所存であります。

旭丘高等学校音楽部

AKCヴォーカライズ

副会長 水野 令子

会 計 浅井 幸三

編集後記

いる人のあるのをときどき私は見かける。

いずれにしても、私の国歌マニヤはまだ序の口、これからアジア、南米の方を調べてみたいと思っています。

○：講堂兼体育館だか体育館兼講堂だか知らないが、とにかく落成。多年念願の竣工成りますオメデトウ。
○：それにしても残響が大きい。コーラスもツヤがなくなる。しよせん体育館むき。

○：「ア・カペラ」企画倒れとなり、せつかくの原稿死文化するのをおそれかくてピンチヒッター起用、講堂竣工にささやかに祝意を表して。

○：シロウトの苦しまぎれの編集、印刷、いたって殺風景。陳謝。(Z)

ヴォーカライズ 第一号
昭和三十一年一月十九日発行
AKCヴォーカライズ

31.1.19

昭和 30 年度
旭丘高校音楽部発表会
第 一 部

旭丘高校講堂

- | | | | | |
|---|----------|----------------------------------|----|-------|
| 1 | 女 声 合 唱 | 歌 の 花 園
(名曲合唱集) | 指揮 | 石井よし子 |
| | | | 伴奏 | 丹羽 好江 |
| 2 | ソプラノ独唱 | ラ・スパニョラ スペイン民謡
いとしのジェイン ビショップ | 大橋 | 裕子 |
| | | | 伴奏 | 清水 早苗 |
| 3 | ヴァイオリン独奏 | スプリング・ソナタ
第一楽章 | 城所 | 明子 |
| | | ベートーヴェン | 伴奏 | 松島 久子 |
| 4 | ソプラノ独唱 | 苦しめたまわで チェスティ
勝てり勝てり カリッシーミ | 金谷 | 京子 |
| | | | 伴奏 | 丹羽 好江 |
| 5 | 女 声 合 唱 | 秋 日 抄 川口雅功
マリアの子守歌 レーガー | 指揮 | 水野 令子 |
| | | | 伴奏 | 伊藤瑜美子 |

第 二 部

- | | | | | |
|----|---------|------------------------|----|-------|
| 6 | 女声合唱 | 森 の 歌
村 の 娘 | 指揮 | 竹内 英子 |
| | | キュッケン
イタリア民謡 | 伴奏 | 天野 敦子 |
| 7 | ソプラノ独唱 | 忘れさせたまえ
夢 | 丹羽 | 好江 |
| | | ガスパリーニ
トスティ | 伴奏 | 金谷 京子 |
| 8 | テノール独唱 | さらばナポリ
セレナーデ | 永井 | 充 |
| | | イタリア民謡
トスティ | 伴奏 | 松島 久子 |
| 9 | アルト独唱 | 白 月
ラ ル ゴ | 水野 | 令子 |
| | | 本 居 長 世
ヘンデル | 伴奏 | 丹羽 好江 |
| 10 | ピアノ独奏 | アヴェック・バリエーション
シューマン | | 伊藤瑜美子 |
| 11 | 女 声 合 唱 | ウィーンの森の物語
J. シュトラウス | 指揮 | 水野 令子 |
| | | | 伴奏 | 金谷 京子 |

井口基成ピアノ独奏

1. モーツアルト ソナタイ長調 K331 「トルコ行進曲」
2. ベートーヴェン ソナタハ長調作品 53 「ワルドシュタイン」
3. ショパン (イ) ノクターン ロ長調作品 62 ノ 1 (ロ) バラード
第三番変イ長調作品 47 (ハ) ワルツ ホ長調遺作
(ニ) ポロネーズ
4. ドビュッシー プレリユードより
(イ) 第一集第 10 曲「沈める寺」(ロ) 第 2 集第 12 曲「花火」
5. リスト ハンガリア狂詩曲 第 2 番嬰ハ短調

1956.3.5 (月)

VOCALIZE

NO.2

旭丘高等学校音楽部・AKCヴォーカライズ機関紙

メンタルハーモニー

鈴木 寛

(六回生)

冬の寒さの中にも春のかおりをかすかに感じながら、空に向かって大きく息を吐いてみる。白い小人がフルートを吹きながら、クルクル輪を描き大気の中に溶け込んでいく。それから正面を見る。雪だけの水が、家の軒をスルスル伝って、ポタリと水たまりの中に落ちる。水の表面がキラキラと輝く。赤いセーターの女の子が、足の倍もあるゲタをはいて走り過ぎる。カラコロという音が気持よく耳の中にしみ込む。春だね！口笛を吹いてみる。口笛までが空気に中に溶け込んでしまう。みな溶け合ってハーモニーをつくる。日陰にある氷さえ春の中に溶け込んでいく。曲の名は春だつてさ！さあ君、歌おうよ。ねえみんな！

先日の合唱を聞いて音楽部の皆さんの間に何か欠けているように感じました。小生の考えが間違いだつたら幸に思います。

メンタルハーモニーの上に立ち、深いニュアンスのある音楽部であらんことを。

「ヴォーカライズ」第二号

「音楽会を顧みて」

目次

メンタルハーモニー (鈴木 寛)	1
親密さを… (西川 弥子)	2
音楽会所感 (景山幽香子)	2
合同合唱の反省 (浅井 幸三)	3
音楽会を反省して (城所 明子)	4

ACAPPELLA

ア・カペラ 第三号

原稿募集

○…AKC機関誌(第一号・53年3月19日) AKC同窓会会誌(第二号・54年9月1日) から三転してAKCヴォーカライズ会誌となった「ア・カペラ」第三号を四月発行の予定。みなさんのご協力をお願い申し上げます。

○…内容に限定いたしません。特に音楽関係のものを歓迎します。枚数自由。

締切日三月二十日(火) 左記編集委員のいづれかへお送りいただければ幸いです。

発行日四月上旬の予定、ヴォーカライズ維持会員および在校生に配布します。

○…編集委員

金谷京子(在・九回生) AKC新年度部長
水野令子(卒・八回生) ヴォーカライズ副会長
田中蓉子(卒・六回生) アカペラ第一号編集委員
浅井幸三(卒・五回生) ヴォーカライズ会計

親密さを…

西川 弥子
(七回生)

ウィークデイでしたので午前中の在校生のが聞けなくて残念でしたが、せめて井口先生のだけでも思い能代さんと午後の授業をサポート出かけました。立派な講堂で立派な演奏が聞けたのはうれしさと感激で胸が一ぱいでした。私たち、三年間毎月寄付していましたが、在学中とうとう入れず卒業してしまいました。講堂に入ったらそんな恨みはすっかり消え、母校がこんなにも立派に発展して…と心から祝福する気持でした。ピアノの曲目も皆によく知られたものが多く、軽い気持で聞くことができ、たいへんよかったです。自分がよくできないせいか指の動きばかり注意していました。そのことについては述べるまでもないとおもいます。

それにしても、ウィークデイのせいか、卒業生が少数しか来ていなかったのは返す返すも残念でした。また来た人たちが集まることもなく、ただ写真を書いただけで、特に親しい者同士が

集まる程度でそれぞれ別れてしまったのも残念でした。私などぼんやりしてしまっていたので写真を見てからあらあらあの方もいらしたのかと思ったりはあります。せっかく遠くからいらした方もあるのですし、その後の様子や出てこられなかった人の現在を知ってる方はその人のようすを話したりする会を持ちたかったと思います。そしてAKCの卒業生、在校生をもっとしっかりと一つのものにまとめ親密さを増したいものだと思います。

音楽会所感

景山 幽香子
(五回生)

AKCの音楽会へ行くたびにいつも思ったことでした。すばらしい音楽室とピアノができないものかしらと。これは私がAKCへ入ったときからの望みでしたし、学校を出てからも想いつづけたことなのです。今までのピアノはとても古い品でしたもの。予算の関係で高音部と低音部の二つに分けて修理しなければならぬようなピアノでは音痴になるかもしれないと冗談の出るほどだったのです。ペダルを踏むところの戸を開けると中に

は一貫目いくらで売りたいくなるような楽譜が一ぱい押し込んでありました。音響の悪かったのはそのせいかもしれない。上の方を開けていたはずなのに人がカギや鉛筆を落したの一度や二度のことではありませんでした。とにかく今までに解体しなかったのが不思議なくらいです。

こんなありさまだだったところへ、今度はずばらしいピアノが入ったというので、何をおいても見に行かなければと三時間近くも電車で揺られて拝見させていただきました。ところが何千万円かの講堂にすわった百万円のピアノ、昔に夢見たことが実現したのにいっこうに楽しくないのです。何か親しみのない、そういえば公会堂のピアノも同じような感じを抱かせました。なぜこんな感じを受けるのかしらと四国の毛利氏とも話合った(じやなくて書き合った)ことなので、多分講堂が体育館兼用になっている、そのうえに何となく飛行機の格納庫のような感じを与えているからではないでしょうか。皆さまはどうお感じになりますか？ もう少しクラシックなところがあってもよいと思うのです。ピアノ・リサイタルやレコード・コンサートのあっても、頭の上にバスケットの用具がぶら下がっていたのでは、いつ落ちて

くるかといらぬ心配も起るでしょうし（私だけかもしれないが）何といつてもあそこで運動するのはよくないと思います。

私の卒業後（詳しくいえば転校後）にできたのでひがんでいるのじゃないかとお思になる方もあるかと存じますが、ちよっぴり年をとりました。私も一号室人種には昔なつかしい。ポール紙でできた防音装置？のある鶏小屋のような中に置かれたオンボロピアノに愛着を覚えるのです。

最後に一つ。一号室やピアノのカギで他人のカバンを数珠つなぎにしたり、スリッパの判コを押すようなボーヤが一人もなくなつて、静かなWコーラスだけになつてしまったのはとても残念なことでもあります。受験のためには心を潤す音楽など不要とおっしゃるのでしょうか。

合同合唱の反省

浅井 幸三

（五回生）

合同合唱という名目で晴れがましくステージの一員となるときほど、うれめたさを感じずる瞬間も多くはない。

今度の音楽でもやはりそうした感慨をぬぐい去ることはできなかった。ほとんど……といつていいほど合同練習もせず、音程が満足でないのは勿論のこと、はたしてうまく調和しているのかどうか……そんなことは見当もつかない。ただ当日顔を出したというだけで合唱要員の一人として数えられ、内心どんなに戸惑いを感ぜながら舞台に出ることか。

例年こうして音楽会を飾る（？）在校生・卒業生合同の混声合唱（それは考えようによつては音楽会きつての呼び物となるはずでもあるのに）がいつも低調であることは恥ずべきではあるまいか。もとより時間の制約もありいろいろな障害もありはするから大きな望みを託そうとは思わない。合同合唱を企て参加することだけでも十分意義はあるし、うまく……とのみ願うことが決して本旨ではないのであるが、だからといって練習をおろそかにし、ほとんどブツツケ同然という無謀さで「合同合唱」を売物にしていいということにはならないはずである。たとい十分ではなくともこれが自分たちとしては最善を尽したのだと得心しての合唱でありたいものだ。その意味で今年も参加したくないと思つていた。しかし正直なところこの「合同合唱」は聞くにたえない。自分のはぐくまれ、そして愛

するAKCの合唱でなかったらどんなに気楽なことであろう。その合唱を聞いて「そら、またこのザマだ」と聴衆の一人として批判する立場になるよりは、たとい酷評され、また悔いを残そうとみんなと一緒に歌おう……そう思つて舞台に出たのではあつたが、暗い聴衆席に向つて心中慚愧の念を訴えるのも昨年度と少しも変りはしなかった。

たしかに、音楽会は年一度の行事にしかすぎぬ。合同合唱の時間は十分にも満たぬ。一度やつたことのある曲だからななどという安易な考えで合同合唱をながめることに反省すべきではないだろうか。日ごろ何のつながりもない在校生にまじつて卒業生風を吹かせるのはあまりにもおこがましいくはないか。もっと認識し合い、親近さを保つてのうえでがっしうしたいと念ずるものである。

合同合唱が在校生と卒業生を結ぶ唯一のものであり、卒業生にとつて楽しい瞬間であることには異議を立てないが、それは同時に在校生にとつても、また聞いている人たちにとつても同じく感銘深いひとときであつてほしいものだ。だれもが明るい気持で合同合唱に臨めるように……と念じて一言した次第。

音楽会を反省して

城所 明子

(在・九回生)

十八日の体育館兼講堂の落成式に続いて、十九日、竣工記念学校祭の一環として私たち音楽部の発表会が行われた由ですが、いささか所懐の一端を述べてみることにいたします。

待望の講堂が完成して、かおり新しい晴れの舞台開きはまったく清純そのものでありました。そして喜びと感謝の気持……この深い感謝は何ものにも換え難いものでございました。恒例の音楽会とはいえ本年はこんな意味でたいへん意義深い発表会であったと思います。しかし昨年と比べてやや内容(特に量において)が貧弱であったように思います(器楽演奏もせつかくの新しいピアノです)。従って学校祭の雰囲気には簡素すぎた感もありましたが、クラブ員の積み上げてきた努力とその成果は十分認識されてもよいのではないかと思います。また個々の充実性はいうまでもなく、全体が組織的であること、メンバーの気持の統合、協同、そ

こにほんとうの成果が表現されていたことも事実であったと思います。

音楽会の舞台性芸術といった点においてはプログラムの組合せは大体よくできていたと思いますが、舞台照明がもう少し落ちつきあるものであったなら雰囲気をとんとぶ音楽がいつそう立派な美しいものになったと思います。また瞬間芸術といった面においてその瞬間的効果が十分でありました(場内の関係からかも知れませんが)。もう少し音楽に対する愛情をもって私たちの姿を知っていただきたかったのです。そして私たちもこの困難性を情熱と若さで克服すべきだと思います。また曲目の選択もそれに冠する重要な要素で、その雰囲気に適し、その瞬間性微妙美が明確に表現され、聴衆を引きつけるだけの豊かさのあるよう注意せねばならなかったと思います。一方舞台の音響効果の点では少し反響が大きすぎた感じもいたしましたが、これは体育館兼講堂という点でやむを得ないとは思いますが……。

一番残念に思いましたことは男の方の参加が低調であることです。人間生活を最も豊かにしてくれるものは何と云っても芸術だと思っています。そんな意味でもっと多数の方々が音楽に理解があったらと思います。卒業生の皆さま方が参加く

ださいましたことは私たちにとりましてたいへん喜ばしいことでありました。

以上私の印象の二、三であります。こういった機会に自分たちの姿をよく知ってもらい、批判を受けることは伸び行く芸術のためにたいへん大切なことだと思えます。そしてこの文化祭が与えてくれるものがほんのわずかの前進であつても、それが進歩発展の美しさであることが必要であると思います。また困難性を乗り越えるところに美の世界があり、それだけ音楽のとうとさがあるのですから。従ってこの機会を前進するためのささやかな道標の一つとしたいと思えます。完成した講堂の喜びとともに、それだけ今後の発展と充実の必要がこの日深く心に銘記された一番大きな印象でありました。

音楽を愛する私たちは、その豊かな気持で心からこの芸術に自己を打ち込み、音楽の無限の、そしてまた永久の美しさ、とうとさを愛し、クラブの発展を祈つてやみません。

ヴォーカライズ 第二号

昭和三十一年三月五日(月) 発行

AKCヴォーカライズ

旭丘高等学校音楽部

編集

1956. 6. 18 (月)

VOCALIZE

NO. 3

旭丘高等学校音楽部・AKCヴォーカライズ機関紙

歌ごえは町を流れる

村を流れる

山があり 川があらうと
歌ごえは遠く流れる

歌ごえは消えはしない

滅びはしない

わざわいがあり

苦しみがあらうと

歌ごえはいつも流れる

歌ごえはとどろきはしない

鳴り響きはしない

何人で歌い 何万人で歌おうと

歌ごえは満ちあふれはしない

歌ごえは無限につづく

楽しいときには 明るく

悲しいときには 静かに

歌ごえに絶望はない

歌ごえは町を流れる

歌ごえは村を流れる

告

AKCヴォーカライズ第二年度を順調に
発展させますために皆さんのご協力をお
願います。一人でも多くの方に同好の
士となつていただきたいものと思ひ、倍
旧のご支援を期待するものであります。
なお詳細は四面にございますが不明な点
はお問合せくださいますよう。

記

一、第二年度(昭和三十一年七月一日)
三十二年六月三十日)

一、会費 金百円(ただし会誌発行費
および連絡費に充当)

一、六月二十三日(土)までに参、不参
を左記へご連絡ください

名古屋市東区×××浅井幸三
会費はあとでもけっこうです。

一、AKC出身の方にこの会をご紹介の
うえぜひ参加していただくようお働
きかけください。

準備会有志

若林 延昌(五回)

田中 蓉子(六回)

鈴木 寛(六回)

西川 弥子(七回)

水野 令子(八回)

浅井 幸三(五回)

AKC史

昭和二十八年年度の巻

水野 俊彦

今ごろになって、二年前ものことを書き並べたとて興味なきことかもしれない。またはたして思い出して書きつづれるかも疑問であるが、会誌「アカペラ」に第一号より計画されて、毎年毎年のクラブの歴史が書き残されているのに、この年（昭和二十八年年度）のみ抜かしてしまうことは残念でもあるし、また残すべきでもあると思う。従って、もはや細かいことは忘れてしまっているので、大体のクラブの活動状態を主に思い出をたどることにする。ゆえに当時活躍していただいた人々がおかしいと思われたりする、事実になりことなどを書かないとも限らないから、その点は適当に修正、削除して読んでいただかねばならないかもしれない。

さて、例年のごとく四月の新人部員を迎えたが、今年より体育部の強制入部措置がとられたために、文化クラブでは活動時間を非常にせばめられてし

まった。おまけに体育部の練習に追われ、名ばかりの入部者も相当にいたので、名簿上は多く部員を有していたようだが活動した人は少なかったようだ。

まず、クラブ内の行事として、前年の後期より始めたレコード観賞会を開いた。まだこのころは半分死にかけの卓上電蓄しかなかったし、レコード盤とてクラブ所有のものは半分割れたり、かけ古したものなど、はんぱものばかりであった。従って、部員の中で所有している人々より提供していただいてやらざるを得なかった。もちろんSPである。そのうちに学校の購入したビクターの十数万円の電蓄の使用をするようになり、一年十何万円かの予算でLPを買う計画がされた。しかしこれも数年前いろいろ失敗のあった音楽部にはそれを管理する信用はなく、結局図書館が管理し、図書部員が運営にあたった。ところが音楽のわかったような、わからない人々が買うことだから、自分たちの好みで一枚一枚計画も何もなく、行きあたりばったりで買う次第。中

には謡曲とか何かを買ったりして……結局、音楽部と話し合いをして購入するということになったようだ。後期に至って、解説とか掲示とか会場とかで図書部と音楽部の間に問題が生じ、次第に回数も減ってしまった。

クラブ員の中には器楽部と称する人たちが週一回都築顧問のレッスンを受けた。そうして全器楽室をクラブで管理し、三号室から五号室までを練習に開放したが、何分オルガンしかないので練習時間等不足がちで次第に少なくなっていく。しかし中には一生懸命連日練習をし最後まで続けた人もいる。永井君、西川さんなどをあげることができる。

この年のコーラスの活動は、五月の合唱祭と十月のコンクール、CBCの放送、それに音楽祭、PTA総会のアトラクションなどである。いずれもコーラスは時間不足、人員の入替りの多いこと、基礎的な欠陥などによりなまにえであった。このような状態から音楽会にも合唱主体の音楽部でありながら、コーラスを最小限にして個人の独奏唱、重唱などを多く取り入れた。だから、なんだか門下生発表会みたいだと評されたようだ。しかし一年生が七名もソロをやっているが、こんなことは開校以来はじめてだろう。毎年ソロの出演者で非常に問題が起るのに

反して、できるだけ多く出したためかトラブルは起らなかったようだ。

この一年間を通じて二年生の桜山さんが、入学当時より活躍していた関係上非常に援助をしてくれたし、音楽会にも大いに活躍した。二十六年（加藤清部長）に石田さんが指揮をして以来のAKC女性指揮者として、また独唱者、伴奏者として八方活躍した。：この年以來、今度は男の指揮者はかすみか雲か、姿を消してしまったようだが……。この桜山さんと同学年の村田さんも伴奏者として大いに活躍した。一年生では昨年度部長の任を果した水野令子さんなどアルトとして非常によい声質を持っていたようだ。三年生では内田さん、田中さんなど最高学年の貫録は十分であった。……前年に引きつづいてひいた田中さんのピアノは相当の精進のあとがうかがわれた。

かくして危なげなにも公会堂で最大行事を終った。今から考えると、講堂（公会堂）の建った今日、二度と公会堂では開けないのだ。このあとコンクールに臨んだが、ちょうど運動会と重なったのを強硬に午前中コンクールに参加したのだった。

このコンクールが終れば二十八年度の行事は終わったのも同然、後継の桜山

昭和30年度会計報告 (30.9.1～31.4.30)			正会員			「編集部・注」各年部長によって書かれたAKC史を昭和二十六年から三	さんにバトンを渡したかつこうとなり幕を閉じたのである。 もちろん、まだ一号室には種々の話題が残っているが、それを一つ一つ思い出すことは不可能だし大した意味もないと思う。つまりそれは個々の話題であり、一部限られた人のみに関係のあることでもあるから……。
収入	会費 (21名分)	1050	5回生	浅井幸三 棚村啓子 中島重延 若林昌子	浅井幸三 棚村啓子 中島重延 若林昌子		
支出			6回生	浅野孝子 足立昌子 加藤寛子 鈴木伊都子 世古蓉子 田中暢夫 松沢俊彦 水野良江 安田で子 山口ひ子	浅野孝子 足立昌子 加藤寛子 鈴木伊都子 世古蓉子 田中暢夫 水野俊彦 安田良江 山口で子 山口ひ子		
1.16	音楽会案内状		7回生	小川恵津子 桜山崇子 佐々知子 中尾桂二 西川弥子 福岡三子 福田陽子	小川恵津子 桜山崇子 佐々知子 中尾桂二 西川弥子 福岡三子 福田陽子		
	はがき	18 90					
	原紙	1 7					
19	ヴォーカライズ第一号						
	わら半紙	300 150					
	原紙	6 42					
	発送費	16 148					
2.7	音楽会記念写真						
	写真	13 520					
	発送費	10 115					
19	AKC送別会補助						
	茶菓代	500					
3.6	ヴォーカライズ第二号						
	原紙	2 14					
	発送費	28 252					
4.20	総会案内状						
	はがき	22 110					
	原紙	1 7					
	計	1955					

十年度までをまとめ「一号室から講堂まで」の歩みをたどってみたいと思います。もとより発表されたAKC史の中には不備な点も多く落された行事もあることと存じますので皆さまのご協力をいただき昭和三十一年度ヴォーカライズの一事業として完成させたいと存じています。なお収載した機関紙はつぎのとおり。

昭和28年度（加藤清部長）
ア・カペラ 第一号
昭和29年度（若林延昌部長）
ア・カペラ 第一号
昭和30年度（水野俊彦部長）
ヴォーカライズ 第三号
昭和31年度（桜山崇子部長）
ヴォーカライズ 第一号
昭和32年度（水野令子部長）
：本稿：

◎年度により著しく長短の差があるので大体同程度の文章にしたいと思えます。もとより私記的な面はいなめません。

A K C ヴォーカライズ

第一年度の反省と

今後の抱負

率直に言って、第一年度の昨年は失敗だった。卒業生相互の連絡という第一目標を果たすには会誌の発行が手薄であったし、在校生とをつなぐ音楽会では、ウィークデーというハンディーキャップはあつたにしろ、合同合唱もその成果はあげ得なかった。なし得た行事とてない点をみれば違算つづきの第一年度というほかない。

昨年八月曲がりなりにも発足して、当初から大々的なことをねらったのではないとしても、まず卒業生と在校生との提携を図りながら実行不能、一部在校生からは相当の批判もあつた。それに会長を引き受けてくれたはずの加藤清さんが諸事多忙のせいかまるで手をつけられず、連絡委員会（加藤、浅井、水野俊、安田、桜山、小川、水野令、金谷、丹羽、鈴村）すらただの一度も開けなかった。わずかにヴォーカライズを二度発行したことだけが唯一の収穫といえるかもしれない。

私たちは、決してムダな一年を送ったのではないはずだと信じている。音楽部

員と卒業生を統括する会という目的も、多少大きすぎたかもしれないが……。やり直しのできる間は、何度でもやり直してみたい。第二年度は卒業生だけでやってみたい。そう心して有志の打合せ会をもち大体左記の線で推進することに落ちついたので皆さんのご批判とご協力を仰ぎたいと思う。

要 項

一、目的 主として卒業生相互の親密化を図る。特に一号室で生活した人たちがお互いに近況を知らせ合っているような小さなじままりとしたものになりたい。在校生には別に働きかけないが趣旨に賛同してくれる人たちは大いに歓迎したい。

一、会員 ヴォーカライズ第一年度会員及び一号室人種と呼ばれた人たちのすべてが会員になってくれるよう呼びかける。

一、会費 年額百円

一、行事 ① A K C 音楽会にさいしては全面的に協力する。昨年までの合同合唱（混声）を行うほか男声のみの合同合唱も行う（在校生側の申入れによる）
② A K C 史編集と発行。各年度部長のまとめた A K C 史を五年分（二十六年度～三十年度）集めて音楽部が一号室

から講堂落成までに歩んだ記録として残す ③ これに付随して五年間の A K C 資料（音楽会曲目、合唱練習曲など）をまとめる ④ 会員名簿を発行して連絡の便に供する ⑤ 会紙ヴォーカライズの発行。会員諸兄弟の寄稿を仰いで楽しい会紙にしたい（隔月発行） ⑥ その他、機会に應じて会合を開く

一、役員 会員数把握後選挙で決定する。各年度一名を連絡委員に、そのほかに会長、副会長および会計を各一名とする。

一、右趣旨を徹底のうえ七月から第二年度を発足させる。

はなはだばく然としているがいわんとするところはわかっていただけのものと思う。そして第二年度を始めるにあたっては昨年以上のご支援とご批判をいただけるものと期待している。A K C を通じて今後もお互い励まし合い、ときにはハメをはずした以前にかえってみたいものだと思う。よろしくご賛同のほどお願いします。

六月十四日

A K C ヴォーカライズ

1956.11.5(月)

VOCALIZE

NO. 4

AKCヴォーカライズ機関紙

はじめに

AKCヴォーカライズは消極的な会である。過去においてAKCに籍を置いたものの連絡と親睦に資するといっても積極的に新しい事業を生み出すことのできないのは、やはり同窓会的なものであるからに違いない。わずかにニュースを交換することによって旧友の近況を得るだけ……いままで何度もこの会が遅滞し活動出来なくなつたのもしよせんはそうした消極的な性格からなのである。

うまく事が運んだ場合でも建設につながらぬさびしさを持つ会。ともするとごく一部の人のしか活用されないでしまうこの会を存続させ強力にさせるものは一にも二にもみんなの愛情であり「たより」ではないだろうか。過去においてつながれたキヅナを守るためにはきのうのことを思い出してもらわねばならない。こうして何度もやり直しをするのもAKC時代のつながりを保っておきたいからだとするれば、月に一度の会紙の発行、その会紙へ毎月「たより」をのせ、まず自分を知らせ、旧友の近況を読む……それが最も効率的な維持策にはならないだろうか。

AKCを出て合唱する機会を失つた人が多いことだろう。大声を出して歌うことなど忘れてしまった人もあるかもしれない。社会へ出て多忙に追われ音楽にも親しめないでいる人もいるに違いない。AKCを離れて、みんながばらばらになった。東京へ出た人、関西へ移った人、同じ市内にいながらほとんど顔も合わない人もある。この「ヴォーカライズ」は、それらの障害をこえて進みたい。みんなの声があふれ、だれものたよりが載る会誌でありたい。もし、きのうの生活が未来には関係がないとしても、きょうこの瞬間には、あなたをほほえませるかもしれない。

これといって大きな望みはない。何といて目的はない。ヴォーカライズの役目は、きのうときようを結ぶこと、そして、できるならば未来にまでもつないでみせたい。すべてはそこへ結びつけること。みなさんの御援助を仰ぎたい。みんなの会でありたい。

昭和三十一年十一月三日

AKCヴォーカライズ委員会

浅井 幸三・田中 蓉子

若林 延昌・西川 弥子

水野 令子

新役員決定

第二期委員選挙結果

会員登録に引きつづき九月下旬各役員の選挙を行いましたところ、締切日の九月三十日までに十九名の投票がありました。その後にも二名の方よりご

投票がありました。投票がいろいろありましたが、種々事情もあったかとは思いますが、規定どおり無効とし、十月六日の第一回委員会でご投票者の方のごとく確認いたしました。

「投票率」(会員・投票・率)

五期 65 (・八三三)
六期 107 (・七〇〇)
七期 64 (・六六七)
八期 53 (・六〇〇)
九期 10 (・〇〇〇)
計 2819 (・六七九)
締切後到着分(2)は投票のなかったものとみなして加算してありません。また九期会員は一名のため、とくに九期の委員という役は設けないこととしておきます。

各期別得票数

		会 長					副 会 長					委員
		5	6	7	8	計	5	6	7	8	計	
5期	浅井 幸三	3	2	4	2	11	1	5		1	7	1
	若林 延昌	2	4		1	7	1	1	1	2	5	1
	棚村 啓子											2
	景山幽香子											1
6期	田中 蓉子						2	2	2		6	1
	水野 俊彦		1			1	2	1	1		4	
	松沢 暢夫							1	1	1	3	3
7期	安田 良江								1	1	2	3
	西川 弥子							1			1	3
	桜山 崇子						1	1		1	3	1
8期	水野 令子						1		2		3	2
	上前 佳子											1
無効							2	2			4	
計		5	7	4	3	19	10	14	8	6	38	19

「会長」(二名||総数19票)
当選 浅井 幸三(五期) 十一
次点 若林 延昌(五期) 一
水野 俊彦(六期) 七
「副会長」(二名||総数38票)
当選 浅井 幸三(五期) 七
当選 田中 蓉子(六期) 六
当選 若林 延昌(五期) 五

次点 水野 俊彦(六期) 四
松沢 暢夫(六期) 三
桜山 崇子(七期) 三
水野 令子(八期) 三
安田 良江(六期) 二
西川 弥子(七期) 一
無効 一
棄権 三

「各期委員」(各一名)
▽第五期 票が分散したこと、会長、副会長の二名が出ていることなどから今回は専任を置かず若林延昌の兼任
▽第六期 同点者が出たことおよび上期生への偏重をさけ今回は田中蓉子の兼任
▽第七期 当選 西川 弥子 三
次点 桜山 崇子 一
▽第八期 当選 水野 令子 二
次点 上前 佳子 一
▽第九期 (空席)
なお第一回委員会では協議の結果、副会長一名が担当する会計には田中蓉子が決定。委員五名は毎月一回委員会を行い事業方針を協議する予定。ご意見、ご注意などは委員あてご連絡ください。極力善処、ご要望にこたえる所存です。

AKC

昭和三十一年度
音楽会を聴いて

◆まえがき◆

昭和三十一年度の旭丘高校音楽部発表会は九月三十日(日)午後零時三十分から旭丘高校講堂で行われた。ことしもやはり学校祭の一環としての開催だが、いつのまにやら「第九回」と冠せられた学校祭のうたいに、音楽会ももう九回を迎えたのかとちよつと感慨にふけたが……昭和二十七年の音楽会が「第四回文化祭」行事だったはずだから勘定が合わない。不思議な話である。ところで種々の事情から合同合唱を行わなかったせいがこの日顔を出した卒業生はわずかに四名。しかも通してきいたのは私一人なのらしく、ここに音楽会レポートの筆を取る次第とはなった。何分にも偏見家でシロウトときている。あらかじめ妄評はご了解を得ておく。

◆客観情勢◆

旭丘高校では九月の中旬に学力テストを実施した。AKCの練習に多大な支障を及ぼしたであろうことは想像に

難くない。それに三十年度の発表会が一月で、この間わずかに八カ月半。気分的にも落ちつかなかったであろうと同情しておく。けれど問題はもつとほかにもある。講堂(体育館)でやらなければならぬことだ。この鯨光館はしよせんは体育館だということ……まるで金山体育館で音楽会を開くようなもどかしさである。もつといい会場で音楽会をやりたいものである。講堂ができたこと、他に会場を求められなくなったことはAKCにとっては不幸であった。とくにヴォーカル関係者には気の毒だった。

◆一般的に◆

総じて練習不足、そして不安定だ。プロの運びぐあいもスムーズではなかった。ライトの消える前に合唱団員がばらばらと散って舞台を出たり、上手から出入りしたりなどはお粗末すぎる。演奏者が自分の楽器の出し入れに大わらわにさせられたり、舞台の位置を忘れたのかソリストがとんでもなくスミッコにツツ立っていたりしたのでは音楽がよくても落第。曲目の選定もあまりに幼なすぎた。それ

だけの力しかなければ仕方がないことだが、つまりは自分の力を知らないということ。もつと慎重に曲目を練るべきではなかったろうか。プログラムは全部で十これまでの音楽会中もつとも少ないナンバーである。しかし、割にバラエティには富んでいたが……。

◆合唱曲について◆

女声合唱で三ナンバー。指揮者の千本木、大橋、石井三嬢の中ではやはりヴェラン石井さんがよかった。あとの人はずうずうしさというか押しが足りない。曲に合わせてタクトを振ったように思われてもやむを得ぬほどおとなしい。「君が代」をトップに持つてくる時代感覚にはおそれ入った。これは昭和三十一年のときとなのでしょうか。合唱のできはまあまあ。声にハリがありませんでした。「流浪の民」を短期間にあげられる合唱団ならもつと大曲をみっちり練習すべきだった。ソリストの金谷、石井両嬢は貫録。ソロに出るべきでした。日本古謡は女声には楽なだけに目立たない。やはり石井さんの指揮のものに指を屈する。二十七年以来の混声合唱というところには大いに意義を認めるが、いかにせん男声四人では完璧は望めない。それに曲が曲だし、中学校級といつては失礼か。やったということを壮としたい。

◆ヴォーカルソロ◆

大橋さんも実力の七分くらい。舞台度胸も十分ついたことだろうからもつとコクのあるところをみせてほしかった。曲目も前回より退歩しているし、大橋さんにしては持味を十分に発揮できなかった。

しかし二重唱での大橋さんはよかった。所を得た感じでもいかにも大橋さんらしさがうかがえた。惜しむらくはもう一人の清水さんが練習不足のせい、それともアガったのか、音はずすことが多かった。もう少し時間に余裕があれば……そう信じている。

後藤くんはいやにアッサリ引つ込んでしまったものだ。五分間も舞台にはいなかっただろう。欲を出してもっと歌ってほしい。まだ一年生だから声が出てきていないとある先輩がいつていたようにこれからの人だし発声もひとりよがりのものなのだろうが、今度の場合は発音の不明瞭なことをいっておきたい。

ピアノストがないからというので金谷さんのソロがなかったのは何としても痛手だ。石井さんにも歌わせたかった。

◆器楽ソロ◆

オルガン・ソロなんて多分はじめてだろうが、これとてもピアノ・ソロのない苦しさかもしれない。オルガンといってもこれじゃとてもダメ。場所が体育館であることを思うといかにも通らなすぎる弱みがある。

ヴァイオリンの堀尾くんはブツキラボウに弓を引いていたが、この選曲は的を射ていた。いやブツキラボウというのはその表情が思わせるのかもしれないけれども、歯切れのいい演奏だ。

長谷川さんのシロフォンについては私からいうことはない。ただAKCの音楽会はじまって最初というアンコールの拍手が場内を圧したと言うこと、そして「荒城の月」を演奏してのちの長谷川さんの動き（シロフォンをみずから押して帰ろうとした）はたくまざる巧技であったことをしるしておこう。過去AKCの一員として舞台に立った者にとってこのアンコールのアラシはあまりにも印象的だった。私はひそかにこの日の聴衆に頭を下げたいと思った。

◆終りとして◆

楽しむだけの音楽部の活動であるならば十分生徒だけでやって行けるが、つねに進歩しそして立派な音楽会をきいても

らおうというのならやはり指導者が必要だ。先生は練習も見えてくれないし、今年は卒業生も手伝わなかったが、私たちだけとにかくやった……そう言わねばならぬ現在の音楽部の人たちに「ご苦労さま」といいたい。よくやったものです。けれどこれからは私たちも手伝いたい。今年失敗したことは来年は決して繰り返さぬこと。それが進歩の第一歩になるし、思い出深い音楽会を築くことになるだろう。そのためにあえて酷評した。ご許容あれ。

(Z)

お願い

◇会費納入方についてー
ヴォーカライズ会費未納の方はなるべく早く各期委員あるいは会計会長のいずれかへご提出下さい。
(一年分百円) おそくとも年内には。

◇みなさんのご寄稿を望みます。
音楽に関することとは限りません。ご自身の近況、感想、その月の予定などなんでもけっこうです。毎月みなさんのたよりが載るようにぜひご協力ください。
また何か事がありましたら委員あてご連絡願います。微力ながらお力ぞえできることがあるかもしれません。「ヴォーカライズ」を盛り立ててください。

1956.9.30

昭和 31 年度

旭丘高校講堂

PM 0.30～

旭丘高校音楽部発表会
プログラム

I

- | | | | |
|-------------|---------------------------|--------------------|----------------------|
| 1. 女声合唱 | 君 が 代
流 浪 の 民 | シューマン | 指揮 千本木宣子
伴奏 安藤三八子 |
| 2. ヴァイオリン独奏 | Allegro Moderato
メヌエット | ボッケリーニ | 堀尾 哲司
伴奏 大橋 佑子 |
| 3. ソプラノ独唱 | 歌 の 翼
ニ ー ナ | メンデルスゾーン
ペルゴレージ | 大橋 佑子
伴奏 清水 早苗 |
| 4. オルガン独奏 | Anbantino
真 の 御 体 | フランク
モーツアルト | 佐藤 治江 |
| 5. 女声合唱 | 日本古謡より | ショパン | 指揮 大橋 佑子
伴奏 清水 早苗 |

II

- | | | | |
|------------|-----------------------|----------------------|----------------------|
| 6. バリトン独唱 | 帰れソレントへ
サンタ・ルチア | ナポリ民謡
イタリア民謡 | 後藤 成价
伴奏 園部 靖子 |
| 7. 女声合唱 | 青 い 道
わすれな草 | モーツアルト
中田 喜直 | 指揮 石井よし子
伴奏 金谷 京子 |
| 8. シロフォン独奏 | 「ウィリアム・テル」より
チャルダス | 編・朝吹英一 | 長谷川節子
伴奏 大槻 宏子 |
| 9. 二重唱 | 心晴れやらず
秋 の 歌 | メンデルスゾーン
メンデルスゾーン | 大橋 佑子
清水 早苗 |
| 10. 混声合唱 | 山 の 子 供
ほろほろと | 平井康三郎
成田 為三 | 指揮 森本 進
伴奏 金谷 京子 |

辻久子 ヴァイオリン 独奏会

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. ヴァイオリン協奏曲ホ短調 OP64 | メンデルスゾーン |
| 2. 瞑想曲 | チャイコフスキー |
| 3. A タンゴ | アルベニス |
| B 我が母の教え給いし歌 | クライスラー |
| C 熊蜂の飛行 | リムスキーコルサコフ |
| D 亜麻色の髪の乙女 | ドビュッシー |
| E 夢のあと | フォーレ |
| F プレリュードとアレグロ | プリアーニ |
| 4. ハンガリア狂詩曲第二番 | リスト |

AKC ヴォーカライズ

会 員 名 簿

(昭和 31 年 10 月 15 日現在)

5 期	◎ 浅井 幸三	名古屋市東区豊前町×××	中部日本新聞社
	景山幽香子	東京都杉並区×××	
	棚村 啓子	名古屋市東区豊前町×××	
	中島 重子	名古屋市千種区橋本町×××	すみれ洋裁学院
	毛利 豊	坂出市×××	日清製粉坂出工場
	○若林 延昌	名古屋市東区豊前町×××	
6 期	足立 孝子	岐阜市×××	岐阜県立高等看護学院
	加藤 昌子	名古屋市千種区新池町×××	大正海上火災保険
	鈴木 寛	名古屋市東区百人町×××	南山大学
	世古伊都子	名古屋市千種区赤坂町×××	滝定
	○田中 蓉子	名古屋市千種区弦月町×××	川西倉庫
	原 まき子	西宮市×××	
	増田 容子	大阪市阿倍野区×××	日本楽器大阪支店
	松沢 暢夫	名古屋市千種区唐山町×××	名古屋工業大学
	水野 俊彦	東京都練馬区×××	東京芸術大学
	安田 良江	名古屋市千種区若水町×××	大森石油
7 期	桜山 崇子	東京都北多摩郡国立町×××	国立音楽大学
	吹附 佳子	名古屋市東区水筒先町×××	ライオン歯磨
	中尾 桂二	春日井市×××	名古屋大学
	△西川 弥子	名古屋市昭和区天白町×××	市立保育短大
	福岡二三子	名古屋市昭和区塩付通×××	三和銀行金山橋支店
	村田 陽子	名古屋市千種区徳川山町×××	柳城女子短大
8 期	上前 佳子	名古屋市千種区幸川町×××	愛知学芸大学
	永井 充	東京都新宿区×××	東京写真短大
	松島 久子	名古屋市千種区鹿子町×××	県立女子短大
	△水野 令子	名古屋市千種区丸山町×××	UCGC
	三輪 佳子	名古屋市千種区東明町×××	UCGC
9 期	石井よし子	名古屋市千種区月見坂町×××	旭丘高校

注 卒業期数、氏名、現住所（TEL）、勤務先（TEL の記入のないのは通学先）の順
 ◎は会長、○は副会長（兼委員）、△は委員 異動のさいは委員あてご連絡下さい

（デジタル注）住所の詳細と電話番号は復刻していません。

1956.12.16 (日)

VOCALIZE

NO. 5

AKCヴォーカライズ機関紙

クリスマスのつどい

御案内

昭和三十一年もあと半月。毎年のことながら早くも年末と正月景気で街頭はクリスマス狂詩曲をかなでる。そして今年もクリスマス・イヴの一夜、善良なる市民？はパーティーと喧噪と音楽の中に混乱を感じるかもしれない。

そうした時節に便乗するわけではないが、AKCヴォーカライズでは旭丘高校音楽部と共催で、卒業生、在校生合同の交歓「クリスマス・歌のつどい」を催すことになった。あまり顔を合わせぬ卒業生と在校生が一堂に会して、ともに騒ぎ、ともに歌って昭和三十一年有終の美をなし、一方「事業成績不振」のAKCヴォーカライズの総会として、一挙頹勢を挽回しようという、いとも魂胆深きつどいである。折しもクリスマス前々夜、そして日曜日である。どういう成行きとなるか、保証の限りではないが、AKCヴォーカライズ最初の公式行事に多数「迷える子羊」諸兄姉のご参加を願う次第である。

AKCヴォーカライズ
旭丘高等学校 音楽部 共催

クリスマス・歌のつどい

記

一、日時 十二月二十三日(日)
午後一時～四時

一、場所 旭丘高校 音楽室
(家庭科教室交渉中)

一、目的 卒業生・在校生の交歓のため
歌い、話し、騒ぐことによってその親密への一助としたい

一、会費 当日の茶菓代として
金五十円(当日徴収)

一、その他 当日クリスマス・プレゼントとして交換するよう、各人金五十円見当で真心のこもったささやかな贈り物を用意してくること(手製の品もちろんけっこう。何を選ぶかはあなたの知恵の見せどころ)

一、連絡 当日の参・不参については
十二月二十一日(金)までに浅井幸三まで連絡されたい。同封のはがきを使用されればありがたい。

以上

なお、在校生側より当日卒業生諸兄姉には奇抜なる隠し芸を用意されたい、との申し入れがあった。AKCヴォーカライズとしても、音楽部側に同様趣旨の申し入れを行ったので念のため。

招待席とC席

若林 延昌

先日、いま大活躍のU氏の奥さんから音楽会の招待券をいただいた。世界的チェリスト、ヘルシャーと東響の音楽会である。いつも三階のC席より、はるかにステージを見下している身分の小生にとって、招待席ときたのだから喜んだのは当然。ところが、やはりC席の方がよい席であることを発見した。

招待席ともなれば、名古屋では一応幅をきかせている一流評論家や音楽家の顔もずらりと並んでいる。この日は特にCBC会館完成記念の音楽会だったので財界の名士も多数来ているようであった。その中にいるとどうも恐縮してしまうが、一方小生のみかもしれないが何となく自分も急に偉くなったように感じる（人間なんてバカなものだ）。ところで演奏が始まってざわめきも落ちつくとき、どこからか酒のにおいがやってくるではないか。どうも堂々たるタイプの紳士がその主らしい。御本人にはいい気持かもしれないが、周囲のものの身にもなつてもらいたいの

のである。酒を飲んで演奏する音楽家がいることは聞いて知っているのだが、それからすれば酒を飲んで音楽会に来ててもかまわないかもしれない。が、しかし、これはどうも非常識だ。少しは他人のことも考えてもらいたい。

ところがこの一角、招待席にはこのような人間の多くいることが演奏の進むにつれてわかってきた。音楽会にはわずかな雑音もうるさく聞えるものだが、プログラムをパラパラさせ、その上暗くて字が見にくいのか光を求めてからだを左右に動かす人があったり、まったく気が散りますよ。その上ひどいになると時計のネジをジージーと巻いているのがある。

何も演奏中に巻かずとも時計には異常はあるまい。これはまた隣の御婦人はほおづえをついてため息を出しているじゃないか。いや小生もまったくんでもないところに来てしまったものだ。いつもよりよい席で落ちついて聞けるどころか、どうもこれらの人には雑音と楽音との区別がでぬのがその原因であるらしい。それなのに、招待席にすわっているという観念がそうさせるのか、実にはまん強くステージより流れる騒音？を聞いていられる。小生はもちろんこれらの人と忍耐力の競争をする気はないのだから、ついに二曲終ったところで飛び出してしま

った。

足はいつものC席がなつかしいのか、三階へ向つてしまふ。悪いところは別としてほとんど満員。せっかく上がつてきたのだが、落ちついて聞くべき席がどうしても見当たらず。といって、また不思議な一角へ戻る気にはどうしてもなれない。立つて見ていた方がよほどでした。三曲目の演奏が始まってしまった。そのとき、帰りを急いでいるのか二人の女性が立ち上がって帰る様子。「私たち帰りですから、よろしければどうぞ」やっといつもの音楽会に戻ることでできた。ここでは目をみはるばかりの美しい着物やイヴニング・ドレス、ネックレス、イヤリング等々はあまり目に入らないけれども、酒のかおりはもちろん、プログラム音も、まして時計の音なども聞こえない。演奏が終われば手を打つのが自分の身分に影響するかのようになっている紳士の代りに万雷の拍手が起る。ふんいきをくらべれば山下氏ではないが、大將と一等兵のような差がある。……この席こそ招待席だ。C席ばんざい。

「若林でないかね」

「ああ、Y先生、お久しぶりですね」
「ヘルシャーも東響も好演奏だったな」

東京だより

(その1)

景山 幽香子

杉並村

東京東京というけれど、大したところでもないのにと、名古屋や大阪にいくときはそう思っていました。でも、来て住んでみると、確かに東京は広いとつくづく思うのです。三十年前まではまだ武蔵野の面影深く、今のわが家あたりは杉の並木で（だから杉並区と申すのだそうで）わずか中央線の駅近くに少々家がたっただけとか。それが現在では、青梅街道を立川基地までニグロの乗ったトラクターやら戦車やら大型のトラックが三十台くらい列を連ねて、地響きを立てながら通っていきまします。そしてこの住宅街には、中国服やら青い目の人たちが日本の買物かごを下げて、おつけものを買いに参ります。でもつい近くにまだわら屋根の農家があるのには驚きました。東京都内とはいいながら、都心から一時間余もかかるのでは、半分植民地的、文化的な「いなか」ということになりそうです。私も杉並村と申しております。

スピード時代

人口がふえれば文化が発達し、それに付れてまた人口がふえる。ということになりますと問題は食糧です。この際主食のことは別として野菜のお話をいたします（どうも卒業して三年以上にもなりませんと、ヌカミソくさくなつてまいりました）。

八百屋へ行きまして三葉を求めました。関西のものは柔らかい青々とした伸びのよい三葉が独特のかおりを發して食卓を飾ってくれます。関東のものは、ひよろひよろと白い細い茎が、何のかおりもないのに珍重されています。なぜかといいますと、自然の太陽の光で育てると、どうしても月日がかかるので、それでは消費量に追いつかない。だから地中に電氣を通して上から水をかけると土は温かくなり、夜は夜で電灯をつけると三葉は一日中昼間だと勘違いして、ニョキニョキ伸びるのだそうです。これで成育時間は数日。売る方はどんな送り出せることになつております。でも太陽光線を受けない野菜は、何か足らないものがあるように思うのですが……。人間でも病人になるのですからね。

告知板

◇お願い

会紙「ヴォーカライズ」を支えるものは、みなさんの近況と原稿です。日々のささいなできごととも旧友にとって楽しい話題となるでしょうし、「ヴォーカライズ」を通じてお互いの理解を増したいものです。そしてヴォーカライズとしても、みなさんの御支援によらなければなりません。名簿資料その2、クリスマスなどの連絡、近況報告用として返信はがきを同封しました。十二月三十一日までに着くよう御返送ねがいます。

◇委員会だより

毎月上旬の日曜日に定例委員会を開いて当面する事務について打合せています。有志の方の御参加および提案を望みます。

会員の慶事についてはヴォーカライズとしてお祝いすることになっております。忘れず御連絡くださいますよう

◇会費未納の方へ

本年度分の会費（百円）を今月中に御納入ください。納入先は田中会計あるいは各委員。

○AKCヴォーカライズはコーラスにつながれた旧友たちのささやかなつどいであり、心豊かないいの場を形成するためのつどいでもあります。

プロフィール

景山幽香子 さん

景山さんが音楽部で活躍した期間は短かった。コーラス部にすぎなかった一年を除けば、ピアノ・ソロ、伴奏に縦横の才腕を発揮されたのはわずか二年時代一年だけだった。そして転校していかれた。その間、音楽部の役職についていたこともなかったし、AKCヴォーカライズとなつてからも遠隔地のゆえ委員に推されたこともなかった。しかしこの人ほどAKCに愛着を持ち、一号室の奇妙な空気を好まれた人はないだろう。人はこの人に「お嬢さん」なる称を冠して積極的に近づくことをおそれていた。が、広島、名古屋、大阪、東京と転々された景山さんの表情は独特のものであったし、思いやりに満ちた豊かな感情の持主でもある。大阪時代に病を得て休養を取ったとき、景山さんはそれまでの神経質さを押し流していた。同時に親しんだピアノからも疎遠になられたが、音楽好き、AKC人らしさは少しも失われなかった。

「ワルツの女王」？とまでいわれたピアノの奔放さは初歩から先生について

こぼれ話

「数の問題」 ある人がストコフスキーに「あなたななぜ指揮棒をお使いにならないのですか」と質問した。かれ答えて曰く「指揮棒は一本だが指は十本ですからね」

いなかったからだと評する人も多かった。けれども景山さんにはそれがかえって幸いしていたと思う。この人を伴奏に迎えたときほど気楽に歌えたことはなかったし、早見えする読譜力は、当時一号室が歌にあふれた最大の素因となつたいたのを疑う人はあるまい。

AKC時代の景山さんと現在の景山さんの表情をくらべると、明るく豊かになつたと答える人ばかりだろう。そして往時の負けぬ気が今は不屈なものへ育つていく。そしてその変貌は決して不自然なものではなく、いかにもおおらかに伸び切つたことを証明している。巧まざるウィットの持主であり、映画、美術、また手芸に興味と才能を有していられる。

振甫中学を経て昭和二十五年旭丘高校音楽部入りし、二十七年四月大阪清水谷高校へ転校。二十六年度旭丘前期生徒会文化常任委員長。三十一年五月東京へ転居される。昭和九年十二月十六日生れの二十二歳。

(A)

Invention

○：地方紙最大を誇るC紙の福井版、珍しや何かの音楽会の記事が電話で流れてその曲目の一つに「タウベルトの子守歌」がある。ところが刷り上がった新聞を見ると「シウベルトの子守歌」となっている。そこで声あり、だれだ、子守歌といえばシューベルトだと思っているのは……。

○：MMO方式による音楽会が生れるようになったら、今度は歌劇伴奏曲LPが発売された。今のところ「手古奈」だけだが、これでAKCとしても歌劇上演は夢でなくなった。ひとつ来年は合同でオペラでもやるか。

○：全国屈指の合唱レベルの低い東海地区のある合唱団、金を取って人に聞かせようなどとはもつてのほかだ。この調子なら旭丘の音楽部でもいくらか金もらえるとは、ある意気盛んな現役部員。その意気やよし。

○：合唱界の大勢は混声に傾いた。しかるにその流れに逆行するものあり。いわゆると知れた、男性の圧倒的に多い旭丘（おれらが母校である）にある合唱団がそれ。そして校歌の斉唱パートしかやったことがないとおつては音楽会のトップが「君が代」でもしうががありますまい。(Z)

1957. 1. 1 (火)

VOCALIZE

NO. 6

AKCヴォーカライズ機関紙

新年度に当って

お 願 い

明けましておめでとうございます。何度か振り出しに戻らねばならなかった私たちのヴォーカライズではあったが、どうやら再発足の年を踏み越えることができたのは喜ぶに足ることと思う。委員の微力をくんで種々御援助くださった幾多会員諸兄姉の御厚意によるものと感謝したい。

ところで、一九五七年におけるAKCヴォーカライズの目的は：代りばえはしなくとも昨年と同じだというよりない。何も事新しく云々する必要もないほど明らかだが、私たちはまずお互いの近況を知らせ合い、共通したいこいの場を見出そうとしてきた。折に聞かれる皆さんの声も、同じく「ニュース」を「みんなの声」をと希望しているし、やはりこれこそが最大にして唯一といっていいほどの目的ではないかと思ふのである。

昨年はこの目的が十分に達成し得ず、「ヴォーカライズ」の編集に当るものとして、もどれほど遺憾に思ったかしのれない。

どんなにささやかなことでも、自分には取るに足らぬと思われることでも知らせ合う習慣をつけたい。この「ヴォーカライズ」を限られた人だけのものとせず、毎月すべての人の声が載り、みんなのために心楽しい会紙となるようお力を願いたいと思う。

AKCヴォーカライズはまだ基礎づくりの段階にある幼いつどいである。常に完成されることのない、到達することのない無形の目的にいまねばならない。いつまでたっても「上り」のない双六にたとえることができるかもしれない。けれどその途中でまたしても「振出し」に戻る愚だけは避けたい。

新しい年に際して、特にいわねばならぬことは何一つとしてない。しかし目的は先刻おわかりの通りだし、この年を昨年よりは一步も二歩も前進したものとしてたい気持ちに変わりはない。もともとAKCヴォーカライズの存在を認識し合い高め合っていきたいと思う。皆さんの御理解と御協力をいただきたくあらためてお願いする次第である。

昭和三十二年一月一日

AKCヴォーカライズ委員会

「告知板は第六面にあります」

AKC史

昭和三十年度の巻

水野 令子

私がAKCの部長として、二十九年
度の部長である桜山さんからバトンを
受け取ったのは二十九年十一月だった
と思う。現在アメリカへ留学されてい
る安藤允子さんが最初副理事に選ばれ、
私は会計という務めを司っていたので
あるが、安藤さんが進学のため忙しく
てとてもできないと辞退されたため、
私のいないときに再選挙を行い、私が
副理事という座に選ばれたということ
を聞き、私はまったく心外のこの事実
に啞然としてしまった。なぜ私にこの
大任を果すことができるであろうか！
この私に！ できないと私は思った。
まず第一に、自分に部長という任を果
すだけの能力のないことを自分自身が
一番よく知っていたからである。何度
も辞退したが聞き入れられなかった。
部長をこんな人につけ合っているのは
今後の音楽部はどうなるであろうと思
い、まったく私には責任の重すぎるほ
どのこの部長という席についたのであ
る。

それから後、ほんとうに苦しみの多い
悪条件の中を強硬に、あやふやな、今思
うともう恥かしくなるような活動状況
を続けてきてしまった。このことを思うに
つけ、水野俊彦さんや桜山崇子さん等々
の先輩の方々が築き上げてくださった功
績に対して申し訳なく、苦しみの気持ちで
いっぱいである。桜山さんも初代の女性部
長で、しかも進学されるというハンディ
キャップがありながら、堂々と立派にこ
の部長という任務を果されたのであるか
ら、私も桜山さん以上とまでは行かなく
とも、せめて同じくらいを目標にして進
んだ。
新入生へのクラブ紹介も自分一人であ
ちやくちやにやつてのけた。さあどの程
度の部員がとれるか、とても心配であつ
たが、意外に多い二十四名の新入部員が
あつた。その中にはただ一人の男子部員
がいた。前からいた男子部員の永井さん、
上前さんを合せても三人。とうてい活動
することのできないメンバーであるため
週一度しようと思っていた練習も次第に

消えていき、この熱心な男子部員も退部
してしまった。男女共学の学校でありな
がら、混声合唱が行えないのはほんとう
に不思議なことであると何度思ったかし
れない。しかし音楽部と男子部員とは縁
の切れたような状態にあつた。
それに反し、女子部員は日々がんばつ
てよくやってくれた。何しろ私はピアノ
をひいて指導することが不可能で、どん
なに苦労したかわからない。何度この部
長をやめようと思つたかしかない。思う
ように練習がはかどらず、みんなの音楽
へ対する関心を薄れさせ、クラブのつま
らなさを感じさせてしまったかわからな
い。幸いにして二年生の金谷さんや丹羽
さんにいろいろと協力を仰ぎ、週三日の
コーラスをし、一日のピアノのレッスンを
行つた。金谷さんや丹羽さんの休みの
ときはクラブ活動を中止してしまおうか
と何度思つたかしかない。しかし熱心な
一、二年部員の方が出席してピアノの前
にいる姿を見て、どうして中止して帰つ
てくさいといえよう。用紙、私ができ
るだけのことをやろうと思ひ、ひくこと
のできないピアノの前に座し、右手で旋
律だけをひき、サン、ハイ！ とやつて
みても、練習の能率を上げることができ
ないと、自然にその声も力抜けした声で
叫び、ただそこに発見しうるものは自分

のみじめさであった。この思いはどんなに私を悲しませ、そしてまた自信をどれほど失わせたかしない。

そして春が過ぎ青葉の五月にCBC出演ということになった。大曲をすることができないので小曲を数曲することにし、「人魚の夕べの歌」「逝ける友のエレジー」「カリーナ」「ワニータ」「なつかしの歌」をすることにした。毎年CBCが学校の方へ録音にやってくるのであるが、今年だけはCBCの方へ録音に行った。五月十五日、日曜日であった。欠席する人は全然なく、みな張り切ってよくやつてくれた。第一回学力テスト中にこの録音が放送され、みなに連絡をすることもできずに、観賞できたのはごくわずかな人々であった。幸いにして私は新聞によって知り、聞いたが、まったく悲しくなるようなできであった。ソプラノがすぐく音が狂ってしまった、それにつれて全体が下り、まったく正常なのは伴奏のピアノだけというひどいコーラスであった。これも私の力のなさだと思うとまた自信を一そうなくしてしまった。

毎年行われている春の大合唱祭にはあすから第一回学力テストという不利な条件のため不参加ということにして

しまった。まったく残念で残念でたまらなかった。

六月の第一日曜日には新入部員との親密さを増すために、CBCに出演したときに「お車代」として二千円いただいたので、森林公園へハイクを行った。二年生は試験その他の悪条件で不参加の人が多かったが、一年生はほとんどが来てくれた。三年生はまったくの縁切れ状態で私一人であったが……。暑い初夏の日ざしの下ではあったが、みなが何かを得てくれて少しでも上下級生の親睦を図ることができたら、それでこの会は十分有意義であったのではないかと思いつつ帰路についていた。

こんなことを間に入れていっているうちに練習日を重ねていったが、はや夏休みが来てしまった。例年のごとく夏休みの練習を始めたが、私も補習その他、何かと忙しい夏休みではあったけれども、みな希望で八月の下旬に十一日間ほど行った。しかしそれは大の失敗であった。なぜならば出席人数が全然なっていないのである。まったくいやになってしまった。みながつちばんぼったんに出てきてちつとも人がそろわないのである。また二年生の出席が一部の人を除いて全然なっていないのである。だれでも夏休みはそれぞれスケジュールがあつて、クラブ活動がつ

い怠りがちになるとは思うのであるが、一時間か一時間半くらいの練習をするのであるから能率的に全員出席して練習に精を出したかったのであつたけれども、これも計画流れになつてしまったのである。

しかし七月一日には先輩の加藤清さんが音楽の教生として来られ、私たち音楽部にはいろいろと御指導してくださった。秋にする文化祭の話がそろそろ出はじめ。卒業生との合同合唱のことも話が出た。二、三人の反対意見もあつたが私はぜひやりたいとがんばつてしまった。加藤さんが教生をしていらしたときに、男子部員を募ってくださつた際、二人の男子部員が入部を希望したから、この人たちのためにも、男声合唱をすることが不可能のようならば混声合唱をして、数少ない男子部員を少しでも活動させたいというのが私の最大の切なる望みであった。この練習も例年のごとく始められようとしていたのであつたが、音楽会は講堂が竣工してからという不定日のため、これもあまり現実的には運ばなかった。秋になつてからはほんとうに不安な日々を送つた。展覧会、運動会は例年のごとく秋十一月に行なわれたのではあるが、音楽会は講堂が竣工してみないとわからない。

十一月が過ぎ十二月が来て三十年も過ぎようとしても音楽会はできそうになかった。私もそろそろ就職活動を始めなければならぬし、ほんとうに気が気ではなかったが、友人に紹介していただいてある貿易会社に就職することが決まったときはまったく救われたような落ちついた気持ちでほっとした。さあ、これで音楽会に備えようと心のうちに誓ったのであった。東海合唱連盟の合唱コンクールも練習不足でとても出られそうにもないので、これもまた不参加ということにしてしまった。

都築先生にあれこれと音楽会のことなどを問合せに行くと、講堂の竣工は来年一月早々とのことであった。十二月末はまったく寒かった。ピアノをひく手も冷たさで痛いくらいであった。練習を終えてみなに「ごくろうさま、さようなら」をしたときは、いつも日暮れの街灯がぼんやりとして、校門を出るみな姿も寒々としていた。それから個人のレッスンを行ったこともたびたびであった。師走はかけ足で過ぎていった。音楽会の日も決まった。一月の寒さを打って日々練習を行った。ともすれば破られがちな練習を毎日歯を食いしばり、お互いを励まし合って残り少ない日を送っていた。

内緒話ではあるが、プログラムを組んだりしても夏から頼んでおいたピアノソロもまぎわになつてからできないと断りに来られたり、ピアノをひいてくれる人が非常に不足してしまつて、同じ人にくつもひいてくれるよう頼んだり、合唱指導をした後から練習をしたりして、不当に出来ないものであった。それに二年生でピアノの名手、伊藤瑜美子さんが十二月から菊里の音楽課程に移られてしまった。しかしもはやプログラムに組んでしまつたりして、御出演を願つて二つの曲の伴奏と二つの曲のソロをしていた。唯一のテナー歌手、永井充さんも自らソロを下り、またピアニストの松島久子さんも城所明子さんのヴァイオリン独奏の伴奏を、進学の勉強の忙しさをよそに引き受けてくださり、まったく頭を自然に下げたくなるような思いで毎日練習を重ねて音楽会の来るのを待った。

とうとう一月十八日に晴れの竣工式を行い、十九日には待ちに待った音楽会を十時三十分から行った。木曜日というウィークデイで卒業生の方はあまり来ていただけなかったが、加藤さんはじめ数人の人々が来てくださった。練習不足の冷汗ものではあったが、加藤さんの指揮の

もとに四人の在校生男子部員と卒業生との合同合唱を最後にやったときは胸がジーンとして来て、ガクガクと力が抜けていくような、今まで張っていた気が急に抜けていつて目頭に熱いものさえ覺えた。私たち後輩にとって先輩諸氏の温かいお心をいまさらのごとく再認識する思いで一ぱいにさせられたのである。

またこの日には、賛助出演で都築先生の一方ならぬ御努力で井口基成先生を、これも先生の力で購入していただいた立派なコンサート用ピアノのピアノ開きとしてお迎えするという光栄を受けたのである。約二時間にわたり名曲の数々が広く美しい講堂のすみずみまで響きわたり、まったく全聴衆は酔い切っていた。

私の知っている音楽会と比べても、そんなにすばらしい会場ができたのに近年になく貧弱な音楽会をやつてしまつて、まことに先輩諸氏には申し訳ないことと思う。今後の音楽会が後から悔いすることのないものであり、私のとき以上に音楽部が発展し成長をしてくれるようにと心から祈り見守っている次第である。

CHORUS

これは皆さんのたよりのページです。よろしく御利用ください。なお今回のものは「うたのつどい」のさい返送されたものです。

桜山 崇子（七）

「スケジュール」 十二月十八日、十九日二十一日、学校にて「第九」練習。二十日生命ホールにて蜂の会の作品発表会。二十二日私の家でクリスマス・パーティー。二十三日アルバイト。二十四日、二十五日二十十分よりN響練習所にて「第九」練習。二十六日九時四十五分より日比谷ゲネプロ。同六時半及び二十七日同時刻より本番。二十八日午後三時五分汽車が東京を動き出す。そして九時三十五分名古屋駅に止まります。

松沢 暢夫（六）

「近況」 ①財布の中カラッポ②製図が期限に間に合いそうもない
「新年の抱負」 ①来年こそは②来年だつてどうせ同じさ。今年と③可愛らしい妹がほしい
「その他」 かぜをひいて困っています。文明人にきく薬は？（ダンでもベンザでも全然なおらない）

「近況」 十二月十九日から二十二日まで
上 前 佳子（八）

で全国教育系大学学生ゼミナール全国大会なるものが岡崎において行われ、連日朝七時から夜九時まで出席。

「新年の抱負」 今年は遊びすぎましたから、もう少しいろいろ勉強し、音楽も多くの点で深めたものを得ていきたいと心がけようと思いたいと思います（複雑なり）。

足立 孝子（六）

「近況」 来年の卒業、国家試験を控えてテストで追われております。現在「ひまわり合唱団」に入団しておりますが、ほとんど青年歌集の中から曲を選び一向に発展性もみられなくて少々あきてきました。来年の卒業を機に一変したいと思っております。

景山幽香子（五）

「年の瀬」 今月はとても忙しく目が回りそうです（毎年暮にはこういう文句が出ることになっています）。新年は、計算すると正月休みが平年より多くなるそうですので、お客様もさぞかし多いことございましょう。われわれただ働きのオサンドンは割の合わない話になっております。

原 まき子（六）

「人形作り」 現在お人形に一生懸命です。毎日毎日あきることなく製作いたしております。幼いときからの好きなことを、

現在に至ってもできる喜びを十分に味わいつつ趣味を伸ばしたいとおもっております。

中尾 桂二（七）

「近況」 このごろは暇なようで結構忙しい毎日ですがそれこそ矢のように過ぎ去っていきます。学部（経済）の授業が始まり一層緊張した気分にはなっておりますものの、まだ就職も二年先。気分もときにはゆるんで遊び歩いています。今年はいぶん私自身にもいやな年でしたが、来年こそは明るい楽しい日々を送れるよう努力するつもりです。

浅井 幸三（五）

「あわただしさ」 世事にうとい人間までが歳末のあわただしさに巻きこまれるのに閉口です。あたりが忙しく、また騒がしくなるとむしろ静寂を望み孤独をなつかしむものだと思いました。もっとも自分の場合、私私多忙（公はないようです）で身から出たサビとでもいいうべきでしょうが。

西川 弥子（七）

最近とてもご多忙でいらっしやいますので、何も書くことがありません。卒業したら多少は落ちつくかと思えますけれども……。

Invention

：雑誌「音楽の友」が新年号からB5判になった。近ごろ流行の読む雑誌より見る雑誌へのすう勢のためかどうか知らぬが、「レコード芸術」に続いてB5判に大型化したことは画期的というべきだろうか。ところで「音楽の友」が「音楽の友」になったのは？ それともはじめから「の」だったでしょうか。：合唱の専門紙？「合唱界」が創刊された。今のところさして立派なものともいえないが第一お話が多すぎる。具体的合唱指導など一つもないし肝心の楽譜にも乏しい。

：喧噪をきわめたクリスマスも終わった。日本のお祭り「正月」と交代という次第だが、クリスマスと密接な関係にあるメロディもお正月にはてんで薄情である。もつとも「聖歌」というのは有名な曲のヒョウセツだと憤慨する向きもある。さしずめ著作権侵害であげられてしかるべきところ。

：音楽家というのは芸術家でないのかどうか。新刊「芸術家の言葉」というのは西洋の文学者がほとんどで音楽家は一人もなく、「二日一言」ではわずかにベートーヴェン一人。あまり名言をものにする音楽家というのはいないらしい。

(Z)

告知板

◇ 第一回うたのつどい

去る十二月二十三日行いましたAKCヴォーカライズ。旭丘高校音楽部共催の「クリスマスうたのつどい」に際してはいろいろ御協力ありがとうございました。特に御多忙の折この集まりに参加せられ、愉快に半日をすごす力となっていたいただいた方々に対して厚くお礼申し上げます。また在校生側の千本木、森本、大橋、園部各氏には企画から運営まで種々御苦労をわずらわし、盛況のうちにこの集まりを終えることができたのはひとえにそのお力によるものと存じ、この機会に深甚の謝意を表する次第であります。

なお当日、不手ぎわのありました点は運営者の至らなさを暴露したものとしておわびします。

◇ 会費納入者

十二月三十一日現在の会費納入者はつぎのとおり。(十二名)

【五期】 景山幽香子、中島重子、若林延昌、浅井幸三、【六期】 松沢暢夫、鈴木 寛、世古伊都子、田中蓉子、【七期】 中尾桂二、【八期】 永井 充、上前佳子、水野令子

◇ 委員会だより

本月の定例委員会は議題等の都合で左記のごとく新年懇親会として実施いたしました。ぜひ御参加ください。

記

一、日時 昭和三十一年一月六日(日)
午後一時より

一、場所 名古屋市東区豊前町×××
浅井 幸三方

旭丘高校音楽部、AKCヴォーカライズそれぞれの有志の方々の御参加を歓迎いたします。

◇ AKC史

一号室より講堂まで、AKC五年(昭和二十六〜三十年度)は本号の昭和三十年度の巻をもって完結いたしました。各年度の部長によって読まれたその年々の歴史は印象深く読まれることと信じます。今年度中には一冊にまとめて保存出来るようにしたいと思っておりますので御期待ください。

なお浅井幸三しるす、「私史AKC昭和二十七年」は月刊私紙「かさくるま」に第十二号(昭和三十一年一月)より連載される予定です。当時を知る方には興味深いことと思ひ、あわせて御紹介いたします。

1957. 3. 2 (土)

VOCALIZE

NO. 7

AKCヴォーカライズ機関紙

新しき年度のために

特に新卒者の方へ

昭和三十一年度も残りわずかとなり、AKCも六名の新規卒業生（送別会招待者）を出した。ひとところに比べ、あまりに少ない数ではあるが、三年間、AKCのために多大の力をさかれ、よりよき融和のために貢献された人々にお礼を申し上げます。

男声部員の少なさを嘆き、指導者を欠く悩みを持ちながら、くじけることなく、その任を放棄することなく、多忙の中を努力されたその一事だけでも成果を云々する以前の功績であった。自分たちの力だけでという悲願を果された金谷部長には、合同合唱をなし得なかった悔いを越えて、卒業生側として率直に敬意を表したい。

こうしてAKCも満九年を経た。昭和三十二年度はAKCとしては十年目にあたるわけであるが、卒業生の団体であるAKCヴォーカライズも曲がりなりにも三年目を迎える。三十名にも満たぬ小さな集まりであり、音楽について積極的な主張をする団体でもないが、AKCと一号室を軸として結ばれた私たちは今後も

わずかずつの歩みを続けたい。

その意味でも今度卒業された六名の方々、金谷京子、石井よし子、上前昌三郎、竹内英子、丹羽好江、鈴木京子の諸君には、特に積極的な支援を望みたい。考えてみればAKCヴォーカライズはあなた方と最も縁が薄い。現在の在校生とだってもっと親しくなっているつもりなのに、奇妙に一年飛び越した感がないでもない。お互いに意思の疎通を欠いた面はあったかもしれないが、これからは協調してやっていきたいものである。よろしくおつき合い願いたい。

なお昨年十月発足した当委員会の委員五名は、年度がわりの三月一ぱいをもつて全員辞任したい。不規則になっているAKCヴォーカライズの運営を学校年度と一致させるためと、新しく在校生側の参加を求めるためである。追って委員改選の手続きをするが、この間の事情を了とせられ、委員の退任を認めていただきたいと思う。

昭和三十二年三月一日

AKCヴォーカライズ委員会

A K C

新卒業生に贈る

森本 進

三年間の蛍雪の功あって、はえの卒業式を迎えられました皆さん、まことにめでとうございます。卒業後は大学に、あるいは家業に、職場にと、それぞれ巣立たれるわけでありますが、その前途は洋々として、果てしなく広いものであって、そのかなたに希望の丘というものがあるのではないでしょう。か。そしてこの丘に達せんがためには、相当な困難が身に迫ってくると考えられます。この困難に打ち勝たんがためには不断の努力が必要です。それには誠実であって、健康であって、友愛であることだと私は考えます。そして世のため、また人のため、有為な社会人として精進して下さい。

大へんかたくるしいことを書き並べましたが、皆さんは音楽部の卒業生です。だから音楽、というよりは歌うことの好きな人ばかりでしょう。歌うことの好きな人が集まって歌う、これは実に楽しいことではないでしょうか。はたから見てもほんとうに楽しそうに見え、私なんかは思わず知らずそ

の歌を口ずさんでいます。心には太陽をくちびるには歌を、とかいいます。どんなにつらくとも、どんなに悲しくとも、私どもの心を慰め、励ましてくれるのは歌です。どうかどのような方面に進まれましたも、歌う楽しみを忘れないで下さい。卒業しちゃったから、もう旭丘には縁がないというようなことでなく、おひまがありましたら、私どものあやしげな合唱でも聞きにいらして下さい。

(旭丘高校音楽部)

浅井 幸三

御卒業おめでとう。

この三年間、学業とクラブ活動の板ばさみの中で、音楽部のために多大な努力と貢献をされたことに對し、卒業生の一員として敬意を表したい。男声部員のみならず合唱部員の激減、学業尊重（裏返していえばクラブ活動の軽視、とくに文化部へのしわ寄せ）などの悪条件の中にあつて、よくやられたものと思う。送別会に招かれた新卒業生がわずかに六名というだけをもつても、いかにも多難であつたと感ずる。そして、種々な事情に妨

げられ、三年間を音楽部員として十分に活躍できなかったことに心残りを覚える人もあることと思う。

卒業は一つの区切りにすぎない。あるいは音楽部を離れることによって、コーラスから遠ざかり、A K Cの思い出を薄くさせるかもしれないが、みんなで歌った曲の数々は、折りあるごとに励ましとなり、なつかしさを与えてくれることだろう。それだけが音楽部員であつたものの共通した報いであるかもしれない。そうしたつながりを保つために、今後はA K Cヴォーカライズの一員として、A K C出身者、ひいては音楽部の人たちとの協調に力していただきたいと思う。

私たちA K Cヴォーカライズはあなた方に何一つ贈ることのできない貧しい集まりではない。けれどもあなた方と一緒に過ごすこと、歌をよりどころとして歩んでいくことはできるつもりだ。卒業を機に、A K Cヴォーカライズへ参加され、より楽しいつどいとするよう御協力いただきたい。また積極的に御支援願えるものと期待する次第である。

東京だより

(その2)

景山 幽香子

隣は何をする人ぞ

わが家の近所を見回して見ると、生粋の江戸っ子というのはいくつもなく、向いが九州から、左隣が北海道、その隣が東北、と全国から集まっている様子です。みな故郷を出ると、広い都に知った人もないせいか、妙に閉じこもってしまつて、隣りのオバサマに道で会つても全然知らぬ顔。とにかく自分の家の門前で会わない限り、お隣であらうと、お向かいであらうと、ハテ、ドナタサマ？ と顔をそむけるように通つていく変な人がいます。

外出するるときどき出会う中学二、三年の腕白小僧がいるのですが、その小僧がいつ会ったときでも横目でジロジロ、果ては振り返つてまで見るので、何とまあいやな子だろう、どこの子かいなと思つておりました。今年のお正月のことです。お天気がよいので縁側に寝ころんで本を読んでいるとき、氣配に気づいて目を上げると、隣の屋根に彼が乗つかつてエヘラエヘラ笑つて

いたのです。ほんまに憎らしい子や。…彼の母親がどんな人か、いまだもつて不明です。

幽霊子？

週一回けいこに通っているあるところで貸ピアノ(といつても、その会員だけなのですけど)を一般よりずっと安く貸してくれるので、頼んでおきました。翌日、その事務所の受付ボーイがかけてきた電話です。

「もしもし、景山さんですね。あの…」

「モシモシ、ドナタ？」

「あのう…、あの、ゆ、ゆれ子さん…」

「いらつしやるでしょうか」

「ハァン？ (だれのことかしら)」

「あの、ぼ、ぼく、事務室のMですけど」

「やつと電話の主はわかりましたが、ゆれ子とは？」

「しばらく考えていて、思わず吹き出しそうになつて、あわてて受話器を押える始末でした。私の名前を説明するのには、ユーレイのユの字だと教えたので、こんなことになつたのでしょうか。」

近ごろ「四十八歳の抵抗」とかいいう小説の中で、「ユカ」なる名前が出てくるし、

考えてみれば、あまりいい名前じゃなさそうです。

旭丘高校音楽部史

一号室から講堂まで

(AKCヴォーカライズ編)

○：昭和三十二年度はAKC創設後数えて十年目にあたる。小さな合唱団だった第一年度から百名近い部員を有した年を経て、今ここに創立十年目を迎えようとしているが、多年宿願としていた「AKC五年史」を近く発行することになった。

○：この五年史には、器楽室が設けられ、一号室を音楽部室とした昭和二十六年から、講堂兼体育館たる鯨光館の完成をみた三十年度までの歴史が含まれている。

昭和26年度 加藤 清 12ページ

昭和27年度 若林 延昌 10ページ

昭和28年度 水野 俊彦 14ページ

昭和29年度 桜山 崇子 11ページ

昭和30年度 水野 令子 14ページ

○：五代の部長によつてしるされた音楽部の内情、会場さがしのエピソード、種々の合唱練習の哀歓など、音楽をわかつたAKCの部員の共感を呼ぶに違いない。ご期待願いたい。

「B6判、AKCヴォーカライズ発行、会員無償配布」資料集続刊予定

AKC

だより

◇ 送別会

恒例の新卒業生送別会は二月十日(日)午後一時より旭丘高校音楽室で開催。招待された新卒業生六名のうち、金谷京子、竹内英子、

石井よし子、上前昌三郎四君が出席。

それに学校側から加藤朗一教官、AKCヴォーカライズから浅井幸三、在校生側は千本木宣子部長以下十六名と総計二十二名。千本木さんの進行で、加藤先生伴奏の校歌斉唱に始まり、室内レクリエーション、新卒生のソロ、数々の合唱などあつて、記念品贈呈(都築先生のサイン入りアルバム)、双方のあいさつのち、蛍の光を歌って五時すぎ終わった。

◇ C B C放送

一月下旬、CBCより放送を依頼され予餞会などの練習と並行して小曲中心の練習を行っていたが、二月二十二日(金)午後、CBC第一スタジオで録音を行った。数日前より放送部の助力で幾度もテープに入れたりしたが、録音前の都築顧問は一向見てくれず、録音前日はじめて通してくれる始末。あまり成果の方は期待できないが、多忙と練習日の少なさを思えばやむを得ないだろう。放送日は未定、曲目次のと

おり(指揮 千本木宣子、伴奏 佐藤治江・大槻宏子、いずれも女声合唱)

小学唱歌 「春が来た」

フォスター 「スワニー河」

ホーソン 「希望のささやき」

アイルランド民謡

「ロンドンデリー」

アメリカ民謡

「なつかしのヴァージニア」

滝廉太郎 「花」

なお、これに先立ち二月十六日(土)

には生徒会主催の予餞会に出演、音楽部の意気を示したが、詳細は「取材不能」。

一 告 知 板

◎ 会費納入者

前号で発表後、次の会員から会費の納入があり、二月二十八日現在の会費納入者は十八名に達した。

〔5期〕 毛利 豊

〔6期〕 原まき子

〔7期〕 桜山崇子、西川弥子、

佐々知子

〔8期〕 三輪佳子

なお会費未納の方は、年度末でもあり、いろいろ事務の都合もあるので、お手数ながら至急委員あて納入していただきたい。郵送願えるありがたい。

◎ 名簿について

「ヴォーカライズ」第4号に会員名簿を掲載したが、その後異動のある方は御連絡願いたい。学校年度の切りかわりで相当異動が生ずると思われるので、四月には新しい名簿を作成したい。御協力を願いたい。

◎ 佐々さん新加入

一月より佐々知子さんが加入された。これで会員は二十九名(第七期は八名)になった。

佐々知子(七)

名古屋市昭和区天白町×××

◎ 愛知学芸大定期演奏会

愛知学芸大学名古屋分校の定期演奏会は三月二十二日(金)午後二時から名古屋市公会堂で行われる。会員券(プログラム共)は五十円。上前佳子、小川恵津子両嬢が扱っているので御希望の向きは申し出られたい。委員会あて御連絡あれば仲介の労はとらせていただく。

◎ 会誌発行について

機関紙「ヴォーカライズ」第七号が届かないが……との連絡を二、三いただいた。発行が遅れて申し訳ないが、本号が第七号である。なお三十一年度最終号を三月中旬に発行したいと思うので御協力願いたい。

1957.3.20 (水)

VOCALIZE

No. 8

AKCヴォーカライズ機関紙

役員改選にあたり

辞任のごあいさつ

昭和三十一年度委員会

AKCヴォーカライズ昭和三十一年度委員として昨年九月に選任されて半年。任期一年の建前よりすれば、あと半年を残していますが、通例の学校年度との食い違いもあり、また運営上の不便もありますので、当初の予定どおり辞任させていただきますことになりました。

わずか半年とはいえ寄せられた会員諸兄姉の期待と助力に支えられ、本会の発展のため微力を尽したつもりではありましたが、振り返ってみて、何らの成果もあげ得なかったことに気づき、まことに申し訳なく存じます。

今後は、新しく選ばれる委員を中心に、より着実な歩みを続けるため、みなさん同様絶えざる支援を惜しまない覚悟です。次なる委員の方々に後事を託し、またこれまでの御協力を感謝しつつ委員の座を辞す次第です。

昭和三十二年三月二十日

浅井 幸三・若林 延昌
田中 蓉子・西川 弥子
水野 令子

告示

昭和三十二年委員選任について
昭和三十一年度AKCヴォーカライズ委員会辞任に伴い、昭和三十二年委員の選出を左記により実施します。

記

一、選任役員 九名

会長 (一名)

副会長 (一名) 以上全体投票

委員 (七名) 各期投票

委員中より副会長、会計各一名を互選する。(在校生委員二)

一、投票方法

前例に従い、全会員名を記載の投票用紙に、所定の記入を行い、期日までに管理者へ郵送する。

一、投票締切

三月三十一日(日)

同日付消印まで有効とする。

一、当選者発表

ヴォーカライズ第九号紙上。当選者には直接通知する。

昭和三十二年三月二十日

AKCヴォーカライズ

AKC VOCALIZE

文官会長

ひとり よがり

自賛・自責の記

浅井 幸三

ヴォーカライズ AKC

文官会長誕生…

事は大きい、何時の場合でも新内閣組閣のときには必ずもめるポストがある。その筆頭が防衛庁長官で、やれ武官はいけないの、国務大臣とあるからは文官でなければならぬのと、こうるさいことである。

ところが旭丘高校音楽部の歴史をひもとくと、何代目の部長もこれみな武官、すなわち楽官ばかりといったありさまで、いずれも音楽的才能豊かな実力第一主義者ぞろいである。一流の指揮者あり、ピアニストあり、そしてまた声楽家に至っては旭丘の歴史に名だたるベストメンバーが名を連ねている。それほどに武官専横のAKCになぜ文官が登場する破目になったのか、実に「世にも不思議な物語」とはこのことである。

先刻御承知の通り、私は音楽的素養に乏しく、ほかの多くの音楽部員と違って音楽を最大の趣味とするわけでもない。ただ、「和」を得るためにAKC

Cを愛したにすぎなかったが、自ら実戦に携わらない文官はいつも理想に走りすぎていたかもしれない。そしてこのAKCヴォーカライズの創設を企画したのも、そのロマンティックさが底にあったせいだろう。

そんないきさつを知ってか知らずか、世間の醜いかけ引きに染まぬAKC育ちの諸兄姉は、そうしたブランナーに清き一票を投ずるのが手っとり早かろうと考えたものらしい。

かくして、AKCヴォーカライズ再生第一期にして、とまどい顔の文官会長第一号が生れ出たのである。その名を浅井幸三とはいったが、汚れなき詩魂の持ち主として自負したかつての「ZAかくみ」らしさはすでに失われていた。

文官会長成績考…

さて、会長になった私は何をなすべきかわからなかった。不幸にして音楽的才能に恵まれなかっただけに、合唱団を組織する力もなく、音楽会開催の手腕とて

も持ち合さず、ただみんなと身近に話し合え、お互いが相手の近況や相談に耳を傾けられる雰囲気を作りたいと考えるのみだった。ありがたかったことは、選ばれた他の委員はこれ以上は望み得ぬメンバーであり、私が常に敬愛し「かさくま」によって友好を願ってきた人たちがかりであつた。みんな忙しいのに文官会長のために陰の力を惜しまれなかった。

月に一度の委員会を通じて、まず委員同士が親しくなろう、という私の望みはそうしてまず順調に伸びていった。一緒に、ヴォーカライズの寄稿者ランク第一グループに指定されながらも、逃げ出しもせず、任期切れをこの三月と指勘定して楽しみにしていたようでもあつた。かくて、当初隔月刊を予定していた機関紙「ヴォーカライズ」は曲りなりにも月一度の割で出つづけたのだつた。

私が当初計画したことは大体において果すことができたつもりだ。一番の収穫はやはり「ヴォーカライズ」の継続発行だと自認しているが、そのほか「うたのつどい」なども開催できたし、二、三至らなかった点を除けば一応の合格点はつけてもらえるつもりであつた。音楽と密接なつながりを持てなかったのは、いうまでもなく、文官会長の均衡のとれなかったゆえんと反省している。

文官会長の心残り…

このAKCヴォーカライズの弱点は何か、みなさんはよく御承知であろう。一つは確固たる基盤を欠くことであり、もう一つは会員を結集させる目的に乏しいことである。いつてみれば、遺憾ながら存在の意義が希薄だというありがたくないところに落ちつく。

AKCの音楽会における合同合唱すら果たせず、卒業生と在校生との離間をうわさされたのも、お互いの意思の疎通を欠いたからだし、親しみ難い面をぶつけ合っていたからでもあった。最大の目的とした「心のつながり」を求めることは多難でありすぎた。同じ話題といえば音楽のことでなく、AKCそれ自体のわずか一つ、それがうまくいかなかったのは手痛すぎた。

もともと残念だったのは、みんながあまりにもAKCヴォーカライズに対して冷淡で、積極的にこの集まりを盛り立ててくれなかったことだ。もちろん、そうした機縁を作り出す立場にあった私たちのち力不足は否定できないし、もっと活発な意欲を示すべきでもあった。けれども、「ヴォーカライズ」が特定の人へかたよりすぎ、普遍性に欠け、そして中央紙的だったという批判に対しては、私はその責を半ばまで

しか負えない。反問したい。一体だが「ヴォーカライズ」に好意を示してくれただか。そして何人の人が寄稿の労をとってくれたのか、と。自分の力の足りなさを感じたことも事実だし、この「ヴォーカライズ」だってもっと楽しいものにしたなら、だれもが身辺のことを書いてくれたらうにと反省している。

私のなし得ることはこのこと一つだった。それをしくじったのだから、いままら何とも悪あがきはするまい。みなさんの期待にそえなかったことを率直にわびたい。

文官会長の個人的収穫…

この半年、私が及ばずながらも会長の任にあつて得たものは大きかった。私自身にプラスとなった面が多すぎて、それに値するだけの仕事をみなさんに果たし得なかった事が、かえって恥かしくてならない。

個人的な面で私に寄せられた好意も忘れない。これが役得なら、すばらしきものは会長というべきだろうが。

口うるさい私につき合って半年をすごした若林くん、田中さん、西川さん、水野令子さん。委員に推されたとはいえ、よく私の支えとなつてもらった。月一度の委員会の成果を私は心の中へ植えつけ

ることができた。

私の趣旨に賛成して「東京だより」を寄せてくれた景山さん、一番親しみ深い桜山さんたち七期生の人。折々の返信はがきに近況をつづってくれた人たち。一人一人が私にとっては身近な存在だった。

石井さんをはじめ千本木さん、森本くん、大橋さん、園部さんらの在校生にもずいぶんお世話になった。

文官会長失格…

私はあまりにも大きすぎる夢を描いたのであろうか。自分がやらなければと、気のいい鷺鳥よろしく川の流れを飲みほそうとしていたのだろうか。

私は疲れたのかもしれない。ふと、信じ込んでいた仲間こそつばを向かれた「醜いアヒルの子」を思い知らされたのだった。大きな流れの中で水を飲みほそうとしていたのに、川上ではそれを笑って水を流し込むいたずらな仲間もいたかもわからない。

私は自信をなくした。丈夫なからだでもないし、当分休ませてもらいたいと思っている。業半ばにして投げ出すのはさびしいけれども、しばらくは自分を大事にしたい。新しい人に譲って、会長の席を立ち去ることにする。

A K C ヴォーカライズ

昭和三十一年度の歩み

〔A K C ヴォーカライズ第二期会員登録〕

昭和三十一年度9月20日締切＝登録28名

〔昭和三十一年度役員選挙〕

昭和三十一年度9月30日締切＝有効投票19名

当選者 会長 浅井 幸三(五)

副会長 若林 延昌(五)

委員 田中 蓉子(六)・

西川 弥子(七)

水野 令子(八)

五、六、九各期委員は空席

〔機関紙ヴォーカライズ発行〕

第4号 昭和三十一年11月5日 6 P

A K C 音楽会を聴いて

第5号 昭和三十一年12月16日 4 P

招待席とC席・東京だより

第6号 昭和三十一年1月1日 6 P

A K C 史昭和30年度

第7号 昭和三十一年3月2日 4 P

新卒生に贈る・東京だより

第8号 昭和三十一年3月20日 4 P

文官会長自賛・自責の記

〔第一回うたのつどい(クリスマス)〕

昭和三十一年12月23日 PM1.00 旭丘音楽室

参加者十八名 卒業生9(男6・女3)

在校生9(男3・女6)

〔A K C ヴォーカライズ委員会〕

第一回定例 昭和三十一年10月6日＝4名＝

広小路「シキシマ」

第二回定例 昭和三十一年11月11日＝4名＝

旭丘高校音楽室

第三回臨時 昭和三十一年12月3日＝6名＝

浅井幸三方

第四回定例 昭和三十一年12月12日＝3名＝

浅井幸三方

第五回定例 昭和三十一年1月6日＝7名＝

浅井幸三方

第六回定例 昭和三十一年2月10日＝流会＝

旭丘高校音楽室

第七回定例 昭和三十一年3月6日＝4名＝

今池「絵夢」

委員(五名) 中、過半数(三名)の出席者があれば成立。第三、五回目は在校生側も参加している。

三月十九日現在、会費納入者は二十一名に達した(既報後の納入者 棚村啓子、水野俊彦、松島久子)。本来ならば会計報告を詳細にすべきであるが、会費徴収の不手ぎわにより決算不能となり、委員会の選任した会計役田中蓉子副会長の兼務はとかれた。

委員会だより

なお既徴収分の会費は全額昭和三十一年度へ繰越しと決定したので、本年度分の会計報告事項は皆無である。

編集後記

○：まず、おわびしておきたいことがある。前号で近刊を予告した「旭丘高校音楽部史」は、編集者の事情により年度内発行ができなくなりました。もとより当初公約したことでもあり、たとえ遅れても昭和三十一年度委員会の責任において発行するつもりなので、しばらくご猶予いただきたい。

○：半年というわずかな間ではあったが読みづらい印刷、かたい文章をよく辛抱していただいたこととお礼申し上げます。からだの故障で何日となく発行が遅れたりしてご心配をかけた向きもあった。できるだけのことはやりたかったが、予期した原稿を集めることもできず、個人的な頼み込みでわずかに面目を保ったにすぎなかった。

○：このつぎに「ヴォーカライズ」の編集者となる人へは全幅の援助を惜しまないでほしい。みんなが作る機関紙、もつとゆとりのある、みんなの名が出る楽しい「ヴォーカライズ」にしたいものだ。○：きょうまで支援くださった方々に感謝したい。私の仕事は中途半端だったが……。

1957.4.23 (火)

VOCALIZE

No 9

AKCヴォーカライズ機関紙

ごあいさつ

昭和三十二年度委員会

第三年目を迎えて、AKCヴォーカライズもやっとその名が奇異でなくなってきたように感じられます。

しかし、一部の方々から発展性のない無意義な集まりと批判され、他方では忙しいからとでもやっつけていけないという誤解に近い見方で、このつどいを離れていかれる人を見ると、相反した二つの観点がともにこの会を正確に理解されなかったゆえんと遺憾でなりません。

コーラスは和、と教えられ、そしてそう思っ一つ一つの合唱団にいたものが、対人関係で和を形成し得ぬはずはないと信じたものです。私も新しく選ばれたものは、これから先、よき集まりとすべく努力したいと存じます。何分とも御支援のほどをお願い申し上げます。

昭和三十二年四月二十二日

浅井 幸三・中尾 桂二
景山幽香子・西川 弥子
上前 佳子

AKCヴォーカライズ

打合せお知らせ

昭和三十二年度AKCヴォーカライズ第一回行事は、旭丘高校音楽部員との対面および合同混声合唱練習を兼ねて、今後の活動方針についてご意見を伺う総会として開催いたしたいと存じます。時間的制約であるいはご無理かとも存じますが、極力ご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

一、日時 四月二十七日(土)
午後一時半より

一、場所 旭丘高校音楽室
一、内容 混声合唱練習(在校生と合流)
午後零時五十分開始

AKCヴォーカライズ打合せ

①ハイキングについて

②昭和32年度行事について

③その他

以上

昭和三十二年四月二十二日

AKCヴォーカライズ

昭和三十一年度役員選挙
投票結果と
新人事

三月下旬、郵送方式によって行いました昭和三十一年度の役員選挙は、締切日の三月三十一日までに十二票の投票がありました。前年度に比して著しく不振な投票成績ではありませんが、投票された方のご意思を尊重し役員を決定したいと存じます。

しかるに四月上旬に至り、当選者、次点者のうちから、若林延昌、田中蓉子、水野令子三氏が脱会あるいは休会の意を申出られ、はなはだ遺憾ではありますが、一部欠員のまま委員会を発足せざるを得ない事態となりましたのでご了承願います。

新役員はつぎのとおりであります。

▽会長 浅井 幸三(五) 再
▽副会長 中尾 桂二(七)
▽委員 景山幽香子(五)
西川 弥子(七) 再
上前 佳子(八)

六期委員は空席とし、九・十期委員は後刻決定します。

各委員の得票の詳細は別表のとおりであります。ただし、副会長については前記の事情により若林氏の就任を得られず、次点の水野令子嬢も同様辞退されましたので、いま一人の同点者、中尾桂二氏に決定しました。また委員については、六期の田中嬢辞退のあとの繰上げは留保しました。残りのメンバーはたとい一票でも得票のありました人をそのまま当選としました。

ただ、全投票数の少なかったことから円滑な人事とならず、加えて各人それぞれの事情により昨年度のごとき月例委員会は開催できそうにもなく、当分委員会の機能を停止いたしますので、ご了解願います。

一日も早く正常な委員会活動を行えるよう努める所存ではおりますが、その間、会務については浅井幸三が個人として連絡事務、会計事務に当たります。当分の間、一切の連絡は浅井幸三あてにいただきますようお願い申し上げます。今回の役員選挙において種々円満を欠いたことを残念に存じ、管理者としておわびする次第であります。

投票率

期	会員	投票	率
5期	6	3	.500
6期	10	3	.300
7期	8	5	.625
8期	5	1	.200
9期	1	0	.000
計	30	12	.400

(会員数は3.20現在のもの)

各 期 別 得 票 数												
		会 長					副 会 長					委員
		5	6	7	8	計	5	6	7	8	計	
5期	浅井 幸三		3	5		8	1				1	1
	若林 延昌	1				1		1	3		4	1
	景山幽香子					0					0	1
	棚村 啓子					0	1				1	
6期	田中 蓉子					0			1		1	2
	鈴木 寛				1	1					0	1
7期	西川 弥子					0				1	1	3
	中尾 桂二					0	1	1			2	1
	福岡二三子					0					0	1
8期	水野 令子	1				1		1	1		2	
	上前 佳子					0					0	1
白 票		1				1					0	
計		3	3	5	1	12	3	3	5	1	12	12

東京だより

(その3)

景山 幽香子

改名のこと

二、三日中に家庭裁判所から調査に来るという話。裁判所にお世話になるような夫婦げんかも、素行不良の娘もないのに、と首をかしげたが、よく聞いてみると、一丁目三十六番地に「影山」という家がある。わが家は「景山」ところが、そそかしい郵便夫がいつでも三十六番地を通りこして私のところに配達するので、そのたびに「誤配されました」と持っていくのだけれど、先様に見れば、封書ならともかく、はがきでは内容を全部読まれ

シューベルトの楽想は尽きることがなく、一つ作曲し終ると、すぐ次の作曲をはじめた。しかし書くそばから忘れた。ある日歌手のフォグルのところで彼の歌の伴奏をしていたが、途中で「これはよい曲だ。誰の作曲だ」と叫んだ。それは彼が二週間ばかり前に作曲

音楽

こぼれ話

したものだった。

バッハはあれで意外に怒りっぽく、トオマス教会のオルガンひきのゲルナアが下手クソなくせに自惚れているのに、たまりかね、かつらを彼になげつけて「靴屋になっちゃえ」

るのじゃないかと思うらしい。こちらは他人の手紙、読む必要もなし、ノゾいてみる気にもならないのだが。

こんなわけで両家とも大いに迷惑を感じていたら、先日、三十六番地さんがやってきて「改名しようかと想いますので」と切り出した。いろいろ尋ねてみると、その人もほんとうは「景山」なのだが、東京では「景」は「ケイ」と読んで朝鮮人を想像するので「影」にしたとか。それならわが家は朝鮮系？ ご冗談でしょう、といったくなる。とにかく裁判所が来たら、わずかの理由では許可しないので郵便物の誤配をうんと大げさに報告してほしいといって、その人は帰っていった。これで改名の許可が下りれば、テクテク三十六番地を尋ねていくこともなくなるし、読んだんじやないかと疑ったような顔のオバサンを見なくても済むし、ヤレヤレ。

会員異動告知

◇：昨年度、委員として活躍された左記の方は、このたびいずれも脱会あるいは休会申入れをされました。

若林 延昌(五) 当分の間休会

田中 蓉子(六) 多忙のため脱退

水野 令子(八) 当分の間休会

また、吹附桂子(八)さんも脱退したい旨申出られました。しかしAKCヴォーカライズとしては極力慰留に努めるとともに、会費切れとなるまでは脱会者も会員として取扱う所存であります。今後とも早期復帰方を懇請するつもりであります。

◇：昨年度中ついに一度も連絡を得られなかった左記の方を、残念ですが会員外とします。

加藤 昌子(六) 安田 良江(六)

◇：本年度よりつぎの方々が新加入されましたのでお知らせいたします。

小川恵津子(七) 上前昌三郎(九)

大橋 佑子(十) 園部 靖子(十)

森本 進(十) 〓十期は現三年生〓

また、鈴木京子(九)さんも近く正式加入される予定です。

プロフィール

若林 延昌 君

過去、AKCは女声部員に比してあまりにも少数な男声部員しか持たなかった。しかしまた幾多の優秀なる男声部員にも恵まれたことは事実である。その中でも一、二を争うのがここにいる若林延昌君であることに異論を唱える人はいないだろう。実に得難き才能の持主である。旭丘の一年生当時すでにタクトを振り、ソロの面でも音楽会には絶対に欠かせない有能の士であった。

けれどまた不思議に障害にぶつかる人でもある。昭和二十七年（三年生当時）部長となるや、進学勉強とクラブ活動の板ばさみに会い、加えて当時の一号室騒動から積極的に支援してくれる部員に乏しく、さらに悲劇性を盛ったのが会場交渉で公会堂を失ったことだった。そして当然音楽学校入りと思われていたのが、一年のピアノ練習のための浪人？もむなししくレントゲン学校入り。と思うと、今度は家庭の都合でまた名古屋へ帰って家業につくなど、不運に見舞われ通しの今日までで

あった。最近では声帯障害と伝えられ（デジ注 次号でこの情報を削除）、その才を知るものを驚かせたが、今度ようやく愛知学芸大学音楽科へ入られた。

性格的には地味で、とりつきにくさがその部長時代の難点とされていた。派手に騒ぐことのできないところが、やはり部員には近づきにくく思えたのであろう。と同時に、自分自身を捨てきれないで、献身的にクラブに尽力しなかったことが（いまの在校生はそれが当然のようだが）理想主義派の部員と相いれなかったのでもある。

この四年間、実社会で得た経験は大きいことだろう。その人格形成に必ずやプラスとなったことを信ずるが、ようやくにして自分の道に帰った若林君の自愛と精進を望みたい。CK放送のとき「バスは市内でも有数でしょう」と担任者にいわしめ、テナー陣をがっかりさせたところのバス陣のリーダー。そして秋元雅一郎氏に正式にやるならぜひに……と勧められた当時を忘れないでもらいたいものだ。

前津中学から昭和二十五年旭丘へ入り、ただちに音楽部へ。二十六年度副部長、二十七年（部長）、三十一年度ヴォーカライズ副会長など歴任。三十二年四月愛知学芸大学音楽科入学。昭和十年一月二十二日生れ。

「A」

AKCニュース

◇：昭和三十二年度の旭丘高校音楽部の人事は左記のとおり決定。

部長 佐藤 治江（二年）
副部長 後藤 成价（二年）
会計 大塚 紀子（二年）

なお、佐藤部長はAKC十一代目の部長にあたり、女性部長が桜山さん以来五人連続している。また学年当初から二年生が部長になったのは今度がはじめてで、三年生の全面後退を示すものとみられる。

◇：新人事のもとでAKCの合同練習が始まっている。練習日は、女声合唱が月、火、木、男声合唱は金、混声合唱は土曜日である。今年度から土曜日の午後がクラブ活動の時間にあてられているので、卒業生もこの練習に加わり、合同合唱の素地をつくりたいものである。部員は三年生十八（うち男声二）二年生十二（同三）一年生十三（同四）計四十三名（男声九名）だが、三年生はほとんど練習に参加していない。

◇：新入部生との親睦を図るため、春季レクリエーションを行う。四月二十八日（日）午前十時、八事電停へ集合、東山までの裏山コースを歌いながら歩こうというものの。

旭丘高校音楽部

キャノンシリーズ登場

自己紹介を兼ねて

永井 充

満十九歳の春を迎えた私は、東京写真大学生生活の半分を終了し、四月からは新たに、あと半年の一カ年を、中野にあるちっぽけな学校の中で勉学に励もうとしているところであります。

高校在学中、また卒業後も、私は何の役にも立たず現在に至っておりますが：口の中では一応はきりきり、実行に移すことができぬインチキ野郎が僕という人間なのです。しかしやはり胸の中では何かしてやりたいと思うことはしばしばです。そこで今夜ふと思いついたことが、キャノン・シリーズなのです。

私は写真大生活の一年間（写真屋の坊主のくせに写真のことは何も知らずに入学した）高校時代よりは楽しく勉強をすることができ、写真に関する知識も、ほんのある程度ばかり積極的に学んできました。全然興味を持たずに入った写真も、日数が増すごとにおもしろくなり、現在では楽しく撮影処理しております。カメラはミノルタ二眼

レフ、パールⅢ型の二台を使っていました。

三月八日は私の誕生日、四月からは二年になるとの理由も伴って、父のキャノンをゆずってもらいました。このキャノンでAKCヴォーカライズの人々を毎月一人ずつ撮影して、皆様にその人の近況を紹介するとともに、私自身の芸術的真？の発表を試みたらと考えたのです。音楽に関しての記事などは先輩その他諸々の人に頼んで、私がこれから進むべき道である写真を通じて、皆さんとの交わりを続けていきたいと思っています。五期ともなると、顔も名前も知らぬ人が多いのですが、折をみては撮影し、話もしていきたいと思っています。

キャノン・シリーズはAKCヴォーカライズの人々全員を紹介するまで努力しますから、多少の御期待を願います。

なお第一回として、前副会長である若林延昌さんを選びました。

三月二十四日

データ
キャノンシリーズ
(1)
若林延昌君

キャノンⅣS B、
キャノンレンズ
50mm f1.8、コニ
パンSS 絞り4
1/60秒 コニド
ールスーパー ペ
ロナF3
1957年3月27日
PM 6.00

Invention

○：ふたたび、「ヴォーカライズ」の編集にあたることになったが、昨年ともに働いてもらった委員の人たちを失ってさびしい。「委員」の席がそれほどまでに重荷でありそれがために惜しい人たちを失うのであるならば、私は委員会活動を休止したいと思う。一日も早く、その人たちが復帰してくれるように願ってやまない。

○：永井充君の好意で「キャノンシリーズ」を始めることになった。永井君には物心ともに負担をかけることになるが、「みなさんの好評を得られるようになるなら実費をいただくから」とのこと。大方のご賛同を得られるのなら、会費を増徴してでも支弁したいが、みなさんのご意見を承りたい。

○：と同時に、プロフィールを復活。キャノンシリーズとあわせて一連の成果を収めたい考えである。これもまた気の長い話ではあるが、いつかは全員すまずことができるはずである。

「次回は田中蓉子さん」キャノンシリーズも○：新しい加入者を迎えて、現在の会員数は三十三名（うち態度保留者五名）である。多くは望まないが、せめてこれだけの人数でもまとまっていたいものだ。
(Z)

AKC ヴォーカライズ

会 員 名 簿

(昭和 32 年 4 月 20 日現在)

5 期	浅井 幸三	名古屋市東区豊前町×××	中部日本新聞社
	景山幽香子	東京都杉並区×××	
	棚村 啓子	名古屋市東区豊前町×××	
	中島 重子	名古屋市千種区橋本町×××	すみれ洋裁学院
	毛利 豊	坂出市×××	日清製粉坂出工場
	若林 延昌	名古屋市東区豊前町×××	愛知学芸大学
6 期	足立 孝子	岐阜市×××	岐阜県立大学病院
	鈴木 寛	名古屋市東区百人町×××	南山大学
	世古伊都子	名古屋市千種区赤坂町×××	滝定
	田中 蓉子	名古屋市千種区弦月町×××	川西倉庫
	原 まき子	西宮市×××	
	増田 容子	大阪市阿倍野区×××	日本楽器大阪支店
	松沢 暢夫	名古屋市千種区唐山町×××	名古屋工業大学
	水野 俊彦	東京都練馬区×××	東京芸術大学
		名古屋市中区日出町×××	
7 期	小川恵津子	名古屋市千種区丸山町×××	愛知学芸大学
	桜山 崇子	東京都杉並区×××	国立音楽大学
		名古屋市東区徳川町×××	
	佐々 知子	名古屋市昭和区天白町×××	村松洋裁学院
	吹附 佳子	名古屋市東区水筒先町×××	ライオン歯磨
	中尾 桂二	春日井市×××	名古屋大学
	西川 弥子	名古屋市昭和区天白町×××	井戸田愛児園
	福岡二三子	名古屋市昭和区塩付通×××	三和銀行金山橋支店
	村田 陽子	名古屋市千種区徳川山町×××	天神山幼稚園
8 期	上前 佳子	名古屋市千種区幸川町×××	愛知学芸大学
	永井 充	東京都新宿区×××	東京写真短期大学
		名古屋市東区堅代官町×××	
	松島 久子	名古屋市千種区鹿子町×××	愛知県立女子大学
	水野 令子	名古屋市千種区丸山町×××	U C G C
	三輪 佳子	名古屋市千種区東明町×××	U C G C
9 期	石井よし子	名古屋市千種区月見坂町×××	愛知学芸大学
	上前昌三郎	名古屋市千種区幸川町×××	愛知学芸大学
	鈴村 京子	名古屋市東区新出来町×××	南山大学
10 期	大橋 佑子	名古屋市北区古径町×××	旭丘高校
	岡部 靖子	名古屋市東区新出来町×××	旭丘高校
	森本 進	守山市甘軒家×××	旭丘高校

(デジタル注) 住所の詳細と電話番号は復刻していません。

1957.5.21(火)

VOCALIZE

No. 10

AKCヴォーカライズ機関紙

おるがん調

笹沢

美明

：「海市帖」より

1

オルガンは
黄昏の音楽
それは呼声
それは言葉
丘や野原や
樹の枝から
神々は静々
子供と共に
帰って来る
ともしびの
滴する家へ

2

あの少女は
ほそい指で
オルガンを
押しつける
オルガンは
重い調子で
歎いてゐる
然しやがて
長い音調が
幻想の羽を
吹きつけて
その少女は
神のやうに
真白になる

―住所変更―

永井 充 (五月より下宿が変りました)
東京都中野区×××

九・十期委員に

石井よし子さん

(九期)

AKCヴォーカライズの九・十期委員は未定となっておりますが、両期とも三名ずつの会員のため、あわせて一名の委員を選出することになり、五月中旬九・十期会員による選挙(郵送方式)で石井よし子さんが選ばれました。

投票結果はつぎのとおりであります。

(投票数4、投票率・66.7%)

当選 石井よし子(九期)

次点 上前昌三郎(九期)

3

1

なお、これにより昭和三十二年度役員は空位となった六期委員を除いて全員決定いたしました。(六期委員の補充は行わない方針でありますので、ご了承願います)

全役員決定に伴い、休止しておりました委員会活動を再開いたします。

第一回定例委員会は、五月二十六日

(日)午前十時より浅井方において開催いたします。会員諸兄弟のご参加を歓迎いたします。なお今後でき得る限り定例会を行いますので、ご意見お寄せ願えれば幸いです。

A K C から

森本 進

拝啓 新緑の候となりましたがいかがお過ごしですか。新学期を迎えてもう一月過ぎました。クラブでは二年生を中心に活動を始めております。近況を簡単にお知らせいたしますが、何分活動にノータッチでありますので、はつきりしないこともあります。

今年から、土曜日の五時限はクラブ活動の時間と定められました。この趣旨は、クラブをさぼるのを防ぐことにあつたようですが、これは逆効果で、クラブ活動のために午後まで残っているような殊勝な人は、部員の半分くらいです。これは三年生が全部ぬけてしまふからでしょうか。数では一番多いから。活動は月、火が女声、木、土が混声、金が男声に変更されています。混声は部長の佐藤さんのピアノ、副部長後藤君の指揮で、四月中（といって二度）校歌、このあと日本古謡「あかがり」ドヴォルジャークの新世界より「家路」の予定。今年は男子が多いので四部合唱を行っております。男子は三年生を加えて十人（三年12、二

年13、一年15）ですが、三年生がぬけますし、一年生の二人は歌うことが目的で入っておりますので、歌えるのは六人ぐらいです。歌い方は一年生はまことにおとなしく、二年生はらんぼうすぎる感があります。その一年生がバス、二年生がテナー。男声合唱はまだ一度もやっていないようです。やっても二部しかできないうでしょう。

予算については二万円要求してあります。昨年もしか二万円要求しましたが一万三千円でした。今年はいくらくれることやら、千本木さん、園部さん等が交渉中。

男子部員について私見を二、三述べてみます。後藤君は一年のときにくらべ相当に進歩しましたが、まだ発声に難があるようですし、発音の不明瞭な点もあります。しかし副部長となつて、ものすごくはりきつていて一番信頼がかけます。新しく入った二年生二人は歌い方がおそろしくらんぼうです。これは練習するうちになおるでしょう。これと対照的なのが一年生で、おとなしすぎます。この一年生のうち二人は有望です。あと三人はまことにあぶなつかしく、退部しないともかぎりません。何か楽器があるかと思つて入った、というのが二人いますから。四月二十七日にする予定だった卒業生

額面通りの演奏

との合同合唱ができませんでしたし、卒業生と一緒にこのきらいな二年生です。ことしはまた大きなみぞがこの間にできそうです。これでは指導者のない音楽部は困りますので、夏休みに一度合同合唱などをする必要があるんじゃないかと思ひます。文化祭に合同合唱をするのなら、なおさらこれは必要です。

五月五日

N響の指揮者だったローゼンシュツク氏が日本に来て最初の練習の日かねて有名な指揮者だから、さぞかしいろいろ注文もあり、譜に書き込みをせねばならぬことだろうと思つた世話係が、楽員たちに練習開始の前に鉛筆をたくさん配った。これを見ていたローゼンシュツク氏、「私は譜に書いてある通り指揮しますから、そんなものはいりません。諸君に消しゴムを配って下さい」

三浦一郎著

「世界史こぼれ話」より

東京だより

(その4)

景山 幽香子

よき国、日本

小さな町や村では、外人とか混血児が一人でもいると大騒ぎするだろうに、広い東京の空の下では、どんなに毛色が変わっていても、だれにも振り返られずに歩くこともできるようだ。

新しく入った洋裁学校には、奄美大島、台湾、中国が一人ずついるらしい。中国からという人は、日本人だけど終戦のどさくさのとき現地結婚をしたとか。奥様を一人日本に出した中国の大人の決心は大へんなものだったらしい。その彼女いわく「中国は新興国であり、今の乱れた日本など足元にも及ばないほど整然とし、生活が安定し、改善されていく。人民はすべて学習することができて……」に始まり、そのあぐく「改造」とか「工作」など固苦しい言葉で一日じゅう中国の賞賛ばかり。そして奄美大島や台湾の人と何やらヒソヒソ語るの、共産党の優等生かと思われるほど。

日本をけなすくらいなら中国に戻れ

ばよいのに、何年もあるのをみると、やはり日本というところはよきお国なのだろうか。

めしの味

永井 充

私は東京に来てから過去一年ちよつとの間に二度も下宿を追い出されてしまった。

今度の下宿は今までのよりも最高に住み心地がよい。新築の建物で二階が三つ全部貸間になっている。流し、便所もあり、すべての行動が二階でできるようになっている。中野警察署のすぐ裏にあり、小さな庭を隔て、台湾時代を思い出させる赤いレンガのヘイの向うに、広い敷地を持つアパートが整列している。なかなか見はらしのよいところで、静かでもあり、交通の便がよいときている。二食つき六千五百円だった部屋代は二千五百円になったが、食事抜きであり、自炊をやらねばならなくなってしまうのが不便といえはいえる。

ここに来てからちようど二週間目のきよう、引越しの変な気分も落ちついてきたから自炊をはじめた。まず、めしは兄

と二人で三合半。これは昔とった何とかやら（引揚げ当時は苦労したよ）で水かげんもよし。おかずは二幸のカツ、フライ、サラダ。

(五月十日・金曜日)

「キャノンシリーズについて」

淡い夕陽の半逆光による田中さんのプロフィール。若林君のと同様に主光源の高さの位置が適当に思われ、いずれも顔の輪郭の線がある程度はつきり表わせたと思います。二人とも個性のある美しさを持つている人だと思いました。トリミングがまずいように思います。髪飾りが気になつてうまくできませんでした。右方、耳のみを入れて全部切りすてた方がよいようです。批評はつつしんでうけたまわります。

(永井)

訂正

前号所載のプロフィール「若林延昌君」のうち、最近声帯障害を伝えられ、という部分について若林君より「事実無根、それどころか最近はずごく快調」であるとの連絡がありました。謹んでおわびし、ここに訂正いたします。

プロフィール

田中 蓉子 さん

(六期)

昭和二十九年卒業まで、AKC内ではまずベスト・メンバーに属していたといえよう。指導的な役割にはつかなかったが、名伴奏者として通っており、特に文化祭などの発表会では独奏者としても活躍した。入部以来の上達はめざましいものがあり、これも毎朝早くからピアノに向う勤勉さの成果であろう。

言うべきことをはっきり言う性格の人であつたから、よからず思う人もあつたようだが、卒業後はかどのとれた全く円満なお嬢さんになった。明朗そのもので、当時の部員諸君はその特別よく響く笑い声が今でも耳に残っていることであろう。

趣味不明。ただし写真をとられるのが大きらいで、めつたにカメラなど向けられなかったが、ポーズはいつも満点である。最近の名古屋シティバレエ団に属し、バレエに精進されている。多忙のためとして、目下ヴォーカライズ脱会を申し出ているが、これを熱意

のさめた結果とはみたくない。ヴォーカライズでは副会長、会計などの任にあつて、今後に期待していただけに、われわれにとつてこれだけの人を失うにしのびない。

振甫中学の出身で昭和二十六年旭丘高校へ入学、以来二十九年卒業までの三年間音楽部員として活躍された。その間二十七年年度会計を勤める。卒業してのちは川西倉庫に勤務されるかたわら余技としてバレエのレッスンにも身を入れている。ヴォーカライズには準備会当時から名を連ね、三十一年度は副会長・会計に選ばれた。近來「国民の祝日」として復活の呼び声高い紀元節(昭和十一年二月十一日)の生れ。(中)

ノン・シリーズ (2)
キャロリン 田中蓉子さん

データ

キャノン IV SB、キャノン
レンズ 50mm F1.8、コ
ニパン S S 絞り4
1/60秒 コニドールス
ーパー ベロナ F3

撮影日時 昭和三十三年三月二十七日

午後六時

場所 名古屋公会堂前

(辻久子ヴァイオリン・リサイタル)

撮影者 永井 充

Ⅱ以上のデータは一回目と同じ

「次回は上前佳子さん(プロフィールも)」

Invention

○：五月十七日、N響指揮者ウィルヘルム・ロイブナーの夫人、ルテルデ・ベツシュの初放送があったが、各紙のラジオ欄ではそろって「ベツシュ夫人はウィーン国立歌劇場で活躍していたソプラノ歌手で、「フィガロの結婚」のスザンナ、「魔笛」のパパゲーノなどを演じ」とやった。パパゲーノはバリトンの役柄のはずだが……と思つたのだが、NHKのプリントの間違いか。もつともパパゲーノとパパゲーナじゃ……。

○：今回は久方ぶりに寄稿で埋まつた。しかし今回のように四人の寄稿者によつてすら、わずか四ページをもてあますのである。編集者がいかにお手上げをつづけているか、あるいはわかっていただけるかと思う。協力を仰いだ方々にはお礼を申し上げる。

○：キャノンシリーズは第一回にして、おもしろい試み、大へんいいと好評を得た。今後とも、その名声保持のため永井君が格別の努力をされるはずである。また委員会活動の再開を機に、新しい試みの二、三を用意している。具体的には後刻に譲るが、種々の企画に対して皆さんのご助力とご批判、自由なる投稿を切望する。

(Z)

1957.6.23(日)

VOCALIZE

No.11

AKCヴォーカライズ機関紙

おるがん調

笹沢 美明

：「海市帖」より

私はタぐれ
オルガンに
耳を傾ける
オルガンは
遠い古びた
声と歌とで
私を慰める
幼年が遠く
崇高く聳え
純粋が白い
蜂のごとく
舞ひめぐる
姉や妹達は
豊かに笑ひ
手を携へて
私を囲んだ
その想出が
湧いて来る
オルガンの
音よ、響よ
お前は秋を
掴みとって
魂を揺する
そして歌う

想出はあの
夕暮の雲だ
それは空を
装ひ飾って
全く静かに
夜へ中へと
沈んで行く
はかなくも
又崇高な影
そして私は
一日を顧み
今日の上に
明日の姿を
描いてみる
想出は私に
何だろうか
それは私の
母であった
それは私に
養分をくれ
私を純粋に
保って来た
オルガンは
タぐれ私に
かく告げる

告示

七期委員に福岡二三子さん

前年度に引きつづき、七期委員として
尽力された西川弥子さんは、このほど
一身上の都合により委員を辞任されま
した。後任には、西川さんの推薦もあ
り、次点者という意味からも、福岡二
三子さんに就任していただくことにな
りましたのでお知らせいたします。

なお、これにより委員会の構成員は
つぎのとおりとなりました、

浅井 幸三 中尾 桂二
景山幽香子 福岡二三子
上前 佳子 石井よし子

水野令子さん、正式に復帰

一時、休会していられた前年度委員の
水野令子さん（八）はこのほど正式に
AKCヴォーカライズに復帰されまし
た。

現在、会員待遇となっている人々
はつぎのとおりです。

若林 延昌（五） 田中 蓉子（六）
吹附 桂子（七） 鈴木 京子（九）

招待席 **C**

座談会

リチャード・タツカー

独唱会をきいて

招待席C のいわれ

「招待席C」って何だ、とおっしゃるのですか。これは失礼しました。そういえば、こんな記事ははじめてでした。日ごろつながりに乏しいAKCヴォーカライズが、好評の「ギャノンシリーズ」に続いて、新しい企画として生み出したのが、ここにいう「招待席C」なのです。月に一度、そのときの音楽会に二、三名ずつの会員を招いて、そのあとで感想を語り合おうという筋書きですが、いかがでしょうか。もつともあまり金持ちでないメンバーの集まりですから、招待席といっても「C席」にしか該当しないというのが、「招待席C」なるいわれです。

これが、たとえわずかでも皆さんとAKCヴォーカライズとのつながりを深めることに役立つならば、企画者としてはこれに増す喜びはないのですが…。

第一回の「招待席C」は六月十九日、名古屋市公会堂で行われた「リチャード・タツカー独唱会」に二名の会員を招いた。招待者のうち一名に故障が出て、あわててピンチ・ヒッターをさがしたりする一幕もあったが、どうやらうまく運んだ。そしてうまいぐあいにこの日来場していたAKCヴォーカライズの他の二人にも参加してもらって、座談会を開くことになったのはいいが、肝心の批評をはずれ脱線につぐ脱線、結局は要領を得ないまま、うまくごまかされてしまったが、そのいきさつは、次なる座談会によってご承知ねがうでしょう。

出席者

招待者	田中 蓉子 (六)
特別参加	森本 進 (十)
編集部	小川恵津子 (七)
	石井よし子 (九)
	浅井 幸三 (五)

A タツカーは東京ではだいぶ評判が悪かったことですが、きょう聞いたところではどうでした。

T ものすごく評判が悪かったというので、そのつもりで聞きに行ったから、その割にはよかったと思う。

I 私は全然評判なんか聞いていなかったのですが、そんなに悪かったのですか。

T 専門家からはよくいわれないのね。
A じゃ、そのはじめて聞いたところ

I まだ、ゆっくり考えないと……。
M この前、CBCの放送で一回やつたでしょう。あれを聞いたんだけど…。

T 放送のときと、きょうの歌は同じだけど、あのときの方が変じやなかった？ きょうの方がいいみたい。ラジオでやったときは……ラジオが悪いんじゃないのよ(笑) ぼつぼつと切れたので、すごく気になったの、あの人、ずいぶん声が伸びないんじゃない。低い声があまり出ないし、高い声もあまりよくない。それにアメリカ人だから甘いということはない。

I 固いというのかしら、すごく固い。
T だから、イタリアの歌なんか甘さがなくて変だった。やはりアメリカの歌の方がいいんじゃない。

M アリアがよかったと思う。
I アメリカのものでしようね。
O アメリカのものはびったりして
 いるような感じがする。
T アリアだっていいのもあるけど。
I 「トスカ」なんか、すごくよか
 った。
T 「トスカ」と「ボエーム」ね。
A よく知っているのはいんじや
 ない。
T (笑) そんなことはない。「人知れぬ
 涙」なんかよくない。
I イタリアものだからよけいね。
 甘くないから。
A 客席が明るいのは……。
I スティーバーのときも明るかつ
 たでしょう。慣れないからおかしな感
 じがするのね。
T 私は明るいのははじめてだけど、
 あれは出演者が希望するんでしょう。
 普通の人だったら、客席は暗い方がや
 りやすいのじゃないかしら。会場は暗
 い方がいい。
O 静かな感じがするわね。
I 明るいとき空席が目立っちゃうみ
 たいで殺風景ね。
T 歌ってても、席があいてると、
 いやな感じがするでしょうね。……か
 わいそうに。

I 歌うとき手に紙を持っていたでし
 よう。あれが気になった。
O あれ、歌詞が書いてあるんでしょ
 う？
T そう？私はまたプログラムでも持
 っているのかと思った。
A あまり見なかったようだけど。
I はじめのうち(聖譚曲)なんか、
 よく見ていた。
A アリアになったら全然見なかった
 ね。
O やり慣れたのは見ないのね。
T 日本の歌をやったでしょう。あれ
 「二十三日」(山田耕筈曲)っていつて
 たけど。日本の歌を知らないなんて、は
 ずかしいわね。
A あれが日本語だなんて思えなかつ
 たね。「二十三日」というから、てっき
 り日本語と思って聞いていても、どうも
 わからない。
O 終りの「ねむくなつてきた」とい
 うところだけわかった。(笑)
T 日本人の方がもつとうまい。外国
 の歌を歌うのは。(笑)
I 外国の人が聞くと、きょうみたい
 に聞えるのよ、きつと。
M 日本人がロシアで歌ったときに、
 向うの人に「日本語はロシア語によく似
 てますね」といわれたって。(笑)

A ところでピアノへ移って、どうで
 す。
T 全然ね。タッチが引きずってるみ
 たい。
I ショパンでもショパンらしくなか
 った。
T あの伴奏者、あまり歌を知らない
 んじやない。歌の感じがわからないみた
 い。
A 臨時の伴奏者でもあるまいにね。
I (プログラムを見て)十二年間も
 一緒にやってきたんですって。
A 信じられないよ。一体十二年間も
 何をやってたんだい。
I ジャズでもやってたんじやない。
O 歩き方は愛嬌があるけれどもね。
A 二人とも背はあまり高くないね。
 ぼくと並んだけど(笑)同じくらいだ。
 もつとも幅の方は三倍はあるね。
T タツカーの写真を見て、一番はじ
 めに何に似てると思った？…(一同声
 なし)…カエルに似てない？コルゲン
 コーワの広告のカエルね、こういう顔し
 てる。(笑)
 という次第である。まったくひどいこ
 とになってしまったので、あわてて速記
 は中止。AKCの現役Mくんも、先輩の
 女性軍に完全に圧倒されて、その発言す
 ら封じられてしまったわけ。

リチャード・タツカー論

水野 俊彦

戦後いち早く来日したタリアビーニ以上に期待をされていた、メトロポリタン首席テノール。リチャード・タツカーの独唱会は六月三日、日比谷で第一回のリサイタルが催されたが、カーソーの再来とまでいわれたのに反して、不評のうちに終わった。翌朝の新聞は酷評に近く、彼は「演奏旅行で各国を回ってこのような批評を受けたのは初めてであり、日本の批評家はむちゃだ。私の音楽はすばらしい。大衆のためのものである」といって、まっ赤になつて怒つたそうである。しかし、聞いた人たちの大半も期待を裏切られた面持だったようだ。

タツカーの歌に対する一貫した考えは、せんさいさ、きれいに乏しく、非常に荒けずりな感じだ。たしかに彼の声にメツツアボーチェはかすれたような声になり雑音を感じる。そうして一本調子な感じすら受ける。

戦後タリアビーニを初め、アリゴ・ポーラー、また昨秋来日したイタリ

ア・オペラなど本場イタリア人の声を聞いている日本人が、それと比較してよしあしをいうことはよくない。たしかにアメリカのセミ・クラ的な歌は好評を得ていることからわかる。

と同時に、タツカーはドラマティックなテノールであり、またオペラ歌手なのである。タリアビーニのようなレッジエロなテノールとは異なつて、せんさいな技巧を要求することはできないのである。タツカーがメトロポリタンの豪華な舞台で、コスチュームをつけて歌つてこそ、はじめて彼の真価を認めることもできよう。彼が礼服を着て、神妙に独唱会をしたのでは満足できないのであり、そうなれば、もっと技巧、表情の豊かなものをつい要求したくなるのである。

また一つには、日本人の音楽性、国民性から、つまり身近な邦人のテノールをみても、至らぬまでもレッジエロがあり、あのドラマティックな声はなじみ遠い点にあるのかもしれない。

以上のような点において、イタリア人の甘美な声を要求していた点からこのような結果を招いたのだろう。また発声とか歌というものを期待していた人たちにも、縁遠いものであったに違いない。悪くいえば、オペラの役者としての彼を考へてきけば、その偉大な声のスケール

ルにも感激できると思う。
なお伴奏者が途中でピアノソロをいれたりすることもよいが、ショパンのワルツなど、まったく興ざめのする演奏だった。

果物とフロの味

永井 充

A 東京に襲われ、食欲減退という、私にとつてはめずらしい異変が起りました。自炊の不便さが手伝つて、めしのまづさは増すばかり。付近の食堂は一軒だけで、まづいものばかり。食欲をそそつてくれる条件がないさまで困つてしまいました。薬は飲まないことにしていますから、なおるときにはよくなることよと、気分の悪い日は床の中へ入り、学校へも行ったりしていました。食物を腹の中へ入れなくてはどうにもならぬと思ひ、新宿の高級フルーツ・パフェを食べることにし、食事のためにわざわざ新宿まで電車に乗っていきましました。なつかしい南の国を思い出させるくだものでした。このときのフルーツ・パフェの味！
(5 ページ下段へつづく)

デジタル注 「A 東京」はインフルエンザの型

東京だより

(その5)

景山 幽香子

文鳥の性転換

これから書きますことは、よく読んでいただかないと、頭の中で混乱するかもしれません。近ごろ流行の性転換が、小鳥にまで及んだ？お話。

昨年五月、白の手乗り文鳥を二羽買ってきて、タロ、ジロと名付けました。もちろんヒナですから雌雄の別のわかれははずもないのですが、飼主が娘ばかりなので、せめて文鳥の名でも男性にしようと思ったからです。しばらくのちに、タロは野良猫がチョイチョイと手を出したばかりにショック死いたしました。そのかよわさから考えると女性だったかと思えます。で、ジロだけではさびしかろうと、三番目に来たのがサブ。タロとジロは大へん仲がよろしかったのに、ジロとサブはにらみ合いばかりで全然近づこうとしないのです。そのうちに、ジロはわずかな戸のすき間をくぐって大空のかなたへ大旅行に出かけたまんま。この辺までは、どの鳥も子供でしたから、二世も生れ

なかったわけです。

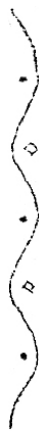
残ったサブがえさも食べないでえさも食べないでションボリしているので、小鳥屋に連れていってお見合いをさせました。小鳥屋のオジサンというところに夜と、サブは雌なのだそうです。それでシロという男性をオムコさんに迎えたのですけど。夫婦？とも産れた卵を温めることも知らず、従って一羽のひよこも見られなかったわけ。しかたがないので再び小鳥屋に行くとオジサンいわく「シロは最初雄だったけど途中で雌になったんですよな」？？結局無精卵だったらしいのです。そこでシロと取りかえてきたのがゴロツペ。今度こそ大丈夫だろうと意気こんでいましたのに、相変らず産れた卵は二十一日たってもひよこにならず、二羽とも他人、いや他鳥の子供だといわぬばかりに、温めるのをやめてしまったので、気をもんだ人間がところもあるうにコタツの中へ入れて、親鳥の代りに温めたまではよかったのです。気がついて取り出して殻を割った中から出てきたのは半熟玉子でした。

いまだにサブとゴロツペの雌雄がわからないありさめですが、それにしても、子供のとき男性で、成長して女性になるなんて妙なことがあるものではないですか。

(4ページ下段からつづく)

このおかしい健康状態の間、ほぼ一週間、フロは危険なものと思い入らず、下着を一度かえただけ。この梅雨時独特のむし暑さに、汗はじわじわと、仕事の関係で神田、銀座と歩いたりしたものですから、身体はよごれ、気分の悪い、イヤーナ感じ。これを人の少ない広いフロ屋で流し落したときの気持。ゆっくりとお湯の中に入り、鼻歌を口ずさむときの味！

私は旅行が好きで、五月には軽井沢へ、六月二日には三ツ峠へハイキングに行きました。皆様、健康にはくれぐれも注意のほどを。



音楽 こぼれ話

三つの鐘ロシア版

ロシア帝政期の末ごろ、ある田舎の劇場で合唱団員を募集した。二人の若い浮浪者がこれに応募して試験を受けた。その結果、マキシム・ゴリキーという浮浪者の方は合格し歌手に採用され、フェオドール・シャリアピンという名の方は落第してしまった。

プロフィール

上前 佳子 さん

(八期・委員)

愛知学芸大学在学中の彼女は今教生実習中とのこと、人づきあいのよい、あけつばなしの性格で、日に一通は手紙が来るといふほどの交際家だ。旭丘在学中は……入学と同時に音楽部に入りになったようだが……部室においては持前の活発さで騒々しい存在であられたようだ。役員になられたということは聞いてはいないが、部においてはピアノ練習と合唱(メゾと記憶)に参加していられた。合唱は小学校時代の音楽会参加で始まり、ピアノは中学校へ入られてからおはじめになったとのこと。初めから先生になるつもりでいられたかどうか、もちろん知る由もないが、学大音楽科に入り、好きかどうかこれまた知る由もないけれども、歌を歌い、ピアノ演奏をし、学校を終えられるのだから、他の音楽勉強をしてみえる方と同様に、同じ音楽部を出てヴォーカライズに参加はしているものの、直接音楽とは縁のない生活を送るものにとってはうらやましき存在である。

趣味はたくさんおありのようだが、写真には特別の興味を持っておられる様子。彼女は今学校を二年で終了すべきか、二年後の卒業をまって学校を出られるかの決定のときに直面していらっしゃるが、いずれにしろ彼女の性格からみて、将来旭丘に入学しヴォーカライズに参加するかもしれない小学児童を教育する任を立派につとめられることと期待しつつ、彼女の今後ともともにありたいと思う。

また同じくヴォーカライズ会員である弟君は「うちでピアノの練習をしなれば」といつてみえたが、音楽に興味をもつ家で育った彼女はしあわせといえる。

四日市市立山手中学を出られたのちご家族とともに来名され、以後名古屋市民として、昭和二十八年四月旭丘高校に入学、同三十一年三年間の旭丘生活を終えられ、同年四月愛知学芸大学音楽科に入学され二年在学中。昭和十二年四月二十九日生れで、国旗が立てられるのをよろこびとのこと。

(昌)

キャン
ンズ (3)
シリーズ
上前佳子さん
データ

キャン IV SB、キャン
ンズ 50mm f1.8、ロニ
SS 絞 5.6 1/250 ロニ
ドールスパー 吉野 3
(3月31日 旭丘に))

Invention

○：お約束の、AKCヴォーカライズ昭和三十三年度の新企画として「招待席C」をはじめめることになった。日ごろ、顔を合わせる機会の少ない私たちとしては、こんなことを通じてでも、ときおり座談の場を持つことはいいと思う。

当分はうまく行かないかと思つていたが、第一回にしておもしろい結果を得られた。みなさんの「招待席C」に対するご意見、ご希望が承ればありがたい。

○：在流行性感冒のあたりで、会員の中心にも何日か休まねばならなかった人が出たが、大事はないようである。こんな折になるとやはり月に一度は、委員会あてに近況を知らせておいていただけなののかと思う。かぜを引いたとか、学校はいま試験だとか、その程度でいいのだが(締切は毎月十八日)

○：今月も四人の方の寄稿が得られた。今後ともできるだけ多くの人に、力となつていただけることを望みたい。メンバーがかたよるといふ批判を生みたくないが、それを形成するのは決して私どもの責任ではないはず。

○：「キャンシリーズ」来月の人はまだ決まっていないが、今度は東京在住の人の中から選ばれることになっている。

(Z)

1957. 7. 22(月)

VOCALIZE

No.12

AKCヴォーカライズ機関紙

旭丘高校音楽部
AKCヴォーカライズ 共催

合同合唱練習

お知らせ

本年度のAKC音楽会に備え、また夏季中の相互の親密を深めるための集まりとして、旭丘高校音楽部の在校生、卒業生合同混声合唱練習を行なうことになりました。

これは音楽会当日、参加できるかどうかは別問題として、一緒に歌う機会を持つという事で計画したものですから、日ごろコーラスに縁遠い人たちの参加をとくに希望します。

なお、第一、二回の練習日程は左記のとおりです。

記

- 一、日時 いずれも二時間ずつ
- 第一回 八月三日(土) PM3:30～
- 第二回 八月十一日(日) AM9:30～
- 一、場所 旭丘高校音楽室
- 一、曲目、指揮者、伴奏者は未定(AKC側は卒業生でやってほしいとの希望)

昭和三十二年七月二十一日

AKCヴォーカライズ

昭和32年度分

会費徴収について

おねがい

七月七日行いました定例委員会で、AKCヴォーカライズ会費につき協議した結果、現在の年額百円を二百円にするこ
とになりましたのでご了承願います。

月刊「ヴォーカライズ」の送料だけでも、年九十八円を要することを考えられ
れば、このたびの増額もご承知いただけ
るものと存じます。

なお会費納入をもって本年度の会員登録に代えますので、期日までに必ずご
納入ください。ご連絡のない折は、退
会されたものとみなすことがあります。

- 1、会費 年二百円(半期百円として
分納を認める)
- 2、期限 八月三十一日(土)までに
委員(できれば浅井幸三へ)
あてご納入下さい。

AKCヴォーカライズ委員会

招待席 C

田中 希代子

ピアノ・リサイタル

第二回の「招待席C」は、二年ぶりに帰国した田中希代子のピアノ・リサイタルで行った。七月二日、火曜日の夜は雨となり、会場の名古屋市公会堂は空気が重く滞って、むっとするいやな気分であった。それを打ち破ったのは、やはり田中希代子の熱演だったといえよう。

今回も当初予定していた招待者のうち、一名が都合で来られないとのこと、またしても代打を繰り出す苦しい布陣となった。しかし会場には、田中蓉子さん、石井よし子さん、それに千本木宣子さんをはじめとするAKC現役の人四名などの姿もみられた。例によって、あまり芳しくない入りの中で目立ったのは、ほかの音楽会と比較して少年少女の数が多かったことであろう。ピアノという楽器の普遍性を示しているものでもあろうが、盛り上りに乏しい聴衆ではあった。

親しみのないプログラムであったこと、批評のしにくいリサイタルであったことなどでそのあとの感想を語る会は著しく不調だったので、今回は被招待者

の一人、松島久子さんの感想文によってかえたいと思う。

C 招待席

参会者	招待者
編集部	小川恵津子（七）
	松島 久子（八）
浅井 幸三（五）	

松島 久子

彼女の演奏はある魔力を持っていて、聴衆の心を全く引きつけるものがあった。私自身、曲目が重なるにつれてひきつけられるのを覚えた。ただ一台のピアノが、何十という楽器で演奏されるオーケストラの演奏に匹敵するほど、多彩で豊かな情感をたたえていた。特にフランスの近代作品、ドビュッシーの「金色の魚」「水の精」、ラヴェルの「道化師の朝の歌」などの詩情あふれる、ニュアンスに富んだ演奏には魅了させられてしまった。しかも演奏は、一般の演奏家たちにありがちは激しい身振りもなく、腕をすら動かすことなく、ただ指先だけがキイの上を

走っているのだった。そしてそのタッチたるや非常に柔らかに流麗で、その指はキイの上をすべる魔物のようだった。曲目はベートーヴェン、ショパン、シューマン、スカルラッティ、ドビュッシー、ラヴェルと、クラシックあり、近代曲ありで、レパートリーの広いところを示してくれた。ドビュッシー、ショパンの作品に、特に彼女の音楽に対する鋭い感受性が感じられた。他の演奏家と比べ、特にこの感受性の鋭さ、タッチの流麗さという点で高く評価されてよいものと思う。

残念に思ったことは、この熱演に対して聴衆の少なかったこと、せっかきききにきているのにその聴衆の理解、関心のうすかったことなのである。日本の第一線のピアニストの存在を認めていないのか、音楽に対する関心が薄いのか、名古屋でのただ一回の演奏会であるのに、二階のA席ですら右半分はほとんど空席とといった状態だった。日本の遅れている音楽会を発展させるには、一般の盛り上げる力がなくてはならない。こんなわけで、よい音楽会に臨まれることを希望します。

サザエ

永井 充

七月九日（火） 曇・小雨。

作画法の実習課題として「波」の撮影。
十時三十分、江ノ島駅に集合。

帰りにサザエを買った。私はただ東京のよりはるかに安いということだけを念頭に買い求めた。それ以外にあるとすれば、石廊崎の浜と長江津興津で食べたおいしい味が頭に残っていたからかもしれない。買ったところは江ノ島の一番奥の海岸で、主人が海から出したばかりの生のいいやつばかりで、タコ坊主も赤い色はしていなかったが、二匹オケの中であればいい。きょうの夕食のおかずにもなると思い、百円札を一枚出し、大きいサザエを五つ小さな網の中に入れてもらった。私は例の四人の友だちのうちの一人、安本くんといつもするような会話をしながら、小田急江ノ島駅の方へゆつくりと歩いた。途中一軒の店でちよつとした買物をしただけで、あとはほとんど最初の歩調で、サザエが入っている網をぶら下げて駅の方へ下っていった。その間

一度変な気持ちになったような気がしたが……。その気持は、電車の中ではしやぎまわっていた小学生の一人が、腰掛の下に置いてあったサザエをさし、「これだれの？」と私に問いながら、それを手に持つて遊ぶのを見て感じたものと同じであつた。サザエは海が恋しい様な、何か弱々しく生きていた。私が持っているサザエは、店で全然動かなくなっているものとは違う。家に着くとすぐ流しの上に置き、水につけてやるうかと思つたが、真水ではしやうがないだろうと、そのままにしてフロへ行き、メシを食い、夕方寝をした。サザエは夕食のおかずにはしなかった。

兄が帰ってきて、目がさめたのは九時近くであつた。流しに行つてサザエを見たが、まだ柔軟性は十分にあつた。私はそれをながめながら「どうしようもない」と言い、下のおばさんにおみやげに思つたりしたが、心の清らかな自分が始末するのが一番よいとし、何か独特の気持でガスに火をつけた。うまく焼けるようにと火を細くし、金網の上に二つのサザエをのせた。ジュージュと汁が出、もがいていた。「ガ」などの生きものに対する私は、サザエがあわれでしやうがなかった。ひと思いにと火を強くした（しか

し多少）。サザエはもがいていたが、一度大きく急激にフタを閉じた。汁がそばにいた私の腰までとんできた。フタと殻のすき間から汁がジュージュと蒸気を出していた。時間がたつにつれ、そのあたりは乾燥し、泡が消えてはしみになつていった。

フタの片すみを強く押すと、ぽろりところがり落ち、うまそうな去年の味を思い出した。はしでつき刺し、ひっぱり出し、砂糖しやうゆにつけて食べた。最近あまり新鮮なものを食べない私は、最も新鮮な食物にありついた。鋭気がぐんと養われたような気がした。二つだけ食べ、あとの三つは満された腹のためと私のあすの最上のたのしみとして、流しにころがっている。

音楽・こぼれ話

公・伯爵御同道

山田耕筈と北原白秋が群馬県の某市から新民謡を依頼され、ある旅館に泊ったところが、番頭、女中総出で大へんなサーブスなので、他の客が「一体あれはだれ様だね」とたずねると「山田コーシヤクに北原ハクシヤク様でございます」

東京だより

(その6)

景山 幽香子

アダ名

学校時代のアダ名は「かまきり」だった。顔が逆三角形で、アゴの先がとがっていたから。卒業してから、試験で悩まされることもなくなったせいかな、だんだん福々しくなつて丸顔になったような気がする。

先日、若い娘ばかり数人がわいわいだべつていたとき、ふとした事からアダ名に話に移り、私のことを「ミルク」だといひ出した。ぼわぼわと何の心配もなく育つて、いまだにママのミルクをのんでいるような感じがするからだというのである。考えてみると、決していいニックネームではない。よくいえば世間ずれのしていない、おとなしい女の子だけど、悪くとればカマトトの、甘えん坊の、世間知らずの、もつとひどくいえば最近流行のベビードール式じゃないのと、一人でひがんでしまった。それなのに「ごめんあそばせ、絶対にそんな気持でいったのじゃないから」とあわててあやまられると「し

かたがない、許してやるべし」とついってしまふところに、やはりミルクのミルクらしい点があるのかもしれない。

同じ九年生れの人でも、まるで三十過ぎたオバサンのように、もりもり仕事をして話をするのもオッカナイ人もいるし、私よりはるかに濃いミルクさんもいる。いずれにしてもみな何年か後にはりっぱな腕のデザイナーになることだろうに、ミルクの私はいつまでたっても何らかの囲いの中にいないとこぼれてしまうのかしらと思うと、いささか悲観的になつてきて、あすみなに会つたら、ぜひほかのアダ名にかえてもらおうと思つてゐる次第。

ついでに数名の連中のアダ名は、大島、月丘夢路、レスリー・キャロン、ソーセージ（ふたごのことです）、北海道、トチギ、ノッポ（五尺四寸五分なのです）と、まあ大した名前でもありません。

おことわり

キャノンシリーズは景山幽香子さんを予定しておりましたが、現像段階での失敗のため、今回は休ませていただきます。あしからずご了承願います。プロフィールも休みました。

Invention

○：七夕の夜、あいにくの雨だったが、今年はじめての委員会を開いた。委員のほか西川、佐々両嬢の出席があり相談に乗っていただいたのはありがたかった。今後委員会にはどしどし参加していただきたいものである。

○：在校生とも話し合った結果、合同合唱をやることに踏み切った。今のところ、学校行事の音楽会の日が九月下旬になりそうな気配で、当日は参加できない人が多いことは思うが、この夏の間、練習を通じて少しでも在校生とのつながりを深めることができればと望むものである。ヴォーカライズの会員でなくともお誘いくださればなおけっこうである。

○：やはり夏中のプランとして、どこかの高原へ出かけてのんびりしたいという声もある。実現できれば愉快だと思う。有志の方々を募りたい。参加を希望される方はご一報願いたい。

○：今月も限られたメンバーにとどまつたことは残念である。どんな種類のものでもいいから寄稿いただきたい。なお音楽映画評の第一回として、「美女の中の美女」の感想を求めている。ご協力願いたい。

(Z)

1957. 8. 23 (金)

VOCALIZE

No. 13

AKCヴォーカライズ機関紙

新 刊

旭丘高校音楽部史

「カデンツァ」

(昭和26年度～30年度)

AKCヴォーカライズ・発行

◇…予告以来半年を経過した「旭丘高校音楽部史(昭和二十六年～三十年代)」は、このたびようやく発行の運びとなった。内容はしばしばいつているとおりで、今後この種歴史が継続発行される場合を考え、今回のものの副題を「カデンツァ」とした。

◇…「一号室千夜一夜物語」以来のもので、統一を欠くうらみはあるが、各年度の部長の個性もうかがわれておもしろい。創立十年のAKCの歴史を、できれば初年度からずっとまとめたかったが、何ら組織を持たぬ四期生以上とは連絡もとれず、不完全に終ったことは遺憾にたえない。やむを得ぬことながら、あとがきで簡単に触れるにとどめた。

◇…この五年史を通読しての、みなさんの感想を承りたい。しるされなかった中にも忘れられぬエピソードがあろう。そんなものも紹介していただきたい。

「B6横判、46ページ。五十五部刷。AKCヴォーカライズ発行。会員配布」

AKC資料提供おねがい

「旭丘高校音楽部史・資料集」のための資料を集めている。つぎの資料を提供願えるとありがたい。

各年度行事(日時、場所、曲目、指揮者、伴奏者、結果、参加人員など)練習合唱曲(練習期間、指導者、曲目など)

在籍部員名簿(原則として一度以上音楽会AKC発表会に出演したものを対象とする。氏名、パート、住所、出身校、勤務先など)その他、いかなる資料でも可。

合同合唱参加者

合同合唱練習日に参加した人はつぎのとおり。(いずれも八月・在校生を除く)
3日(土) 桜山・西川・石井
2日(日) 石井・浅井
18日(日) 鈴木・桜山・石井・浅井

昭和28年度会費納入者

左記の人は昭和28年度分会費を受領しました。領収書にかえ公示します。

水野令子(八) 福岡二三子(七)
森本進(十) 景山幽香子(五)
浅井幸三(五)

随 想

音楽通ならぬ 音楽論

…音楽会・名鉄ホール・ミュージカル映画：

浅井 幸三

音楽人口なんて、そうむやみと多くなつたわけでもあるまいに、最近のこの音楽鑑賞サークルの乱立はなんということだろうか。名古屋でさえ、音楽友の会に始まって労音、芸文、なんとかやらと五つはあろう。友の会の二ステージはともかく、労音ともなれば五、六ステージは確実。

それがまた曲（音楽の楽曲のことではない）ことはなほだしい。片やポピュラー・ミュージック、片やポピュラー・コンサート。この違いは一体何かといつてもわからぬ人には通じぬ道理。なにしろ、この前のN響（六月）以来、東フィル、関響、ABC響と、軒並みに「運命」をやらかすんだから、頭の程度が知れようというものだ。もつとも、それをありがたがって聞きに行く方がもつと輪をかけているのかもしれないが、夏枯れどころかすごい入りと聞いている、そぞろ肌寒さを感じるのである。

最近では、クラシックの音楽会が満員にならないのが常識と思つていただけに、ポピュラー・プロなら大入りになるとあつては追隨したくなるのも無理からぬ。そこで、もう一度はじめに戻つて考えよう。一体音楽人口はふえたのだろうか……私はこう思う。いくらかはふえたかもしれないが、あとはクラシックとポピュラーが入りこんでの二重人口である、と。いわく、水上音楽会にダーク・ダックスを配したようなものである。

▽ ◇ △ ー ▽ ◇ △

名鉄ビルが完成した。地上十階という大したもの、名古屋駅付近にまたしても威容を加えたが、中にある名鉄ホールは何のためのものだろう。こけら落しが、これまた宝塚歌劇、まるつきり、毎日ホールのときと同じである。毎日ホールに比べ、いろいろな点ですぐれているのだが、うまく使い切れるかどうか。先人のテツを踏むなかれ。

× ○ × ○ × ○ ×

ミュージカル映画ほどあとに残らないものはあるまい。それを承知で出かけては、またかと悔むあたり凡夫の域を出ないけれど、たまにはいいのもあろうという期待があるだけに、いつも失敗を繰り返す。「女はそれを我慢できない」というのがあつた。双葉十三郎氏（映画評論家）が七十五点を与えているのは驚きだ。私はちゅうちょすることなく、メモに×印をつけた。×は四段階制の最下位であつた。

どうやら、ミュージカルを見るとときには芸術性を割引しなければならぬとは気づいたが、「ナポリの饗宴」の印象が残っている以上はだめ。シネスコ創設ころの「略奪された七人の花嫁」すら、りょうができないとあつては問題外である。ところが、新風はソ連から起つた。雪だけ映画として注目された「すべてを五分で」がそれ。幾多の音楽映画を生んだソ連映画界が作ったミュージカルである。本場のアメリカものを脅かすに十分な作品で楽しい。日本語発声版という試みもあつて、異色作といえようが、もう少し日本語版をひきしめたら、もつとよくなつていたことだろう。

東京だより

(その7)

景山 幽香子

君の名は？

七月下旬、学校から江ノ島片瀬海岸行き。朝から小雨だったけど、日やけしないからいいと、五十人ばかりで出かけました。五十人の中で、泳げるのはノッポと北海道とチビの私、三人だけで、あとは水着の展覧会とばかり、ぞろぞろ江ノ島に上陸してしまったらしく、三人が一泳ぎして上ったときにはだれもいないのです。

人が少なくなつて幸いと、いま話題のビーチハウスの屋上に行つて写真をとつてみると、オジイサンと千代之介に似た男性二人がとつてほしいという。断る理由も見つからなかったもので、二、三枚とり、タバコの箱の裏に住所と名前を書いてもらつたまではよかったのです。

「あの紙がない」と気がついたのは、帰りのバスに乗つて一時間もたつたころ。大騒ぎで三人寄つて何とかで思い出したのが「荻窪二丁目？番地、石田？」とまでわかつたのに、一人が「石

田」ではなく「白石」だったといい出し、てちよつともめました。

でき上がった写真は、小雨だったのによくとれて、友だちが「あら、お知り合い？千代之介でしょ」とうらやましそうな顔。彼らの話から想像すると、多分松竹のカメラマンらしいと北海道がいました。二人で荻窪派出所に行き、「まるでクイズだね」と笑う巡査と一緒に住所録を繰つたのに、どうしてもわからないのです。そのうち写真を取り出したら、急に大声で笑い出しているのに、「その角を曲つて二軒目」、名前も思い違いで「石高」。オジイサンの方は松竹の文芸部員なのだそうで、あまりガツカリもしなかったのに、「彼」の方は何と尺八の先生だったのです。

「映画の試写会の券ならいいのに、尺八の演奏会ではねーえ」北海道と二人、ガツカリしたような、尋ね人が案外早く見つかつてつまらないような、複雑な気持ちで帰りました。

お願い

昭和33年度分会費（二百円）の未納となつている方は、至急、浅井幸三（名古屋市長）東区×××）までお納めください。

招待席 C

パレナン

弦楽四重奏団

八月十三日・CBCホール

第三回「招待席C」は、世界第一線の弦楽四重奏団であり、とくに現代音楽を得意とするパレナン弦楽四重奏団を選んだ。

八月十三日、午後七時からCBCホールで開かれた演奏会に、二名の会員を招いたわけであるが、当初の計画（招待者一、編集部一）が都合でくずれたうえ、例のごとく招待者にも誤算があつて、つぎの二名となった。

招待者 桜山 崇子（七）

〃 永井 充（八）

ところが、編集部側が参加しなかったためか、あるいは真実忙しかったのかは知らぬが、いずれも感想を寄せられず、ただ「すばらしいアンサンブル、とくにバルトークのものがいい」という桜山さんの言を得たにとどまったのは、ひどく期待を裏切られた。決して多くは望まないが、単なるサービス・プランではないのだから、いまし協力してもらいたかつたと思う。せつかくの企画をフイにしたことは残念でならない。

プロフィール

石井 よし子 さん

(九期・委員)

AKCヴォーカライズには現役あるいはそれに近い人が少ない。そのせいかこの人もあまり認識されてはいないようだ。

デビューは昭和二十九年の音楽会になるはずだった。ソプラノの丹羽好江さんの伴奏者として、一年生にしてピアノで初舞台という筋書きだったのに、練習不足とみたのか、あるいは力量いまだ至らずと判断したのか、時の部長である自信家、桜山さんに音楽会前日の通しげいこで、その任を免ぜられてしまった。気の毒に、と思った私の前に、そのつぎに姿を見せたのは昭和三十五年度の音楽会。幕あきのコーラスにタクトを振っていた。翌年度の音楽会にも同じく指揮をし、すばらしいまとまりを聞かせてくれた。

お父さんが日本楽器の名古屋支店長。姉妹四人みな音楽が好きという恵まれた環境にあり、音楽的な感覚は鋭い。この四月、若林君と同時に愛知学芸大学音楽科に入学したが、その才と持ち味が

発揮されるのはむしろこれからだと思う。姉妹四人で合唱するときにはバスのパートを持つのだそうだが、最近高音が出るようになってきたという。安定した音感があるだけにアルト陣の中からこの人を見出すと心強く思うのだが、桜山さんもピアノよりこの方を買うべきではなかったろうか。

静岡から名古屋へ移り、南山学園から旭丘入りした。音楽部と放送部のかけ持ちで忙しそうだったが、音楽会のアナウンスには助かった。在校生のトップを切ったAKCヴォーカライズへ入ったのにほかにだれも入らないので驚いたらしい。いや気がさしたかどうか。委員になったというのに委員会はボイコット。と思うと、合同合唱の練習日にはちゃんと顔を出すし、はぐらかされているみたい。

昭和十三年七月十四日、いわゆる「パリ祭」の日に生れたが、そちらには目下のところ興味なく、シャンソンどころか、近ごろは日本歌曲に関心を深めているという。

「A」

キャンノンシリーズ (4)

石井 よし子さん

昭和三十三年八月十一日午前 旭丘高校にて
撮影。絞り∞ 1/250秒 UVフィルター、
コンドールスーパー、ベロナF3

Invention

〇：いいたいことはずいぶんあるが、このところくさり気味で、こゝとあらためていう気にもなれない合同合唱の失敗、招待席Cのつまずき、会員登録の不円滑など悲観材料が多すぎる。唯一の明るい事柄といえば、「旭丘高校音楽部史」を発行できたこと。これで昨年度の委員会の借りを返した形で、ほっとする。

〇：今月は景山さんからしか寄稿がなかった。よほど見合わせようかと思ったが、たとえ一つの原稿でも埋もらすのは残念であり、キャンノンシリーズもあったので無理を押した。穴埋め筆者大活躍といったいが、疲れすぎていて精彩がない。

〇：すなおに反省したい。会費の二百円は安いとはいえない。月十円もかかるヴォーカライズ(送料のみで八円)がおもしろいともいわない。けれども、少くとも私は採算を度外視してやってきたつもりだ。招待席C、キャンノンシリーズを加えても、まだ二百円の価値がないといわれるのなら、私はもう何もすることはない。黙殺されることが何よりも苦痛だ。率直に非をあげ、批判してもらいたい。ひとりなら私はやらない。

(Z)

1957. 9. 25 (水)

VOCALIZE

No. 14

AKCヴォーカライズ機関紙

旭丘高校音楽部

音楽会のご案内

旭丘高校の学校祭行事としての旭丘高校音楽部演奏会じゃAKCの歩みと共に回を重ね、今年は第十回の音楽会を迎えました。

女性部員の激減、ピアニストの不足等、多くの障害はありますが、混声合唱プロを中心に、久々の男声合唱も加え、左記のとおり音楽会を開くことになりました。合同合唱は実現できませんでした。日曜日のことでもあり、ぜひご来聴くださいますようご案内申し上げます。

記

一、日時 九月二十九日 (日)

午後一時三十分より

一、場所 旭丘高校講堂「鯨光館」

昭和三十三年九月二十五日

旭丘高校 音楽部

AKCヴォーカライズ

去就を明らかに…

十月十五日までに

AKCヴォーカライズ

AKCヴォーカライズのありかたについて、たびたび反省してきましたが、大を望むことの悪をさけ、真にAKCを通じてのつながりを求める人のみのつどいとして、たとえ絶えがちなつながりであっても、長く続けていきたいと信じます。もし、いままでの私どものささやかなる努力を認めていただけるものなら、おそらくとも十月中旬までには、AKCヴォーカライズを継続されるか、もしくは退会されるか、そのいずれかをはっきりとお知らせください。いままで、少しづつでもAKCヴォーカライズの恩恵を受けた人に、その意思表示もされないという礼儀を知らない人はいないものと信じます。

左記の人は前号以来会費を受領いたしました。ご協力を感謝します。

松沢暢夫 (六) 村田陽子 (七)

西川弥子 (七) 中尾桂二 (八)

招待席 C NHK交響楽団演奏会

を聴く

九月十六日・名古屋市公会堂

C 招待席

「招待席C」も四回目、ようやくその存在を固めてきたところである。秋のシーズンを迎えて、今月の「書堆積C」は、九月十六日名古屋市公会堂で行われたNHK交響楽団名古屋演奏会を取り上げた。

ロイブナーを指揮者に迎えてからNHK響は二度目の来演である。六月には「運命」出、そして今度は「悲愴」というわけ。さすがにNHKの人氣はすばらしく、補助席まで入れている商魂ぶりも加えて、おおむね満員。時間も名古屋では珍しく？割に正確である。そして演奏は、ロイブナーのみごとな指揮で、やはりシンフォニーは見るもの（おかしきはずはないよ）という感じを与えた。

メンバーもはじめて当初のプランどおり実現した。今回の招待者は、いず

参会者
招待者 村田 陽子（七）
水野 令子（八）
編集部 浅井 幸三（五）

れもいままでの予定者でありながら、都合で来られなかった人たちである。さて、その感想であるが、帰りを急ぐお嬢さま相手では、感想を語り合ういとまとてなく、その後手紙で寄せられたものを曲別にまとめてみたのがこれ、形式は原文を生かしたので不統一のままだが、ご了承願いたい。

◆スメタナ「モルダウ」（「わが祖国」から）
水野 祖国を愛する力強さが曲いっぱいにあふれ出ていた。しかしロイブナーが指揮したこの曲は、力強さがある中にも、なにかしらウインナワルツ的な甘い優雅さを失わないものであったと思う。今度の演奏曲目中、一番のできたたと私は思う。

村田 交響詩としては「前奏曲」と並んで大好きですので、もう初めからうっとりとしてしまいました。

浅井 この日の演奏会の小手調べといったところ。まず順調なすべり出しというべきか。

◆パガニーニ「ヴァイオリン協奏曲第一番」

水野 この曲はあまり聞かないが、これはあまり大したできとは思わなかった。ヴァイオリンとオーケストラの調和に欠け、NHKのコンサートマスターたる外山滋の演奏は、この難曲をひいた努力はかうが、しかし人を感動さすにはあまりにヴォリュームとテクニクの貧弱が目立ったと思う。

村田 外山滋のヴァイオリンは私はあまり好きな方ではありませんでした。よくわからないのですが、何だか技巧に走りすぎた感じがしたのです。もっともこれは、あの難曲といわれるもので、手の動きがはげしかったのを目の前で見ながらきいたので、よけいそう感じたのかもしれませんね。

浅井 外山はちよつと意気込みすぎたせいかな、ばりばりひいてしまつて曲想不十分。低音部になると急に音が変わるような点もあったが、自分としてはこの曲を一番期待していたので、その意味では決して不足はなかった。

◆チャイコフスキー「交響曲第六番、悲愴」
水野 最大の期待をかけていたのが、「モルダウ」に比してあまりよくなかった。あまりにも、このチャイコフスキーのあがきとも苦悩ともいいがたい感じを客観的に、いいかえれば少し冷静に表わしたのではないかと思う。（こんなことを

いうと、いかにも私はこのチャイコフスキーの微妙なる感情を解するようにとれるが、がしかし名演奏であつたと思う。そして私を感動せしめた演奏であつた。

村田 「悲愴」は最も期待していましたが、シンフォニー中でも一番好きなものでしたので、これも大いに楽しみました。特に第三、第四楽章がよかったと思いました。

浅井 演奏の美しさという点では出色だったかもしれないが、水野さんの抱いた不満もわからぬではない。この日最大の売り物プロとしてみた場合、その美しさをどこまで買うかといわれると、やはりためらう。

◆総体的にみて：

水野 ロイブナーの指揮する演奏全体に言い得ることは、ウインナワルツ的な、なめらかな美しさが、どの曲の底にも音なく流れているように感じられた。

村田 曲目が私の好きなものばかりだったことが、とても私をうれしくさせました。やはりナマできくと、もうラジオではつまらなくなってしまうます。

浅井 印象に残ったのは弦の美しさ、ロイブナーの指揮ぶり。

会員諸兄姉に訴える

浅井幸三

現在、ヴォーカライズの会員は三十三名を数える。ことしの三月の年度がわりに退会を申し出られた人が二、三あつたが、混乱をさけるため、三十二年度の回避を徴収するまでは、ということでは会員待遇となつていた。ところが、この八月に三十二年度の会費を納めてくれるように、と告示したのに、今日までわずかに九名。あとの人は一体どうしたのか、何の音さたもない。

黙認か黙殺かは知らぬが、何の連絡もしていただけなかった人に申し上げたい。AKCヴォーカライズは決して単なるサービス機関ではない。みすみす損をしてまで、いくつかの企画をつづけているのは、みなさんが支援し、期待していただけるからと信じていたからだ。ヴォーカライズを読まなくても、年に一度くらいはあいさつがあつて当然ではないだろうか。ヴォーカライズは決して慈善団体ではないことを知っていたきたい。好きでもない団体に無理に居残つても、つづけるなら会費を納めてもらいたいとは思わない。しかし、お義理にでも、

いたいし、やめるのなら一言断つてもらいたかった。事改めて手紙を書くのがめんどろなことは私にもわかるが、私とて物好きでこんなことをやっているのだと思われただけではやりきれない。いま一度、私は会員諸兄姉の善意に訴える。ヴォーカライズを育てるのはみんなの力だ。やめたい人はそう申し出てから去つていただきたい。毎月、頼みもしない「ヴォーカライズ」を送つてもらうのは気にならないだろうか。

残つた人に提案したい。お互いの近況を知らせ、ともに楽しくつどうために、月に一度ずつ集まりたい。「ヴォーカライズ」には毎月一人が一つずつニュースを載せ合いたい。こんなささいなことができないはずはないと思う。そして、これがお互いをつなぐものとなることだと信じるから。

キャノンシリーズ

番外 ボリショイ・バレエ 「バフチサライの泉」 第三幕より

キャノンIVSB ニッコール
135mm f3.5 コニパンSSS
絞り3.5 1/125秒 コニドールスーパー20 吉野F4
D-72
1957.3.14 新宿コマ劇場にて
永井 充 うつす

プロフィール

水野 令子 さん

(八期・前委員)

社会へ出て一年半、このごろ急に自分を失ったみたいである。以前にはなかったいらしたしさを示したり、どこことなく清新さを欠いたりする水野さんに、ある人は「水野さんは夢をなくした」と嘆いた。

A K Cでは一年生のころから囁望された大器ぶりを示した。アルトに人を得たという感じを多くの人が抱いたであろう。遠く私もその名を知った。

水野俊・桜山と二代続いた実力十分の部長のあとを継いで、水野さんがもったも残念に思ったのは、みずからピアノをひいて陣頭に立てないことであつたろう。同期生にも人を欠いて、クラブ運営に頭を痛めたであろうことも事実であつた。自分はその器でないといひながら、自分が投げ出したらという責任感の強さがこの人にはあつた。それが水野さんを支えていた。とまどいを表情にしながらも決して倒れない安定したもののがつちかわれていた。

強い個性を持ちながらもこの人には

夢があつた。ロマンティックな感情を育てていた。思いやりの深い人だつた。それが年齢をこえた安定さと充実した内面性を物語っていた。親しい人は「令子ちゃん」と呼び、お姉さんらしさを感じさせる人だといっていた。

が、何よりも私が買っていたのは、水野さんが迷いの中でも決して自分を失わなかったということだ。他人のさびしさに對しても十分に理解できる包容力の大きい人ということだ。迷いこそが水野さんを深め、それを克服した心が他人の支えにもなれた。

人はたえず成長しているという。高校時代の水野さんと違ってきても、何の不思議もないかもしれない。だから私は「夢をなくした」水野さんだとは思わない。決して以前と変わったとは思いたくないからでもあるが、学校時代の束縛から解放されたせいか、自分自身をちよつと見失われたようである。すぐ再認識されるであろう。七月二十四日生まれ。

[A]

キャノンシリーズ (5)

水野 令子さん

八月十八日 鶴舞公園にて pm5.00/110
 コニパンSS ミクロファイブ 絞5.6
 1/60秒 ベロナF2 FD105

Invention

○：凡夫のあさましさというべきか、今月も語気鋭くぶちまけたみたいで、いかにも気恥ずかしい。しかし、一面ではだれがこの苦しみを共感をもって理解してくれるのかと思うと、あまりにも心細い気持だ。

○：高校を出、社会の空気に当たると昔を忘れるものだろうか。それにしても、この会がこんなにまで基盤のもろいものとは、愚かにもいままで気づかなかった。個人的にはみない人だと思ひ、どの人にも一様に好意を抱いてきた自分だったが、一つの組織として、ヴォーカライズの立場に立ったとき、そむかれ無視されたことにこの上なく屈辱を感じる。そんな私をだれよりも自分がかわいそうだと思うのだ。

○：今月限りで態度不明の人に対するA K Cヴォーカライズの呼びかけ、あるいはささいなサービスの行為は打ち切らせていただく。報いられることの少なすぎた一部に人に、会長としての立場からこのさいおわび申し上げておきたい。「招待席C」を続けた一委員、「キャノンシリーズ」で尽した一委員の好意を、お人よしとばかりに冷笑するに終らせたくはなかった……。

(Z)

1957.10.25(金)

VOCALIZE

No.15

AKCヴォーカライズ機関紙

昭和三十一年度

会員登録者

(10月23日現在)

紙上を通じ、たびたび会員登録の態度を明らかにしていたくださう願ひしておりましたが、現在に至るもご返事のない方がおり、残念に存じます。当然ご継続願えるところは、わかつてはいても、やはり一言その旨連絡願ひますよう要望しておきます。今日までに左記の人々の会員登録を確認いたしました。ご助力を感謝いたします。

7期	6期	5期
村田 陽子 (名古屋) 委	増田 容子 (大阪)	浅井 幸三 (名古屋) 会
福岡 三子 (名古屋) 副	松沢 暢夫 (名古屋)	景山 幽香子 (東京)
西川 弥子 (名古屋)	水野 俊彦 (東京)	棚村 啓子 (名古屋)
中尾 桂二 (春日井)	桜山 崇子 (東京)	
佐々 知子 (名古屋)		

8期 永井 充 (東京)

松島 久子 (名古屋)

水野 令子 (名古屋)

園部 靖子 (名古屋)

森本 進 (守山)

10期

また左記の人々は連絡がありませんでした。留会いただけると存じ、いま一度照会いたします。

5期 毛利 豊 (坂出)

6期 原 まき子 (西宮)

7期 小川 恵津子 (名古屋)

8期 上前 佳子 (名古屋) 委

9期 石井 よし子 (名古屋) 委

10期 上前 昌三郎 (名古屋)

大橋 佑子 (名古屋)

その他の人々は脱会されたものとして、今後AKCヴォーカライズからの連絡は一切中止いたします。なお、委員会構成は今年度中は従来どおりとし、来年度より人員ふりあてを考慮したいと存じますので、ご了承ください。

招待席 **C**

原 智恵子

ピアノ リサイタル
十月四日・名鉄ホール**C** 招待席

A K C ヴォーカライズの第五回「招待席C」は、ピアノ開きを兼ねて行われた名鉄ホール最初の音楽会、原智恵子のピアノ・リサイタルに、二名の会員を招いた。十月四日、金曜日の午後六時半からの演奏会である。

今回の主目的は、新しく設けられた名鉄ホールの音楽会場としてのふんいきを味わってもらおうというもので、ピアノ・リサイタルはすでに二回目（田中希代子）でこりている。だから、原智恵子の演奏内容よりも、ホールの音響などに注意してもらった。

それにしても不入りであった。いくら最近ぱっとしない原智恵子とはいえ、日本では指折りのピアニスト、さびしい限りであった。しかし、その中に今回の「招待席C」の関係者のほか、若林延昌（五）、松沢暢夫・伊藤総子（六）、水野令子・三輪佳子（八）というヴォーカライズゆかりの人々がそろい、多に意気投合したあたりは、最近になく愉快な夕べでもあった。

参会者

招待者	西川 弥子（七）
編集部	佐々 知子（七） 浅井 幸三（五）

演奏会後、三人で少しばかり話し合ったが、ピアノ・リサイタル批評のむずかしさを再び味わい、結論を出さずに別れた。で、今回は西川弥子さんの代表感想となった。

西川 弥子

「ホールについて」落ちついた感じで、音響もよく、リサイタルにはまずまず適当な広さだと思えます。ただ場所柄、堂々たるビルディングにもかかわらず、汽車が通ると地響きがしてくるのには閉口しました。またホールの外部の人数が聞えてくるのも気になりました。（会場右手のあたりで、あるいは放送室か？ 〃乙）

【演奏について】「謝肉祭」（シューマ

ン）変化に富み、ユーモアも多分に出ていました。

「子供の情景」（ドビュッシー）プログラムは一番だったと思います。私が常に子供に接しているからということではなく、汚れない、清純な、そして愛らしいこの曲そのままでした。

「即興曲・変ロ長調」（シューベルト）も大いに楽しめましたが、最初の「幻想曲・ニ短調」（モーツァルト）は佐々さんが例のごとくなかなか現われないので、気をもんでいるうちに始まってしまい、よく覚えていません。

今度のプロにはショパンが全然ないので、もの足りない気持で出かけましたが、やはりリストを変えし、「小犬のワルツ」になりました。しかし何だかあつけなく終ったようで、出かけるときの気分の三分の一度度を満たしてくれただけでした。アンコールの「ハンガリー狂詩曲」（リスト）は堂々とひけ、貫録十分でした。

全体的に優雅であか抜けのした楽しい演奏会でしたが、そのかわり特に感動したというのありませんでした。彼女の演奏ぶりは気品があり、やはり国際人という感が強く、また非常に親しみやすい感じも受けました。

AKC

昭和32年度音楽会をきいて

致命的な練習不足

はじめに

昭和三十二年旭丘高校音楽部発表会（通算十回目）は九月二十九日午後二時十五分から講堂で開かれた。AKC生れてすでに十年、恒例の音楽会とはいえ思うに早い時の流れではある。その記念すべき日、顔をみせたヴォーカライズ会員を代表し、かつはまた昨年の例にならって、ここにAKC音楽会の報告記をつづる次第である。

全般的に

旭丘では九月の中旬に学力テストを行なうことが年中プランとなつたよう
で、音楽会を直後に控え、整調に最も力を注がねばならぬこの時期に、二週間も練習に空白を生ずることは大きなマイナスだったようである。これが恒例となるとすれば、当然それを打開するに足る練習スケジュールを事前に立てなければならぬ。その点、ことし

は全然その対応策がなかったようで、練習不足をおおうことはできなかった。気の毒ではあるが、こうした点を十分に承知していなかったクラブ運営にまず苦言しておきたい。

ステージに立った人を見ると、女声約二十名、男声十三名の人員が数えられた。しかし私が練習時に見かけたのは、いつも女声が十名程度であつた。これでは十分な和を得られる道理がなく、合唱団員でありながら、当然すんだはずの曲を知らないものもあるありさまでは、やはり多くは望めない。熱心な人たち（とくに男声部）にもこれでは報いられない。それに一年生がソプラノ、二年生がアルトと偏在しているとあつては、バランスを欠くことはなほだしい。声質、声域の点はもちろん考えねばならぬが、このパート配置はおかしすぎる。何か策はないものだろうか。

毎回指摘することだが、曲目を決めるにはもっと細心であつてほしかった。詳細はプログラム（六面）を見てもらうとして、ことしの合唱曲目には不満を感じ

る人が多いことと思う。これは「小曲主義」というものではない。安易な、手つとり早い曲を持ってきたいうにすぎない。

舞台けいこが足りない。照明についても疑問がある。これは事前に十分準備ができていなかったからであろうが、自分の学校の講堂でする音楽会らしくない不手ぎわである。

コーラス

合唱は「質より量」というより「数」でこなし。おそらくAKC音楽会始まつて以来の数であろう。混声七（校歌を含む）男声十、女声八の計二十五曲をやつてのけた器用さは実にあつぱれというほかない。が、主として女声は二部、男声は三部の合唱である。人員の点もあるが、三部、四部というぐらいにはならなかったものであろうか。

男声合唱が一番よかった。これは二十六年以来六年ぶりの復活で、心強いものを感じさせる。割に力のそつたメンバーなのだろう。もっとも、前に述べた曲目では異論があるし、パートを自分勝手に選ばせたのか、変な部分もあったが、まずは久々の男声合唱として買える。曲ではフォスターがよかった。

反対に感心しなかったのは女声合唱。一番の欠陥が練習不足、そしてその二がソプラノの低調さ。一体だれが歌っているのかわからないほどさびしいものだった。

混声合唱では明るい曲だけが及第。というのは楽しんで歌っていたからで、こうした気分が大切なのだ。

男声合唱も女声合唱も、同じように横に一直列というのはどういうものだろう。気がきかないというか、とにかく二十名からのものがずらりと一直列になっ

ていて、よくも指揮者は黙っているものだ。指揮者といえば後藤君の指揮のテクニク派、初めてにしては格好がですぎていくくらい。といっても決してほめたことにはならないわけで、内面的なものをつかみ得た人は一人もなかった。むしろ私としては佐藤さんのように、まじめに拍子をとってしてくれる人の指揮に好感を抱いた。

ソリスト

バリトンの海野君はわずか一曲だったが、すんだ声といい、そして声量の点でもまったくすばしかった。一年生だというが。この日のソリスト中随

一の拾いものだった。有望な新人の登場に心から拍手を送りたいと思った。(しかし、その後音楽部をやめたということである。惜しい人だ)

東堂さんについては前日の練習を聞いて私は最も期待していた。しかし、やはり実力十分のできではなかった。あるいは昨年の長谷川さんのように……と思っていたのだが、広い講堂ではやはり感じが変ってしまうのだろう。「ラジオ歌謡」的な歌い手かもしれないが、日本歌曲に対する心づかいにはたたるべきものがあつたとしたい。

森本君、後藤君は個人的には批評にくい立場であるが、率直にいつて実力以下のものしか出なかった。二人ともベテランといっているのだから、もっと何かあると思ったのだが、その期待は無理であつたのかもしれない。森本君らしさは「海に來れ」で見せたが、後藤君の持味は「鉾をおさめて」においても發揮されなかった。いわんや「夢のごとく」においては……。

ピアノリスト

ピアノは小出さんがうまくひきこなしていた。神藤さんはまだまだこれからの人であろう。そのまじめさは二人とも十

分現われていたが、言い合わせたように楽譜を持って出たのには訳があるのだろうか。どうせ見ないのだから(もつとも神藤さんはページをはねていたが)ない方がよかった。

おわりに

今回もまた悪い点ばかり指摘したようである。当事者の方には申し訳ないが、毎年同じ失敗をくり返すのはさげられない宿命としたら、私の酷評も拾いどころがないだろう。

だれか指導に来てくれないかしら、と佐藤さんはいっていたが、そうした心持でも練習の不活発さはぬぐえなかったのだ。部員がみなそろって合唱できるように、楽しい練習、実のあるクラブにはならないものであろうか。ゆっくり練習のできるときには、もっとまとまった曲をやってもらいたいものである。

(Z)

キャノンシリーズ (6)

三輪佳子さん (八)

キャノン IV SB キャノンレンズ 50mm F1.8
ユニパン SS 絞り 8 1/125秒 D-72
吉野 F3 八月十八日鶴舞公園
(おわび) 三輪さんは退会なされましたので
プロフィールは掲載いたしません。

東京だより

(その8)

景山 幽香子

電車

寄宿生が、通学する人はうらやましいといえます。なぜかといいますと、電車やバスに乗ると、何か変った事件や、もしかしたらロマンスでも生まれるのじゃないか、と思うらしいのです。でも、そうは問屋が卸さず、スリ騒ぎ一つ起ることなく目的地に着いてしまい、きょうも無事に過ぎたと安心するのがせきの山。これはと目をつけたお互いが、何分発の何両目のどのあたりと約束でもない限り、ほとんど不可能に近いことなのです。もし慣れ慣れしく近づく相手でもあれば、スリかカミソリ魔のたぐいでしょう。大多数の殿方はお固くて、正確な時計と正確な目下の最大の問題なのでしょうから。

重いスーツケースを下げて立っている私の前にすわっていたおばさんがいました。

「S子ちゃん、もっとこっちに寄って、オバチャンに腰かけさせてあげなさい」

(おばさん、私はまだミスでございますよ)

電話

ベルリン・フィルの券を買うのに、渋谷のある電話ボックスの前に並んでいたとき。

BOX 1 「それでよー、おれがよー、悪いのならよー、話もわかるけどよー、今度ばかりはアイツだぜ。なっちゃねーなー、まったくよー」

(アロハを着た学生風の男二人。なんとまあ接尾語の多いことよ)

BOX 2 「え、うん？ そうそう、いいえ、そうなのよ、えー、えー、ねえー、まあどうしましょう、え、ねー、いかが、では、ごめんあさつせ」

(和服を召した奥様。ごめんあさつせは、あそぼせを早くいうと、こう聞えるのですが、一体何の話なのでしょうね)

BOX 3 「ねえ、あんた、私のいうことがわかる？ 彼ね、S子とアレだったの。でもS子がA助と一緒にになったのね。当てつけにB子をつれてS子のとこへ乗りこんだのがこじれて、四角が五角になって……」

(まったくお忙しい。五角が六角になって、この世の男女すべてが恋人になってしまいました)

Invention

○：エミール・ギレリスの演奏はど、最近賞賛をもって迎えられたものはないだろう。批評家も一致してたたえた。オイストラッフ以来のことだという。が、名古屋の演奏会の入りは、やはり七分の程度だったのは何としたことだろう。

○：今秋いま一つの呼び物、ベルリン・フィルハーモニーの来日も間近い。前夜から並んで切符を求めるといふ何年かぶりの風景もみられるほど、前評判はすばらしい。演奏会をききに行かれる人は、ヴォーカライズに感想をお寄せいただきたい。

○：キャノンシリーズについて一言。今回の三輪さんはすでに八月末の企画であり、その後正式に退会された三輪さんのご意思にそえなかったのは残念である。水野令子さんにもご迷惑をおかけすることと思うが、その間の事情をくみお許しください。

○：次招待席Cの予告をしたら、というご提言があった。できればそうしたいのだが、日時の関係で不可能なことが多く、しかもヴォーカライズの締切の関係で、下旬に行われる音楽会は対象にできないのが実情である。決まれば「かさくるま」でも知らせたい。

(Z)

1957.9.29	昭和 32 年度		
pm 2.15	旭丘高校音楽部発表会		旭丘高校講堂
	第 一 部		
1 混声合唱	旅 商 人 愉快なデュエット あ か が り	ベートーベン 高 木 東 六 日 本 古 謡	指揮 後藤 成价 伴奏 佐藤 治江
2 バリトン独唱	懐しき愛の歌	モ ロ イ	海野 勝 伴奏 清水 早苗
3 女声合唱	輪 舞 母なるヴォルガ アルファベット ロ マ ン ス	クロアチア民謡 ロシア民謡 モーツアルト モーツアルト	指揮 渡辺 義彦 伴奏 滝 経子
4 バリトン独唱	夢のごとく 銚をおさめて	フ ロ ト ー 中 山 晋 平	後藤 成价 伴奏 神藤 敏子
5 男声合唱	ペ チ カ かすみか雲か ひらいたひらいた 夏 は 来 ぬ あわて床屋	山 田 耕 筈 小 学 唱 歌 日 本 古 謡 小 学 唱 歌 山 田 耕 筈	指揮 森本 進
6 ピアノ独奏	花 の 歌	ラ ン ゲ	神藤 敏子
	第 二 部		
1 テノール独唱	さらばナポリ 海 に 来 れ	ナポリ民謡 ナポリ民謡	森本 進 伴奏 勝田三保子
2 女声合唱	流れる雲によせて 秋 晩秋のリズム チリビリビン	ヘ イ ス ルービンスタイン バンスロン ペスタロッツァ	指揮 佐藤 治江 伴奏 高橋 洋子
3 ソプラノ独唱	秋がゆくよ 白 月 わが心はや	加 藤 省 吾 本 居 長 世	東堂紀美子 伴奏 佐藤 治江
4 男声合唱	バイカル湖のほitori オールド・ブラック・ジョー おおスザンナ ヴォルガの舟歌 よろこびの歌	ロシア民謡 フォスター フォスター ロシア民謡 ベートーベン	指揮 後藤 成价
5 ピアノ独奏	即興曲第四番	シューベルト	小出 幸子
6 混声合唱	動 物 園 稜 威 家 路	ハ イ ド ン ベートーベン 黒 人 霊 歌	指揮 後藤 成价 伴奏 安藤三八子

1957.12.2(月)

VOCALIZE

No. 16

AKCヴォーカライズ機関紙

白いもの

月の中から飛んでくる
白い小鳥を見ましたか。

花の中から咲いてくる
白いにほひを見ましたか。

水の中から湧いてくる
白い狭霧を見ましたか。

歌の中から澄んでくる
白いひびきを見ましたか。

夢の中からさめてくる
白い光を見ましたか。

かわいい嬢さん、泣いたとき
白い小鳥をみましたか。

北原 白秋
「月と胡桃」

より

第二回 うたのつどい

クリスマス会の会

予告

旭丘高校音楽部・AKCヴォーカライズ共催の「第二回クリスマス・うたのつどい」を行うことに決定いたしました。

昨年度、一部の人々のご協力で盛会となり、幸い好評を受けることができたので、今年はお一そうの成果を収めるべく心しております。

詳細はいずれお知らせいたしますが、左記のように日時を内定しましたので、ぜひご都合のうえご参加いただきますようお願いいたします。

記

一、日時 12月22日(日)午後

一、場所 旭丘高校 音楽室

一、会費 茶菓代(五十円～百円)

贈り物(五十円～百円)

※未定※

十二月二日

旭丘高校音楽部
AKCヴォーカライズ

招待席 C

アラ・ソレンコワ

独唱会

十一月二十七日・毎日ホール

C 招待席

コロラトゥーラ・ソプラノの歌手が日本を訪れるのは二十年ぶりだという。その意味でも、二十九歳という若きソ連からの客、アラ・ソレンコワへの期待は大きかった。本格的なコロラトゥーラ・ソプラノのいない（といっては失礼か）日本の聴衆に与えたものは何であつたろうか。

第六回の「招待席C」は、そのアラ・ソレンコワ独唱会を選んだ。十一月二十七日、名古屋毎日ホールでのことである。さすがに女性ファンの姿が多い。このホールは新しい点だけがとりえで、音楽会場としては文句のつけたいところが多い。補助席なしで、九百名にも満たぬ小さな会場であるのに、ところどころに空席がみられたのはさびしい。ソレンコワは二部（ロシア曲）では、服装もソ連娘ふうという心づかい、一曲

参会者
招待者 大橋 裕子（十）
〃 園部 靖子（十）
編集部 浅井 幸三（五）

ごとの拍手にこたえる姿といい、見せるべきは見せたという感じ。ただ、CBCの集音マイクは目ざわりで、気分をそこなっていた。

学力テストを五日後に控えて、お二人の招待者に感想を求めるのは酷かと思つたが、ご協力いただけてありがたかった。アラ・ソレンコワに対しても、やはり批評はいろいろあろう。世評は別として、ここでは大橋・園部両嬢の感想を読んでいただくことにする。

水晶のような声

ロシア人の哀調

何と表現すればよいものだろうか、その形容する言葉を見出すことができないし、また、私はそのすべを知らない。今までに生の音楽に接する機会が比較的小なかつた私です。いわんやコロラトゥーラ・ソプラノなどにおいておや……。学問的、専門的な感じ方なんてわかるものではないかもしれませんが、これが感想といえる

ものかどうか、それさえも疑問に思われますが。

「水晶のような声」何度となく聞き、また目にした言葉ですが、私は初めてその意味するところを理解することができたような気がします。美しく、そしてすきとおるようなあの声……そのすばらしさは何ともいえません。実際に聞いた人でなければわからない感情かもしれません。広い音域と音色に富んだ声、歌に対する深い情熱と、あの豊かな表情、それにソレンコワ女史独特の魅力的な声とは、全く私の心を奪ってしまいました。

高く、細い声はとてもすてきでした。最後の「うぐいす」は女史の得意とする歌の一つのようですが、これはコロラトゥーラによさ、すばらしさを十分に味わせてくれましたし、二つのロシア民謡は、あの国のもつ特異な感情とふんい気とがうまくもし出されていたと思われまふ。超人的とでもいえそうなものでしたが、明るく、軽やかな物よりも、哀調を帯びた曲の方に、より心をひかれるものを感じたのは、女史がロシア人だからでしょうか。

（園部 靖子）

秘めておきたい感激

圧巻は「うぐいす」

とにかくすばらしかった。私は独唱会が終わってから、この感激をだれにも話したくないと思った。自分だけの胸深くに、いつまでも温めておきたいと思った。しかし、今、この感想文を書くにあたって、私は今もこの気持は変らないが、一応私の感じたままを書いてみることにしよう。

まず第一部では、「リンダのアリア」(ドニゼッティ)「アヴェ・マリア」(シューベルト)「セレナーデ」(グノー)が特によかった。「リンダのアリア」ではコロラトゥーラ・ソプラノにふさわしく、非常に巧みな技巧と、高音の玉のような美しい声に、すっかり魅せられて、ふっと、あれは楽器の音かしらと思うこともあった。しかし、柔らかく、深みのある声が次第に直接胸にしみとおるようで、そこにはほのぼのとした「声」の暖かさが感じられて、さすがにと思った。「アヴェ・マリア」「セレナーデ」では、小さい声にすばらしい柔らかさと響きがあって、曲のもつ、「清らかさ」甘美さを心憎いまでもみごとに表現していた。

第二部は、ロシア民謡が主で、一部に比べていつそう堂々とした歌い方であった。中でも「うぐいす」が特によく、うぐいすの鳴き声を独特の技巧で美しく表現し、よくもあれだけの声が出せるものと、ただ驚嘆するのみであった。全体的にみて、ホールはあまり感心でなかったが、その他は一つ不足のない独唱会であった。

(大橋 裕子)

第十二回

中部合唱コンクール

(二月十日・名古屋金山体育館)

「職場の部」 ①国鉄長野工場男声合唱団

②国鉄浜松工場グリーン

コーラス ③静岡 男声

「高校の部」 ①金沢二水高校音楽部 ②石川 混声

②金沢董台高校合唱クラブ

③豊橋東高校音楽部 ④愛知 混声

「大学の部」 ①名古屋大学男声合唱団 ②愛知 男声

②南山大学メール・クワイ

ヤー ③愛知 男声 ③金沢大学合唱団

④石川 混声

「一般の部」 ①東海メールクワイヤー

②愛知 男声 ②名古屋合唱団 ③愛知 混声

③グリーン・エコー合唱団 ④愛知 混声

⑤アポロ男声合唱団

昭和三十三年

全日本合唱コンクール

(二月二十五日・大阪府立体育館)

職場の部

①住友金属混声合唱団 (関西)

②日本国有鉄道合唱団 (関西)

③国鉄郡山工場合唱団 (東北)

④安川電機合唱団 (西部)

⑤国鉄長野工場男声合唱団 (中部)

⑥北炭夕張合唱団 (北海道)

高校の部

①関学高等部グリークラブ (関西)

②福岡女学院合唱団 (西部)

③水戸二高音楽クラブ (関西)

④山形北校音楽部 (東北)

⑤金沢二水高校音楽部 (中部)

⑥夕張北校音楽部 (北海道)

大学の部

①同志社グリークラブ (関西)

②玉川学園合唱団 (関西)

③宮城学院女子大グリークラブ (東北)

④名古屋大学男声合唱団 (中部)

⑤西南学院グリークラブ (西部)

⑥北海道大合唱団 (北海道)

一般の部

①クローバー・クラブ (関西)

②H・G・メンネルコール (関西)

③F・M・C・混声合唱団 (東北)

④福岡合唱団 (西部)

⑤東海メールクワイヤー (中部)

⑥アポロ男声合唱団 (北海道)

ベルリンファイル

一体化した指揮者とオケ

中尾 桂二

今年の正月に新聞でベルリンファイルの来日を知ってから、どんな無理をしても行こうと期待していたその日が来ました。ついに世界第一のオーケストラを、指揮者を見、そして聞いた。この感激は一生忘れられないでしょう。席はY-13 あまりよくはなかったのですが、それでもやつと手に入れた券の中では最上でした。

さて、きょうは三曲聞いたのですが、第一曲目の「第七」は昨年ロスアンゼルス交響楽団のとき聞きました。やはり指揮者の差でしょうか、前者のがずっとはなやかな演奏だったのに比べ、ベルリンでは作曲された時代を映し出しているこの曲をうまく解釈していたようです。特に、有名な第二楽章は圧巻でした。それ以上は何もいえませんが、「モルダウ」はまるで押しよせ、そして打ち返す波のように、堂々とした演奏を聞けました。これなど曲自体より、カラヤンの指揮するその腕と上身において最もうまく表現されていたと評したいくらいです。

第三曲「タンホイザー」もまた、beyond

description としかいえません。あのでたしのおちついた管弦楽部のうまさぐつとひきたって、あとの部分も何のこたわりもなくすらすたと出たといった感じがしました。フォルテッシモになると、どの曲目でも同じですが、そのボリュームを最大限に發揮してわれわれを満足させてくれました。

全体を通してみると、一階のせいか、ヴァイオリン部がひびきすぎた部分がほんの少しあったように感じたところがありませんでした。が、フルートがとびぬけて上手なのが目立ちました。

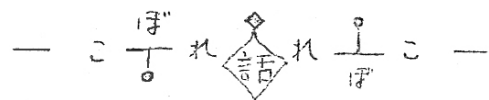
指揮者カラヤンの偉大さは想像以上で、独特のタクトのふり方、全身での指揮、今にもとび上りそうな両足、腕をふり回したり、横にのぼしたり、上半身を前へぐつとたおしたり、カラヤンの全身からまるで音楽がほとばしり出るようでした。しかしそれかといって、それがわざとらしさや、アメリカ人のようなショウマンシップが全然感じられないのです。

このオーケストラは、全く指揮者とオケストラが一体化していて、音楽を完全に理解しているということが、演奏中によくわかりました。カラヤンはもちろん、団員のほとんどが暗譜で、演奏中にスコアをめくる音もほとんど聞えず、こ

れでなければだめだと思いました。いかにもミュージシャンタイプの人の楽しいつどいといったベルリンファイルの演奏は、親しみを感じさせるもので、ふんい気自体も格別よかったです。日曜日の立体放送でまた感激を新たにすると残して、最初に多分数年は聞けないベルリンファイルの演奏会も、こうしてついに終わってしまいました。

(十一月七日)

ひとり交響楽団



パデレウスキーが南アフリカのプレトリアで演奏会をした翌日、友人がその地の新聞を見せてくれた。「単にピアノしかひくことのできぬ男が入場料を一ポンドもとるとは！先日来演した音楽家は、クラリネット、ヴァイオリン、トライアングル、太鼓、アコーディオンがひけて、一シリングしか入場料をとらなかったではないか」

東京だより

(その9)

景山 幽香子

ベルリンのぞ記

久しぶりの音楽会、しろうとの私には、たまたまうつつりと聞きほれて、批評がましいものを考える余地なし。ホルンの音が何の心配をする事もなく、安心して聞くことができただけでもすばらしい。邦人の音楽会ではたいいていこの楽器が不安定なので、弦よりもずっと気をとられてしまうのである。

初めのプログラムでは、「画家マチス」と「英雄」だったのに、当日変更で「未完成」と「英雄」になり、いささかガツカリしたのだが、「未完成」の始めの音がすばらしかったので、まあまあというところ。この曲を演奏会で聞くのはこれで四度目である。最初に聞いたのは名古屋にいたころ。女流指揮者が正確に十二拍子のタクトを振るので、きわにいた大学生がフーッとため息をついたのを覚えている。全然おもしろくなかった。それ以来いやになつていた曲なのに、先日やはいいいなと感じたのである。

「英雄」で豪快な感じを出したあと、アンコールに「G線上のアリア」を演奏して、狂ったように拍手する人々の気持ちを和らげたのは演出効果十分だったようだ。あの拍手、周囲の人たちがバネ仕掛けのようにたたいてるのに、一人知らぬ顔しているのも悪いと思って一緒に拍手するのだけれど、アンコール一曲はいとして、二曲も三曲も要求するのはどうだろうか。ともすると、聞かなければ損だとばかりに立ち上がって叫んでいる人を見ると、そんなことも考えてみるのである。

五回の東京公演のうち、ほんとうに聞きたいと思ったのは五日のブラームスの交響曲一番と四番だった。でも四百枚しか売り出さないと言うのに四百三十番ころに並んでいたのでは、こちらの思い通りの券が買えるはずもない。それでもどうにかこうにか手に入れることができて、四時間も風の中に立っていたことなんかわすれてしまった。聞けば、A券がプレミア付きで三万円になっていたとか。

それにしても、日比谷公会堂のようなオンボロ会場を使わないで、もっと設備のいい会場であつたら、どんなにか好演奏だったかもしれない。春に焼けたといので、全部建て直しかと喜んでいたの

に、でき上がったのは舞台だけ。幕が焼けたというだけらしい。

国立劇場の敷地がやつと大宮御所のなかにできるそう。建物はいつのことやら。でき上がった暁にはどんな大音楽会が開かれることだろうか。

AKCニュース

◇：旭丘高校音楽部では十月二十八日昭和三十三年度の役員選挙を行い、次の人事を決めた。

部長 安井 邦夫(一年)

副部長 神藤 敏子(一年)

正式発令は明春四月になる。安井新部長は十二代目、水野俊彦君以来六代目で男声部から部長が出た。

◇：レコード観賞をクラブ活動の中に取り入れようと、AKCでは目下計画を進めている。学校の観賞施設は教材用で、クラブ活動には貸与しないというところから、クラブで電蓄をというのがそのねらいのようである。主力になつてゐるのは現在の一年生。月にわずかずつでも積み立てて、来年度のクラブ予算も加えてぜひにと意気込んでいる。事の成否はともかく、なかなか意欲的といえる。

旭丘高校音楽部

合唱コンクール寸論

Ⅱ 中部と全日本Ⅱ

浅井 幸三

合唱界の年中最大行事「全日本合唱コンクール」が終った。(中部・全日本の成績は三面に掲載) 目につく点を拾ってみよう。

今年もまた、あまりにも大きい地域差をまざまざとみせつけられた。会場が大阪という地元の利を割引しても、やはり関西の優位はゆるがないに違いない。とかく批判を浴びた関西流合唱が、全面的に東京勢を押えたのである。以下、関東、東北、西部、中部、北海道とまるで判で押したよう。名古屋での大会当時、六位にあえいでいた中部勢がやっと北海道と入れかわっただけで、こうした地域差は短時日にはどうしようもないらしい。

大学の部の関学が、関西代表を同志社に奪われ、戦後十二連勝という記録を達成できなかったのは惜しまれる。全国大会にさえ出ていれば、その公算が大だっただけに……。関学に一步先んじた同志社は、OBによるクロージャー・クラブが三連勝を飾って、このところ意気盛んである。

よく聞かれる論議であるが、いまの四部門制は一応除外して、男声、女声、混声という種別はできないものであろうか。実施に困難はあるかもしれないが、高校では女声が幅をきかせ、大学では男声偏重ということにならぬためにも、またもつと混声合唱を育成する上からも考えられていいことではないだろうか。

久々に中部合唱コンクールを聞いて新しい勢力の興りつつあることが心強く思われた。代表になったとはいえ、メールクワイヤーの実力も以前よりはるかに劣っていた。てつきり名古屋合唱団(混)に代表を譲ったと思ったのに、またしても一位とは驚いた。グリーンエコーも着実に力を伸ばしているし、新興の名古屋男声もこれからが楽しみ。

大学の部で、名大男声は依然強みを持つていた。今後これを追うのは二位の南山大ではなく、三位に入った金沢大だと思ふ。高校の部を押えた二水、董台ではぐくまれた人々が主力となるであろう金沢大の前途は洋々たるものである。このまま推移すれば、中部合唱界はおそらく北陸勢によって、少なくとも高校大学の両部は王座を奪われ放しということになると私は予測する。

Invention

○：今回はいろいろと手違いがあったのでおわびしておきたい。①キャノンシリーズ、プロフィールを休んだこと②招待席Cの日時の都合と私的な事情で発行日が遅れたこと③原稿を依頼するのを怠ったこと、などである。次号は発行日も正常に戻したいし、その他の面でも会員諸兄姉の協力で充実をはかりたい。

○：「招待席C」を音楽会に限ることもないだろう、という意見もあったが、できれば音楽会の方針は貫きたい。ただ、「招待席C」に限らず、音楽会や映画などの感想を寄せていただけるとうれしいのだが。音楽映画も時折みられるこのごろ「間奏曲」「菩提樹」などの感想を聞かせていただきたい。

○：クリスマスなどのつどいを今年も行うことにした。詳細は近く決めるが、できるだけ多くの人の参加を望みたい。卒業生と在校生をつなぐ会であり、また日ごろ会う機会のない人たちのためのつどいでもある。ヴォーカライズの会員に限定はされていないので、知った人たちを誘っていたきたい。

○：次回の招待席Cは十二月四日の東響チャイコフスキーの夕、委員会を兼ねての行事となっている。

(Z)

1957.12.25(水)

VOCALIZE

No. 17

AKCヴォーカライズ機関紙

「うたのつどい」について お礼のことば

二十二日行いました「第二回うたのつどい」を盛会のうちに終えることができたのは、参加者各位のご好意とご支援によるもので、主催者側としてお礼を申し上げます。

とくに会場の準備などにご尽力をいただいた在校生の方には深く感謝いたす次第であります。

またご多忙の折、数少ない卒業生とし終始和やかに会の運営にご協力下さった松沢、上前両君、音楽部及び学校側との折衝にお骨折りいただいた森本君の三会員に対してもお礼申し上げます。

今後卒業生と在校生とのつながりを深め、さらに親睦の実をあげるため、会員諸兄弟のご援助とふるってのご参加をあわせてお願い申し上げます。

十二月二十五日

AKCヴォーカライズ

33年度委員会

一月のおもな音楽会

(いずれも名古屋市)

◇ステファンスカ・ピアノ独奏会(10,14,15,16日・公会堂) 〓労音例会〓

◇シコロニコワ・ヴァイオリン独奏会(13日・公会堂) 〓労音例会〓

◇貝谷バレエ団「白鳥の湖」公演(11,12日・公会堂) 〓友の会例会〓

◇四家文子独唱会(11日・毎日ホール)

◇平岡養一木琴独奏会(17日・公会堂) 〓芸文例会〓

〔音楽映画〕「菩提樹」(朝日会館)

：確実な資料を得ておりませんので、落ちているものもあるとおもいます。しかし大体の紹介という程度にはなると存じます。ご利用下さい。

「ヴォーカライズ」第二号

目次

招待席C「東響チャイコフスキーの夕」

(浅井 幸三) 2

コーラス(近況短信)…13会員… 3

東京だより10「号外」(景山幽香子) 4

▼「キャノンシリーズ」「プロフィール」は休みました。

▼「うたのつどい」のさい、楽譜および名簿(在校生・卒業生)を配布。

招待席 C

東京交響楽団

「チャイコフスキーの夕」

十二月四日・名古屋市公会堂

招待席 C

この秋のシーズン、名古屋を訪れたオーケストラ派、はからずもヴァイオリン協奏曲の競演となった形である。N響と外山滋、日本フィルと巖本真理、そして十二月の「招待席C」に選んだ東京交響楽団とは諏訪根自子の顔合わせ。

CBCテレビ放送開始一周年記念行事のこのプロは、「チャイコフスキーの夕べ」と銘打ったものであり、会場もぎつしり埋まったが、そのふんい気は近來になく不快なもの。そのせいか、演奏内容も著しく見劣りがした。

委員ばかりの参加を予定していたところ、中尾君が流感でたおれ、そのうえ券が戻ったのが前日とあっては代役をさがす余裕もなく、あわててゲストを招く破目となった。で、責任上、今回は編集部員登場というわけ。

参会者
招待者 福岡二三子（七）
ゲスト 安藤 誉子（中日）
編集部 浅井 幸三（五）

期待を裏切った諏訪
全体に疲労感抜けず

正直にいうと、この日の私はどうも体の調子がよくなかった。なぜかひどく疲れが残っていて、睡眠不足を感じる日であつたからだ。……けれども、その私を「眠くつてたまらない」と嘆かせた最大の原因は、この夜の東京交響楽団の無気力な演奏にあつたと広言してはばからない。的はずれという人があるなら、その人に私の不明をわびてもいい。しかし、それほどに私を満足させなかったのである。

チャイコフスキーの調べはあくまでも美しく、悲哀を内にこめながらもその流れには人をゆさぶるものがある。ところが、最初の交響曲第四番からしてすでに没つたのだから、その美しい流れを求めるすべもなく、ましてや曲の底にこめられたチャイコフスキーの表情をとらえるどころではなかった。ひどくバランスを失した演奏に、まず失望したものだ。

もつとひどかったのが次のヴァイオリン協奏曲、まったく期待を裏切られた。独奏者、諏訪根自子のねばっこい、くせのある演奏はからみつくような不快さと歯切れの悪いもたれた感じで、とかく流れようとするオーケストラと合わないのは道理である。オケまでがそのペースに巻き込まれ次第次第に沈みきってしまった、そこには甘さもなければ悲しみもなかった。病氣回復の諏訪根自子の再起を喜んだ一人として、この夜のできは何としてもわびしかつた。外山滋、巖本真理に続いた今シーズンでは、二人に二歩も三歩も譲つてしまった。はや諏訪根自子の時代は過去のものとなったのだろう。さびしい音楽会であつた。

このチャイコフスキーの夕べが、ようやくバレエ音楽集で露命を保ったとは、いかにしても悲しい結果といわなければならぬ。疲れていたのは私だけではない、むしろ東響のメンバーの方がよけい疲れていた。手なれたバレエ音楽に返つて、やっと聴衆の耳をつなぎ止めたというのでは、二時間半もの演奏も労多くして報いられないで終つたと評するよりない。

(浅井 幸三)

CHORUS

十二月中旬「クリスマスうたのつどい」のさい返信されたものです。ご協力ありがとうございます。…順不同…

景山幽香子（五）

「病は気から」先日胃下垂と診断されたのが別の病院ではなんでもないといわれとんだ誤診でした。何だからだが軽くなったような気がして、病は気からというのもほんとうらしいので、やれやれというところです。

中尾 桂二（七）

「行く年来る年」ニワトリを虐待したおぼえはないのに、ことしは全く私にとつては厄年であった。正月早々カゼをひき、暮になってまた流感と、合計二十五日ほどミスミス浪費してしまつた。来年は犬年である。ペットの秋田犬を大いに可愛がってやるつもりである。

森本 進（十）

只今受験勉強中？私でも入れそうな大学をさがします。

松沢 暢夫（六）

「近況」雑用ばかりで目のまわるように忙しい。人に頼めぬ自分だけしかわからぬことだからタチがよくありません。

「予定」来年卒業の予定。

「抱負」不明。ケセラセラ。

増田 容子（六）

公…何とか売り出で、それはそれは忙しく、サボルひまが全然ありません。私…ピアノの練習とあみものと読書（乱読）思考（ろくな事考えない）で身体が三つ位ほしいくらいい。

園部 靖子（十）

12月22日夕方の汽車にて糸崎の実家まで帰ります。新年を迎え、学校の始まる前に帰宅する予定。今年も冬休みは出来るだけ勉強に時間を使いたいと…（あきらかに予定）

村田 陽子（七）

「重労働」幼稚園も年末で一番忙しくて帰りはいつも八時近くになってしまいますので、ただ疲れてねることばかり考えています。とに角幼稚園の先生というのは重労働です。まだクリスマス、年始の予定をたてるどころじゃありません。

西川 弥子（七）

「冬休みに期待」クリスマスを前にひかえ最も忙しい時、といっても商店と違って何も入って来ません。ただ疲れるのみでも楽しみはあります。23日が遊戯会、すぐお休みに入って来年七日迄です。冬休みだけは久しぶりにのんびりと過ごしたいと思っています。

松島 久子（八）

「休み返上」卒論の締切を目前に控え

少々慌てぎみ。21日より一ヶ月間冬休みに入りますが、今年は教職免許獲得のため二週間中学校の教生に出ねばならず、折角の休みも返上というわけ。

永井 充（八）

「就職試験」頭が痛いです。学校は21日まであり仕事の関係で帰名は24日頃になります。CBCテレビ映画社とスエヒロ写真工業をうけることにしましたが、どうも試験は名古屋のようで試験日の発表がありません。

福岡二三子（七）

「カゼ」最近やつと人間並みにカゼをひきましたが、毎日何だか身体の調子がおかしく今家にて療養中です。

水野 俊彦（六）

「12月芸大行事」12月5日二時・六時定期演奏会（日比谷）①ベートーヴェン第六②プーランク二台のピアノと管弦楽の為の協奏曲（P中山靖子・伊達純）③フォーレ、レクイエム
半世紀にわたるメサイア公演 20日日比谷、21日横浜、23日立教大。帰名は24日頃。

桜山 崇子（七）

13日・コンセールfオペラ、22日・二期会オペラ、26日・日本フィル「第九」18、23日忘年会、21、28日出張教授、だから29日頃帰ります。

東京だより

(その10.)

景山 幽香子

号外

クリスマスになると澄んだ金属性の固い音が出るベルが鳴り、大晦日には除夜の鐘が鳴って、いともおごそかな感じを受けて、忙しい忙しいと文句を言いながらも、この鐘で暮の楽しさを味わっています。西洋の鐘は瞬間的な音の美しさを尊び、日本古来の鐘はついたあとのひびきを賞でるものだそうです。

さて、改まって鐘の話など持ち出しはしましたが、実はそれから連想したことがあるものですから、前置きが長くなりました。……鐘の遠縁みたいな小さな鈴、それも号外の鈴を思い出しました。

大阪にいたころ、福井の地震とか、焼津の火事とか、その他臨時ニュースの題材になるような事件はすべて号外になって、新聞社から飛び出した人たちが、ジャンジャンリンリン鈴を鳴らして、各家に投げこんでいったものです。ところが東京に来てから一度も号

外を見たことがないし、鈴も鳴らないので、それほどの事件も起らないからなのだと思います。

今年の夏でしたか、陽が落ちてから外出していますと、暗やみに立って何やらさしだす人がいて、チリンと鈴を鳴らしました。受けとると、「ハイ、五円いただきます」

東京では号外は売るものなんですって。軒並みに「号外はいかが」と小走りに行く姿を見て、商魂たくましいのは大阪じやなくて東京だわ、と思わずつぶやきました。

腰のまわりに五、六個ぶら下げて走っていくときのリンリンという景気のいい音、たとえ、いやな出来事があつたときの号外としても、あの音を聞くのは何となくなつかしい気がします。

Kobore

Banashi

いやな子供

五歳のモーツアルトがしきりに楽譜を書いているので、父親がとりあげて見ると、ピアノコンチェルトの譜だった。「これはまちがいに、よく書けているが、こんなにむずかしくては、ひける人がいないよ」と言うのと、モーツアルト「そりゃあ、そうですよ、ピアノコンチェルトですもの。よほどうまい人だつて、練習しなけりゃひけませんよ」

Invention

○：「うたのつどい」を無事に終え今年もあと週日で暮れる。多忙な毎日に区切りをつけて、ゆっくりと自分を振り返る時間を持ちたいものだ。「うたのつどい」にはわずか三名の参加しかなかったのは残念だった。何よりも在校生に申し訳なかったといまだに身を細くする気持である。

○：アンケートへのご協力ありがとうございます。常々私どもの反省している点をついたもの、労を多として励ましてくださるものなど、その中で、会そのものについて「AKC出身者全体のものであるべきだ」「同期生がいけないので、他の人の話には興味を引かれない」などの問題も出た。次号で取り上げてお答えしたい。みなさんのご意見が伺えるとうれしい。

○：機関紙についての意見も出るべきは出たと思われる。しかし、やはり会員みんなの近況を知ることが望む声が強い。それにはみんなが月に一度何か書いてくださることだ。お力添え願いたい。その他一部の意見からさっそく採用させていただいたものがある。これから改善に努力するつもりなのでご期待いただきたい。苦言も歓迎。

○：よいお年をお迎えになりますよう。

(Z)

1958. 1. 25 (土)

VOCALIZE

No. 18

AKCヴォーカライズ機関紙

吹雪の晩

北原 白秋

吹雪の晩です、夜ふけです。
どこかで夜鴨が啼いてます。
燈もチラチラ見えてます。

私は見えます、待つてます、
何だかそはそは待たれます。
内では時計も鳴つてます。

鈴です、鳴ります、きこえます、
あれあれ、櫓です、もう来ます。
いえいえ、風です、吹雪です。

それでも見えます、待つてます。
何かが来るよな気がします。
遠くで夜鴨が啼いてます。

住所変更
原 まき子 (六)

西宮市×××
〓町名変更のため〓

名古屋地区:

2月の御案内

…主要なもののみ

…音楽会…

◇オペラ「マルタ」(2月2日・毎日

ホール) 名古屋オペラ・アカデミー公演

◇名古屋労音二月例会(23日から・

公会堂) ABC交響楽団

。名古屋市公会堂使用停止(1月24日・

2月22日、場内外改装のため) によ

り、次の各例会は三月になります。

◇名古屋芸文二月例会(3月4日・公会堂)

東京コラリアーズ

◇音楽友の会二月例会(6,7日・公会堂)

辻久子バイオリン演奏会

…映画…

◇独「菩提樹」(1月25日から・朝日会館)

◇米「絹の靴下」(2月・ミリオン座)

◇米「愛情の花咲く樹」(グランド劇場)

誕生日を迎える人々

・棚村 啓子(五) 10年2月16日 23歳

・増田 容子(六) 11年2月9日 22歳

・福岡二三子(七) 12年2月2日 21歳

招待席 C

ジャン・フルニエ（バイオリン）
ジネット・ダワイヤン（ピアノ）

ジョイント・リサイタル

一月二十一日・毎日ホール

C 招待席

グレコに代って訪日した、ジャンソンのジャクリヌ・フランソワ、アンリ、デケール夫妻がパリのふん囲気をもたらしたとすれば、時を同じくして日本へやってきたフランス文化使節のジャン・フルニエ（バイオリン）、ジネット・ドワイヤン（ピアノ）夫妻もまたフランスの香気を与えてくれたといえよう。

ジョイント・リサイタルは日本ではあまり買われないようだが、一月二十一日、名古屋毎日ホールでの演奏会でも二人はすばらしいアンサンブルを示し、久々に楽しい音楽会の空気にひたらせてくれた。

第八回「招待席C」は珍しくも男性ばかりが集まったの催しとなった。しかも旧ろうのクリスマスのつどいで騒いだ仲間、演奏会後地下街某店で小憩しな

がら、その道のベテラン松沢暢君を中心に感想などを語り合った。短い時間にあれこれと私的な話もしなければならなかったもので、感想としては大ざっぱになった。主役は松沢君、聞き手の編集者を横目に、上前君はもっぱら沈黙を保っていた。

以下はその鼎談会の寸景：

浅井 今夜は棚村さんに来てもらってバイオリンの方を受け持ってもらい、松沢君にはピアノという魂胆だったのが失敗しました。便りは松沢君一人というわけですから、まあ、大ざっぱにやりましょう。どうでした？

松沢 大ざっぱにいうと、ドワイヤンの方がフルニエよりよかったと思う。フルニエは高い音も低い音ものすごくきれいな音を出すかと思うと、空気の抜けたような音を出してみたり、安定しないというのか……。演奏技巧はもちろんわからないけど。

浅井 確かにドワイヤンは期待以上によかった。同感だね。

上前 ぼくもやはりピアノの方を買うね。しかしバイオリンの方もあとになるほどよくなったと思う。

浅井 バイオリンはむしろアンコールの曲の方にフルニエの持味が出ていたのではないだろうか。フルニエは音の伸びなんかとてもいいと思うんだが、ドワイヤンに力負けしたみたいだ。

松沢 大体、ドワイヤンの方が拍手が多かったということでも、ドワイヤンの方がよかったことがわかるね。

浅井 とすると、どの曲がいちばんよかったろう？

松沢 ピアノだったらショパンのスケルツォだね。圧倒的だ。ドビュッシイはわからないから……。

浅井 どうも知らないのばかりやられた形で、アンコールの曲もわからないんじゃないね。バイオリンではどうかな。バッハのシャコンヌ（無伴奏）なんかどう思った？

松沢 それよりも最初のモーツァルトのソナタの方がいいんじゃないかな。

上前 あとになってからだんだん調子が出てきたというわけじゃ無いけれど、終りへ行くほど（ブロッホ「ニグーン」。サン・サーンス「序奏とロンド・カプリ

参会者

招待者 松沢 暢夫（六）
〃 上前昌三郎（九）
編集部 浅井 幸三（五）

チオーソ」などよかったね

浅井 フルニエが主力のプログラムだが、ドワイヤンに重点を置いたらもっと拍手がでただろうね。

松沢 きょうは聴衆の態度がとてもよかったと思う。あれだけ拍手があれば十分だし、アンコールもあそこでやめたし……、アンコールもよくやってくれたと思う。あれ以上ひっぱり出したら失礼に当る。

浅井 そう、気持のいい音楽会だったね。空席が少なくて拍手が多いと言うのはいいものだ。

松沢 この前の豊増昇のときにくらべると十倍ぐらいい拍手があったね。

浅井 ところでどうだろう、二人は実力的にいつて日本だったらA級かB級か……。

松沢 (意味深長に) さあ、どうかな。

浅井 比較にくいというのか、とにかく日本の演奏家はなかなかじっくり聞かせてくれないからね。

……簡単すぎたけど、もうやめよう。こっちは話したり書いたり、コーヒーがさめてしまうよ。どうもお疲れさま。

(一月二十一日夜・駅雨地下ツゞキ)

「ヴォーカライズへの疑問」

に答える

横のつながりを強め

連合体としての機能を

A K Cヴォーカライズの効能をいまさらここで並べようとは思いません。ただ、この前のアンケートの折、提示された問題について謙虚に反省してみたいと思うのです。

いま、会員として毎月会紙を発送している人はわずか二十三名にすぎません。五期生から十期までの間に、これだけの会員しか得られなかったことについては、この上なく遺憾です。A K C出身者の一期生以降すべてを含めた会が必要ではないか、というお説にはまったく同感ですが、それができなかったのこうした組織になったことを忘れられないのめいなめません。当初、A K C同窓会と称したときは、音楽部の協力で機関紙だけは一回出しましたが、財政的な裏づけのない以上送料もないわけで、結局すぐにつぶれてしまったことです。それでは、というので会費を徴収するようになると参加する人は全く限定され、しかも年々減少するという状態を続けているのはご承知の通りでしょう。

A K Cヴォーカライズは、A K C出身者をつなぐ唯一の、そして最後のとりでとして結成したものです。同窓会組織が不能である以上、せめて一号室につどつた少数のものだけでも、手をつなぎ合っているというので生れたものです。しかしこの会自体が発展性に欠け、魅力に乏しいために毎年幾人かの有力な支援者を失っていることはさびしいことといえましょう。

同期生がいないのであとは知らない人ばかりといった感じで親しみがなく、ともいわれました。それも否定しません。私も一人でも多くの人に加わってもらいたいと努めてきたつもりです。が、一からの呼びかけにはおのずから限度があり、本来ならば各期ごとにまとまった同好会の連合体なのが望ましいヴォーカライズの基盤を弱くしているものと考えられます。

もっとも、前提からして、こうした組織を認めない人もあり、そこに伸び悩みの原因もあるのですけれど、まず身近なところから結束を固めるよう努力したいものです。私たちの望みは大きかったが理解者が少なく実現しなかったようです。しかしこれ以上は後退したくないと念じています。

(浅井)

「ヴォーカライズ」への

アンケート

主として 招待席C、キャノン・シリーズ について(32年12月)

◇：現在の企画、大体けっこう。でも時々変ったことが掲載されるといいと思う。投稿が少なくて大へんとは思わが。(七期)

◇：キャノン・シリーズもぜひ続けてほしい。六期以下の人々が全然わからないので(五)

◇：企画はよいと思う。しかし全員の一層の協力があればなおよくなりはないだろう。会員各々の近況をもっと知らせ合えるかどうかにかと思(八)

◇：会員がみな投稿できるような一定のタイトルをつけた記事を募集するとよい。たとえば、「天城山心中をどう思うか」てなものである。(七)

◇：その月に行われる音楽会、音楽映画の紹介を載せたらいいんじゃないか。(十)

◇：掲載してほしいもの……皆のお話。(六)

◇：「招待席C」はヴォーカライズの効果を最もよく出しておりよいことと思うが、会費だけではやっていけない

のではない。「キャノンシリーズ」はひと通りやってほしい。AKCのニュースも、いろいろと知りたい。一号室の空気はどんなに変わったか。(七)

◇：「招待席C」「キャノンシリーズ」など大へんよい企画と思う。現行のままぜひとも続けていたきたい。会員の皆さんの近況報告を機関紙を通じてしていただきたい。(八)

◇：「招待席C」は時間などの都合でむずかしいだろうが、個人の意見、感想より数人による座談会形式の方がよいのではない。(六)

◇：二つの企画とも趣向の変ったおもしろいものだと思う。(十)

◇：会員のせい、今のところページ数も少なく、投稿者もあまりないよう。しかし、「ヴォーカライズ」が、これだけ続いて発行できるということでは、関係者諸氏に敬意を表する。(五)

原稿募集

○合唱団めぐり：練習方法、活動状況など、所属する合唱団についての報告記をお寄せ下さい、

○プロフィール：誕生日に寄せて、人物紹介、会員交換批評など歓迎。

○音楽会、映画の感想

○近況(短いものでけっこう) 地区、職場、学校のたより

Invention

○：岩波文庫に収められた「日本童謡集」を近ごろ屈指の好ましい書としてお勧めしたい。童謡を年代を追って収めたものだが、さえ、楽譜もあつて楽しいし、俗悪曲横行の世にうれしい贈りものであった。

○：ジャクリーヌ・フランソワ来日でシャンソン熱上昇をあてこんで二冊のシャンソン特集が発行された。一つは「音楽の友」の別冊で「シャンソン読本」、いま一つは「シャンソン」の別冊「シャンソンの楽しみ」である。商魂をみせた雑誌社のせり合いであった。

○：音楽之友社が「合唱講座」全三巻を出し始めた。いまごろこの企画ではおそすぎるくらいだが、合唱ブームに久しいし、よき指針を与えてくれるかもしれない。○：今月はごろんのおり殺風景なものになってしまった。やはり原稿のないときは苦しい。景山さんはからだのぐあいが悪くて「東京だより」を休まれた。次号からは「キャノンシリーズ」とは切り離して「プロフィール」だけでも掲載したいと思っている。

○：新年早々(旧冬からの持越し) かげで寝込み、景気の悪いスタートを切ったが、なお改善すべくヴォーカライズのため働くつもり。